

教育・研究年報

令和元年度

徳島文理大学
人間生活学部

ま え が き

令和元年度人間生活学部教育・研究年報を刊行いたします。ご覧下さいまして、年報のありかた、あるいは教員の活動に対し、ご指導を賜りますことを願っております。

人間生活学部は6学科(学生定員400名)からなり、各学科が連携し、人間生活学の魅力的な教育・研究を展開させています。学科構成の多様性が人間生活学部の特徴・メリットです。しかし、平成29年度には日本高等教育評価機構による認証評価において定員充足率の向上が重大な課題であると指摘を受け、平成30年度と令和元年度の2年間、広報活動を強化させるとともに、教育の質の向上に懸命の努力をしてきました。

このような課題を念頭におきまして、令和元年度を振り返り、多くの出来事の中から各学科の活動や特徴を紹介しましょう。

まず人間生活学科から紹介します。教育内容は、生活経営学、食物学、被服学、住居学、保育・保健・養護学の各分野から構成されています。心理学科と共に養護教諭の養成に工夫を重ね、模擬保健室を活用し、より实际的・具体的な実習・教育を展開しました。人間生活学科は「人生100年時代における生活の質向上」を探究する学科として、社会と生活の変化に対応して活躍する人材を育成します。

食物栄養学科では、管理栄養士国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本にして、冬期講習等、国家試験合格率向上のための工夫を重ねてきました。さらに、栄養や保健、衛生の高度な学識と技術をもち、「人間栄養学」を実践できる管理栄養士を養成し、生活習慣病を予防する栄養教諭の養成にも力を注ぎました。これらの目的のために、栄養学、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶことができます。

児童学科では、国公立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等の就職合格率も向上しました。また学生による合唱の発表等、音楽活動にも力を入れました。小学校教諭1種免許状などを取得するとともに、教育情報処理を学び、実践現場でコンピュータ類を有効に活用できる高度な教育的実践力の形成につとめ、小学校で外国の身近な生活や文化に親しませる基礎的な英会話の指導ができるようにします。

メディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、メディアテクノロジーを活用して問題を解決する能力を養成します。総合的に「情報領域」「調査分析領域」「コンテンツ領域」などを学ぶことができるという他大学にはない特色を活かしつつ、美波町の人形浄瑠璃「赤松座」の復活など地域社会活性化プロジェクトに積極的に参加しました。

建築デザイン学科では、3次元のモノ作りである3Dプリンタの応用やドローンなど最先端の技術を積極的に取り入れる一方、美波町における古民家のリノベーションや吉野川市の高垣調査など地域に密着した活動を継続しました。そして人間生活学部にも属するメリットを生かし、人と生活と環境を大切に、建築の3要素である「強・用・美」をそなえた建築・インテリアを創造する人材を育成しています。

心理学科は公認心理師法の施行(平成29年9月)で注目を集めています。中四国における臨床心理士養成校のパイオニアとしての永年の経験を元に、公認心理師養成に向けてカリキュラム等の整備をしました。教員自身が、第1回公認心理師試験(平成30年9月)に合格して着実に教育体制を整えています。心の問題は学校教育現場においても重要で、心理学を学び養護教諭をめざす人材の育成にも力を入れています。

このように、各学科が多くの課題に果敢に挑戦していることの一部をお分かりいただけたと思います。日本の大学を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、本学125周年に向けて、上に記したような各学科の取組を一層発展させていけば、我々は本学の明るい未来を必ず見出していくことができると確信しています。

人間生活学部長 森田孝夫

令和元年度 人間生活学部自己点検・自己評価報告書

目次

まえがき 人間生活学部長 森田 孝夫

第1章	人間生活学部の概要	
第1節	学部の沿革と基本理念	1
第2節	学部の構成	3
第3節	学部運営組織（各種委員会の構成）	5
第4節	学部各種委員会活動報告	8
第2章	学科スタンダード	
第1節	人間生活学科	36
第2節	食物栄養学科	37
第3節	児童学科	38
第4節	メディアデザイン学科	39
第5節	建築デザイン学科	40
第6節	心理学科	41
第3章	卒業生満足度評価	
第1節	大学全体	42
第2節	人間生活学部	43
第3節	卒業生満足度評価アンケートの結果に対する総評	43
第4章	学生の授業評価アンケート	
第1節	大学全体	44
第2節	人間生活学部	45
第3節	令和元年度後期授業評価アンケートの結果に対する総評	46
第5章	研究授業報告	
第1節	スケジュール	48
第2節	報告書	49
第6章	教員活動状況の調査	
第1節	人間生活学科	56
第2節	食物栄養学科	64
第3節	児童学科	92
第4節	メディアデザイン学科	120
第5節	建築デザイン学科	130
第6節	心理学科	142
	編集後記	160

第1章 人間生活学部の概要

第1節 学部の沿革と基本理念

(1) 沿革

本学園は明治 28 (1895) 年、学祖村崎サイ先生が「女も独り立ちできねばならぬ」と唱え、自立協同を建学の精神として、私立裁縫専修学校を創立したことに始まるが、その後、この専修学校が時代の変化・要請と共に拡大発展し、昭和 36 (1961) 年には徳島女子短期大学 (家政科)、次いで昭和 41 (1966) 年に徳島女子大学 (家政学部) が設置された。現在の人間生活学部はこうした歴史的発展のうえに成り立っているものである。

〔沿革の概要〕

昭和 41 (1966) 年	徳島女子大学家政学部家政学科設置
昭和 42 (1967) 年	管理栄養士専攻設置 管理栄養士専攻設置が管理栄養士養成施設として認可
昭和 45 (1970) 年	児童学科設置
昭和 49 (1974) 年	被服学科設置 (昭和 61 年廃止)
平成 5 (1993) 年	家政学専攻科設置
平成 6 (1994) 年	生活環境情報学科設置
平成 9 (1997) 年	大学院家政学研究科食物学専攻・生活環境情報学専攻修士課程設置
平成 10 (1998) 年	大学院家政学研究科に児童学専攻修士課程設置 人間発達学科設置 大学院家政学研究科に人間生活学専攻博士後期課程設置 大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コースが臨床心理士養成機関に指定
平成 12 (2000) 年	児童学科が保育士養成施設として指定認可
平成 14 (2002) 年	家政学部を人間生活学部に変更 家政学科管理栄養士専攻を食物栄養学科に、生活環境情報学科を生活情報学科と住居学科に改組転換 家政学科家政学専攻を人間生活学科に変更
平成 15 (2002) 年	人間福祉学科設置 人間発達学科を心理学科に変更
平成 18 (2006) 年	生活情報学科をメディアデザイン学科に変更
平成 19 (2007) 年	人間福祉学科を人間福祉学部人間福祉学科として独立
平成 21 (2009) 年	住居学科を建築デザイン学科に変更

(2) 基本理念

家政学部は昭和 41 年に設置されたが、その後、科学技術の急速な進歩や産業構造の高度化に伴って、社会構造も複雑化し、その結果、教育の大衆化、生活様式や価値観の多様化、情報化、少子高齢化、さらには心の問題、ヒューマンリレーションの欠如といった諸々の問題が生じてきて、人間生活が大きく変貌してきた。

このような人間生活をめぐる社会的諸事象の変化に即応可能な人材を育成するため、従前のような衣食住を中心とする伝統的な家政学の分野を超えた新しい学部の在り方や内容を発展的・総合的に再検討する必要が生じてきた。そこで、これまでの歴史的・社会的役割とその成果は継承しつつ、有意な教育・研究体制を確立して、より一層の社会的貢献を果たすべく、平成 14 年に家政学部を人間生活学部として新しくスタートさせ、今日に至っている。

現在、本学部は、それぞれに特色ある目的・内容を持った 6 学科と専攻科より構成

されている。このいずれもが人間の「生」と深く関わったものである。人間は環境（文化的・社会的・自然的環境等）との相互作用によって規定され得る生命体であるが、この観点から言えば、人間の「生」の問題は、取りも直さず生命の保持、健康の維持・促進、人間としての成長と発達、人間らしい生活の営みと行動の在り方、対人関係、文化の習得とその創造などと常に不可分の関係にある。しかし、そこには幾多の解決されねばならない課題も存在しているため、本学部では人間の自立と環境との共生という観点から、これらの課題解決に向けて常に科学し、新しいビジョンの下に創造していくことのできる人材、従って社会の新しい分野を担うことのできる人材の育成を目指している。それだけに本学部は諸科学、つまり人文科学、自然科学、社会科学等が有機的に連関するところに成り立つ特色ある学部であると言える。人間の開発・人間の自立の問題も、こうした関連科学の探究によってこそ保障されるものであると考えられる。

ところで、現代は「知識基盤社会」と言われ、知の伝達、知の創造と発見、知の応用が大切であるとされるが、快適で健全なる人間生活の創造を考えると、「知識基盤社会」にふさわしい人間の教育をこそ重視していかなければならない。このため、本学部では建学の精神に立脚して、次のような人間の育成をめざすものである。

第一は、豊かな人間性を身に付けた人材の育成である。教育の目的は、まさしく人格の完成にある。このため、充実した教育・研究を通じて、倫理観に裏付けられた知性と技能を有する個性豊かな品位ある人間の育成を目指す。このことは「人間の自立」、「知性と人間性の尊重」における根本精神でもある。

第二には、高度な専門的知識・技能の習得を目指すことにある。基礎・基本の習得と幅広い教養教育の確立を前提として、知の時代にふさわしい先端的な知識・技能を広い視野から身に付けた人材、つまり社会から常に必要とされ、しかも地域社会においてのみならず、国際的にも貢献できる実践的な専門家の養成をねらいとする。

第三には、意欲的で創造的な人間教育である。学生のやる気・意欲を喚起し、夢と情熱を持って新しい事柄や未知の分野に柔軟な思考力で挑戦していく教育、従って知識・技能の応用力を高めつつ、学問的なパイオニア精神を培い、豊かな創造力を身に付ける教育を重視する。変化に対応できる人間教育である。

第2節 学部の構成

現在、人間生活学部は1～4学年をあわせて1,137名(5月1日現在)の学生を擁し、それぞれに特色ある人間生活、食物栄養、児童、メディアデザイン、建築デザイン、心理の6学科と専攻科から構成された学内最大の学部である。

ここで各学科の特性について要約的に述べれば、まず**人間生活学科**では、人間生活に関する衣食住のみならず、育児・保健・家族、さらには家庭経済や消費、環境問題、地域防災などを含めた内容を総合的に学びつつ、より健全なる人間の生き方を総合的に追究していく。学部のなかでは最も伝統ある学科である。**食物栄養学科**は、化学や生物などの内容を把握し、同時に人体の構造特性や機能等を理解したうえで、生活習慣病の予防をも視野に入れながら、人間の生命や健康に関わる食物栄養の特性などを実験等によって深く追究していく学科である。このため、管理栄養士養成を主たる目的としている。**児童学科**は、総合的な人間力を身につけた教育・保育の専門家を養成する学科である。乳幼児期から児童期に於いて、子どもの健全なる成長・発展と確かな学力を保障し、かつ、生きる力を育むことのできる専門的力量と豊かな指導性を養う学科である。

さらに**メディアデザイン学科**は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、ソフトウェアの開発・ネットワークの構築技術、さらにはインスタラクショナルデザインなどを幅広く習得して、常に進展し続けるIT社会に即応可能な人材育成に力点を置いている。平成19年1月のメディアセンターの完成により、最先端の情報施設・設備が整えられたことから、今後さらなる教育・研究の充実が期待される学科である。**建築デザイン学科**は、21世紀のよりよい住まいの創造、即ち住生活空間をまちづくりや環境共生、インテリアなどの観点から、常にフレッシュな感覚を持って、総合的・実践的に指導する学科である。**心理学科**は、国家資格・公認心理師法の施行で社会の注目を集め、複雑化する社会ならびに学校教育現場においてクローズアップされている心の問題に正面から取り組み、心のメカニズムや対人関係のあり方、人間の考え方(思考方法)、そして、カウンセリングの方法などを具体的・実践的に学び、メンタルヘルスに関わる専門的知識・技能を習得している。

専攻科については、平成17年度から従来の家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更し、これに伴って家政学専攻も人間生活学専攻となり、現在では児童学専攻と人間生活学専攻の2専攻となっている。これらの専攻科では、学部の内容を踏まえた上で、さらに内容の深化・発展を図ることになる。

なお、これらの学科(専攻科含む)で取得可能な免許・資格及び定員については以下の別表のとおりである。

(別表)

学 科 名	取得可能な免許状・資格	入学定員	編入定員
人間生活学科	教員免許高一種・中一種（家庭・保健）、養護教諭一種、フードスペシャリスト、社会福祉主事の任用資格、医療秘書	40	※
食物栄養学科	管理栄養士国家試験受験資格（実務経験不要）、栄養士、栄養指導員・食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格、教員免許高一種・中一種（家庭）、栄養教諭一種、医療秘書	90	※
児童学科	教員免許小一種・幼一種、保育士、中学校英語二種・レクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、准学校心理士・社会福祉主事・児童指導員・社会教育主事（任用資格）	110	※
メディアデザイン学科	教員免許高一種（情報）、上級情報処理士(N)、社会調査士、プレゼンテーション実務士、Webデザイン実務士	30	※
建築デザイン学科	教員免許高一種・中一種（家庭）、一級建築士受験資格（実務2年）、二級建築士受験資格（実務不要）、一級・二級建築施工管理技士受験資格、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター検定	40	※
心理学科	養護教諭一種、認定心理士、社会福祉主事・児童指導員の任用資格、医療秘書 （公認心理師、臨床心理士は大学院修士修了受験資格）	100	※
※印の編入定員については、定員に余裕がある場合にのみ受け入れる。		(計) 400	

〔専攻科〕

専攻科	専 攻	修業年限	取得可能な免許状	入学定員	入学資格
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1年	教員専修免許/高・中（家庭）、養護教諭	8	大学卒業生
	児童学専攻		教員専修免許/小・幼	6	

第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）

人間生活学部における運営組織については、教授が参加する学部教授会、全教員が参加する学部教授総会、学部長および各学科長による学科長会議、各学科の教員による学科会議、ならびに役割に応じた各種の委員会（全学的委員会への参加および学部独自に設置された各種委員会）がある。

学部教授総会は第2火曜日に開催することを原則としている。学部教授会は学部教授総会の一部として実施される他、必要に応じて学部長が招集する。

全学的委員会への参加を表1に、学部の各種委員会の構成を表2に示す。大学院等と学部を兼ねている教員もいるため、大学院等の委員会も含めて示している。

なお、学部の「教員養成推進委員会」については、平成17年度に全学的な視点からの教員養成対策委員会並びに教員養成対策室が設けられたことから、従来の「教育実習委員会」をこれに対応させて「教員養成推進委員会」に名称変更した。

学部の各種委員会について、各委員は2年毎に交代することを原則としている。平成30年度の学部委員会は12の委員会から構成されており、それぞれにおいて選出された委員長（委員会によっては副委員長も選出）のリーダーシップの下に、学部教授会での決議事項等を踏まえて、その役割を果たしている。

各種委員会の会議については、委員会活動の課題に応じて適宜開催されるが、その具体的な活動内容については委員長が毎年3月末に学部長に報告することになっている。

表1 令和元年度委員一覧（全学的委員会）

2019年度 委員一覧								人間生活学部 2020年3月3日現在
区分	委員会	学科		各学科委員				備考
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	
全学的委員会	学生指導協議会			松本(有)				●学生支援グループ関係 1名（任期2年）（30年度：食物栄養学科） ●学部学生指導委員会委員長とする（31、32年度：児童学科）
	人権教育推進委員会			仁宇				●学生支援グループ関係 1名（任期2年） （30年度：人間生活学科）（31、32年度：児童学科）
	紀要編集委員会		坂井(隆)					●教育・研究支援グループ関係 1名（任期2年） （27年度～30年度：森田）（31年度～博士号・食物栄養学科）
	全学入試委員会		中橋					●教務グループ関係 各1名 *
	センター試験委員		坂井(隆)					
	セクハラ防止委員会	防止員 相談員			五反地			●庶務・渉外グループ関係 各1名 *
	インターンシップ推進委員会			那住				●就職支援部関係 1名（任期2年） （30、31年度：児童学科）
	就職支援委員会					森岡		●就職支援部関係 1名（任期2年）（30年度：建築） ●学部就職支援委員会委員長とする（31、32年度：心理学科）
	教務委員会						青木	●教務グループ関係 25-27古本 28-29森岡 30-石堂 ●学部教務委員会委員長とする * 全学教務委員会委員長一石堂
	入試制度検討部会					森田		●教務グループ関係(含む入学前教育) * 16-20田主 21-24福光 25-27黒澤 28-29永山 30-31森田
	一般教育研究部会			西原				●全学共通教育センター・語学センター関係(含む新入生教育) * 29年度 食物栄養学科 30年度 児童学科
	FD研究部会					笠井		●教育・研究支援グループ関係 * 21-25橋田 26-27北川 28-29河口 30-山城 31-建築
	教職課程委員会		松本(篤)	三橋川端			責志	●教務グループ関係 4名（任期2年：30、31年度） ●教職科目担当 3名(内2名は児童学科、1名は心理学科) ●学部代表 1名(教職免許取得者の多い上記以外の学科) 生活と栄養が交互(29、30年度：生活) (31、32年度：食栄)
	倫理審査委員会		藤田	石堂				●庶務・渉外グループ関係 2名（任期2年）22/10月 石堂委員長・藤田副委員長 医師1名、その他1名 *
	ホームページ委員会						岡林	入試広報部関係 1名
	チーム医療促進委員会		坂井(隆) 森川				山崎	委員長 * 医師、管理栄養士、臨床心理士各1名
	実験動物委員会		石堂					喜多委員長 *
	組み替えDNA委員会		石堂					石堂委員長 *
	選挙管理委員会				古本			総務関係 1名(任期1年：隔年) * 29-30岡部
	学長補佐	藤田	石堂					
	公開講座企画委員		犬伏					
	退学者防止対策検討委員会	竹原	中川	岡山	山城	川村	小坂	各学科から1名
	広報担当者会					池田	岡林	学部広報担当委員会の正・副委員長とする
	自己点検・評価委員会 (認証評価委員会)	岡部	石堂	河口	篠原	森岡	青木	H29年度認証評価を受けて3年後の改善報告作成のために、H30年度の委員は学科長。2019年度も学科長。
	自己点検・評価実施委員会		小川	岡			藤崎	主要学科から1名
	宿泊セミナー運営委員会	2019年度実施	藤田岡部	亀村小川	五反地田中	清澄篠原	山田笠井	藤崎小坂
2020年度実施		藤田竹内	小川坂井(隆)	田中林	長濱清澄	池田笠井	小坂責志	○任期は翌年の実施後のアンケート処理までとする。
○上記の委員は、各委員会に出席し、その内容を学部教授会において報告・連絡するとともに、必要に応じて議案を提出するなどして、それぞれの責務において速やかな対応を図るよう努める。同時に、学部の関連する委員会とも密接な連携を図る。								
* 学部長指名								

表2 令和元年度委員一覧（人間生活学部各種委員会）

区分	委員会	各学科委員						備 考
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	
人間生活学部委員会	教務委員会 (学科長)	岡部	石堂	河口	篠原	森岡	◎青木	○各委員は、自己の所属する学科のカリキュラム実情を十分に把握したうえで、学科間のカリキュラム調整を行う。 ○委員長は全学教務委員を兼ねるとともに、他学部・学科及び教務グループとの調整等を行う、など。
	教育研究委員会 (各学科1名)	藤田	近藤	三橋	清澄	◎山田	○山崎	○大学院担当の教員(各専攻1名)が含まれるように配慮する。 ○教員の研究発表会を運営する(年間を通じての発表者の選出、計画の立案、実施など)。 ○図書購入の申請リスト作成等を行う(年2回)など。
	入学試験委員会 (各学科1名)	竹原	◎坂井隆	津守	清澄	山田	高橋	○委員長は全学入試委員を兼ねる。 (なお2019年度は坂井隆志先生が勤める。)
	自己点検・自己評価委員会 (各学科1名)	竹原	小川	岡	山城	◎池田	藤崎	○学生による授業評価や研究授業等に関する運営全般を行う。 (年間を通じての計画作成・実施など) ○原則として、年1回(3月頃)報告書を作成する(授業評価、研究授業、研究発表、就職状況、各科スタンダードの達成状況、新入生のイメージ調査の概要、共同研究の概要、社会的活動や業績など)
	学生指導委員会 (各学科1名)	藤田	犬伏	◎松本有	長濱	川村	小坂	○委員長は、学生指導協議会の委員も兼ねる。 ○学生生活に関する各種調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう、報告書を作成する。 ○クラス担任及びチューターの学生指導に関する内容をまとめたり、必要に応じて問題提起を行う、など。
	広報担当委員会 (各学科1名)	竹内	坂井(聖)	林	長濱	◎池田	◎岡林	○委員長は、ホームページ委員会の委員も兼ねる。 ○広報誌(専攻科、大学院含む)の作成を担当する。(入試広報部と連携) ○ホームページ(専攻科、大学院含む)の作成や修正を行い、常に新しい情報を収集して提供する、など。
	教員養成対策委員会	岡部	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	○学部長及び学科長をもって構成する。 ○委員長は学部長とする。
	教員養成推進委員会 (各学科1名)	◎竹原	松本(萬)	◎三橋	古本	川村	貴志	○委員長は必要に応じて学部の教員養成対策委員会に出席できる。 ○委員会は教員養成向上のため、学部の教員養成対策委員会及び教員養成対策室と密接な連携を取り合っており、必要事項についての円滑な実施を図る。 ○各種の校外実習(教育・保育・臨地実習等)を充実させるため、教育実習の手引き等を参考に、その趣旨の徹底化を促す。 ○必要に応じてアンケート調査等を実施し、実習における事前・事後指導を含む問題点を明確にするとともに、その改善案を提示するなど。
	就職支援委員	竹内	岩田	那住	長濱	森岡	◎渡邊	○委員長は全学就職支援委員会の学部委員を兼ねる。各学科1名。
	短期中期目標計画策定委員会	岡部	石堂	河口	篠原	◎森田 森岡	青木	○委員長は学部長が務め、委員は学科長が務める。 ○2019年度から短期計画も検討する。
	選考ワーク委員	竹内	小川	田中	長濱	池田 笠井	小坂	○宿泊セミナー運営委員と兼務してよい。
	防災対策検討委員会	岡部	森川	西原	◎山城	山田	小坂	
	災害時初期対応者		石堂 中橋 坂井(聖)	三橋 林 岡		山田	中津	選出条件: 大学から近距離に住み、災害時に大学へ駆けつけられる。
	保護者会とりまとめ		石堂					○学科長1年任期 H28森岡 H29中津 H30岡部 R1石堂
	履修ガイド (学科長)	H31年度 R2年度	岡部 石堂				中津	○学科長1年任期 H30中津 H31岡部 R2石堂
	<p>○任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。</p> <p>○各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。</p> <p>○各委員会の委員長は、年間の活動状況(委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等)を別紙の様式に従って記載し、毎年学部長に提出する。(3月中に提出)</p> <p>○全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員は、学部教授会で、必要に応じて当該委員会での報告等を行う。</p>							
◎ 委員長 ○ 副委員長								

令和元年度は全学教務委員会を二回開催した。

1. カリキュラムマップとナンバリングおよびそれに基づいた学修成果の可視化
2. 文部省高等教育修学支援制度対象大学に指定されたことから
 - 2-1 出席記録の厳密化
 - 2-2 GPA による成績評価基準の設定
 - 2-3 履修登録期間の厳密化
3. 追再試験の採点
4. 学習ポートフォリオへの記載
5. 学生からの成績問い合わせ期間の設定
6. 土日の補講について
7. 教育課程の変更承認
8. 薬学部の教育理念と三つのポリシーの変更について議論した。

1. 現時点で科目のナンバリングが短期大学部を除く全学部学科で終了している。このナンバリングをもとにして学習成果の可視化（分野毎の累積 GPA を学年毎に図示するレーザーチャートの作成）ソフトをソフトウエア会社に見積もりを出してもらうことになっている。
2. 高等教育修学支援制度では給付型奨学金が実施される。そのため対象者として採択されたのち、学年毎の評価がなされ、二年続けて「警告」を受けると給付型奨学金は停止される。その警告の基準は出席率および成績、取得単位数を基準としてなされることになっている。
 - 2-1 出席はこれまで学部によって基準が異なっていたため学部による出席率の格差が存在していた。この格差を解消する目的で、授業開始時間から 15 分以上遅れて授業に参加した場合を欠席と記録することになった。出席を確認するため、教員は必ず授業開始後 15 分以内に授業教室にいること。
 - 2-2 二年連続で成績下位に位置すると奨学金は停止されるため、そのような事態に陥らないために、点指導対象となる学生を、「年間 GPA を基準として」選定する。そのため GPA 基準を学科ごとに決定する。
 - 2-3 これまで履修期間以降も用紙による履修登録を認めてきた。しかしながら給付型奨学金の受給者に対する警告等の学部間学科間格差解消のため、授業開始後 2 週間は学生ポータルサイトからの登録変更を可能とし、さらにその後 1 週間は用紙による履修変更を可能とする。
3. これまで「追試験の得点は 8 割とする」とキャンパスガイドに記載されていたが、内容があいまいであるため「追試験の得点は 80 点を上限とする」に変更する。
4. 学修ポートフォリオへの記載により学生の学修時間を掌握している。記載率が低いことが問題である。そこから得られた結論の一つに「アルバイトを 180 分以上行っている学生の家庭学習時間は 0 分である。」がある。このデータは国立教育政策研究所とのデータと一致していることから、記載されている内容は全学生を反映している可能性が高いと考えられる。今後は記載率の向上目指し、年二回の記録週間を設定する。
5. 香川薬学部の教育評価時の指導事項として「学生からの成績問い合わせに対する対応を明記すること」がなされている。そのため、2020 年版キャンパスガイドに「通知された成績に疑問がある場合は、成績開示 3 日以内に所定の様式で問い合わせることができる（土日祝日を除く）」と記載する。
6. これまで学生からスクールバス等の交通機関がなく、土日の補講をやめてほしいという要望が繰り返さされている。その要望に対応すべく、「土日の補講を原則、禁

止する。」どうしても土日に補講を入れたいときは教務部と相談する。キャンパスガイドに記載されている年間予定表の授業予備日は、台風等による一斉休講に対応するための日程であり個別に補講を入れるための日程ではない。学科内で休講のある授業時間に別の授業を実施する等の工夫をしてほしい。どうしても補講ができないときは、時間割上、金曜日5講時は講義を入れないようにしてあるので、そこに補講を入れる。

7. 人間生活学科の教育課程変更がされた。
8. 薬学部の教育評価が予定されており、それに合わせて教育理念と三つのポリシーの変更が届け出された。

I 委員会の目的

1. 図書（図書館収蔵）購入に関する事務を取り扱う：大学院生・学部生の勉学に資するため図書館の収蔵する図書を各委員から推薦して頂き、委員会がとりまとめて購入申請を行う。
2. 「新任教員の研究紹介」発表会（年1回）を実施する：学部新たに着任された教員の研究領域、業績、今後の教育・研究の展望を発表して頂く会を実施する。日時・場所の設定、発表者への依頼、抄録集の作成、当日の運営を行う。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。図書申請は大学院の図書も含まれるため、大学院担当の教員（各専攻1名）が必ず含まれることとする。
2. 令和元年度委員
藤田義彦（人間生活学科）、近藤美樹（食物栄養学科）、三橋謙一郎（児童学科）
清澄良策（メディアデザイン学科）、◎山田實（建築デザイン学科）○山崎暁子（心理学科）
〔◎印：委員長、○印：副委員長〕【敬称略】
3. 役割：図書申請（山崎、山田）
「新任教員の研究紹介」発表会
（会場：清澄、司会・運営：藤田、近藤、抄録作成等：山田、三橋、山崎）

III 委員会開催の概要

第1回教育研究委員会

日時：令和元年6月4日（火）16:20～17:00

場所：23号館11階（231109会議室）

出席者：三橋（児童学科）、山田（委員長・司会・建築デザイン学科）、岩田（食物栄養学科）、山崎（書記・心理学科）、藤田（人間生活学科）、清澄（メディアデザイン学科）【敬称略】

議題

1. 図書申請について
 - (1) 大学及び大学院担当：山崎が担当する。
 - (2) 申請時期：第Ⅰ期（7月）、第Ⅱ期（10月）、予備（第Ⅲ期12月）
 - (3) 広報：6月の学部教授会
申請して購入する金額が決まっているので、多くの申請が出されるように各学科で連絡することが話し合われた。
2. 新任教員の研究発表会について
今年度もこれまでと同様に、実施することになった。
 - (1) 発表対象者
今年度は、次の4名の方（敬称略）です。
 - ① 食物栄養学科：松本満壽美
 - ② 児童学科：那住公子
 - ③ 心理学科（2名）：渡辺悟、山崎暁子協議の結果、4人が今回の発表者として選出されました。
なお、助教の先生は対象としない。
 - (2) 日程：9月10日（火）学部教授会終了後
 - (3) 場所：図書館3階AVホール（学部教授会と同じ場所）
 - (4) 担当（敬称略）

- ①司会（タイムキーパーを含む）：藤田、近藤
 - ②資料作成：山田、三橋、山崎
 - ③会場設営：清澄
 - （5）発表形式：15分（質疑応答も含めて）
3. 当委員会における副委員長の設置について
 本年度は当委員会に副委員長を置くこととする。山崎が担当する。

IV 図書購入申請の概要

当初7月と10月と12月のⅢ期で購入申請の予定であったが、12月にⅣ期を追加し、人間生活学部全教員からの購入希望図書を集約し、購入申請を行った。

	予算	執行金額	冊数
学部図書	5,000,000円	4,999,787円	768冊(DVD含む)
大学院図書	700,000円	698,644円	53冊(DVD含む)

V 活動のまとめ

図書申請と新任教員の研究発表の2件を中心に活動を行った。図書申請について今回も、ほぼ予算通りの購入希望冊数であったので学科間の調整は無しで購入申請することができた。新任教員の研究紹介については、発表対象者を教授、准教授、講師とし、助教は対象者としなかったこととした。本年度は対象者4名となった。

令和1年度人間生活学部入試委員会

入試委員会委員長
坂井 隆志

I 委員会の目的

- ① 学生確保に資する方策を検討する。
- ② 人間生活学部における入学試験に関する事項について、学科間の意見を調整し、学部教授会にて承認を得る。
- ③ 特別推薦入学試験（1年次，3年次編入）における指定校への申請および辞退または取消しの可否を検討する。
- ④ 全学入試制度検討委員会および全学入試委員会と人間生活学部教授会との円滑な情報交換に資する。
- ⑤ 学務入試グループと連携を図る。

II 入試委員会の活動概要

(1) 構成メンバー

委員長：坂井(隆)(食栄)

委員：竹原(人間生活)，津守(児童)，清澄(メディア)，山田(建築デザイン)，高橋(心理)

全学入試委員会委員：中橋(食栄)

センター試験担当：坂井(隆)(食栄)

(2) 主な作業

- ・入試要項の確認
各学科に入試要項の校正を依頼、とりまとめ
- ・地方試験場派遣者の検討・決定
地方試験場派遣者の選出を各学科へ依頼、とりまとめ
- ・入試問題仕分け作業
- ・各種入試志願者の情報確認
各種入試志願者の情報確認を各学科に依頼
- ・各種入試合否判定
各種入試の合格者数、合格得点率などのデータ入力
- ・全学入試委員会への参加
来年度入試改革の検討
- ・大学入試センター試験業務
試験監督割振り、試験会場準備、試験実施および実施後の処理など
- ・学務入試グループとの連携：
A0入試面談日固定案の検討
センター試験業務：準備、実施他

(3) 活動のまとめ

入試委員長および全学入試委員は、年度内に複数回の各種入試に対応する必要があるため、かつ人間生活学部は学科数が多く、入試業務は多岐にわたった。来年度から、大きく入試制度が改革されるため、より一層スムーズに業務処理が行えるよう努めたい。

令和元年度 学生指導委員会報告

学生指導委員会委員長
松本 有貴

I 委員会の目的

全ての学生が学生生活の充実をはかり、実りある大学生活を送れるようにその方策を検討する。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。
2. 令和元年度委員
藤田義彦(人間生活学科)、犬伏知子(食物栄養学科)、○松本有貴(児童学科)、
長濱太造(メディアデザイン学科)、川村恭平(建築デザイン学科)、小坂清文
(心理学科) [○印：委員長] 【敬称略】

III 委員会開催の概要

一. 第1回学生指導委員会

日時：9月27日(金) 14時40分から15時30分

場所：9号館4階(松本研究室)

出席者：犬伏、長濱、川村、小坂、松本(司会、記録)

協議内容

1. 今年度、学生指導委員会として何を行うか？
H30年度の「クラブ・サークル活動に関するアンケート」行う。各学科各学年に実施協力を依頼し、アンケート記入率を高める努力をする。それにより、全体像を把握しまとめる。
2. アンケートの時期については、12月の各学科HRなどで行ってもらい、年内締め切りとする。
3. QRコードなど、アンケートの仕方については、長濱先生が作成して下さる。大学のgメールを使ってURコードに入るよう学生がアンケートに参加しやすい設定にする。
4. 結果をまとめ、昨年度に準ずる形で周知する。
5. 委員会として、結果として見えたことを話し合いまとめる。
6. 結果を、年報に残す。
7. 次回の会議は、集計結果がでてから、令和元年年1月中に開催する。
8. 各学科会議において出された学生指導に関する課題があれば1月の会議で共有し、必要に応じて妥当な形で問題提起を行う。

二. 第2回学生指導委員会

日時：令和2年1月31日(金) 10時40分から11時30分

場所：1号館9階 大学院演習室②

出席者：犬伏、藤田、長濱、小坂、松本(司会、記録)

協議内容

1. 令和年度 クラブ・サークル活動に関するアンケート結果を長濱先生がまとめてくださった内容を検討する(以下三に記す)。
2. 昨年に比べ回答率が上がったが、入力時の課題があった。
3. 学生にはアンケート結果を昨年度に準じた方法で知らせる。

4. 教員には共有フォルダーの学生指導委員会の中にアンケート結果を保存し、学生にはパソコン室の学生が見える「読み込み専用フォルダー」に保存する。(長濱先生が保存してくださる)
5. ポータルのお知らせで、アンケート結果はパソコン室の「読み込み専用フォルダー」に保存していることを知らせ、閲覧を奨励する。(期限は、3月の末まで)
6. アンケート集約結果は年報に載せる。自由記述における要望などの内容については、委員会より関連部・会に伝える。

三. 「クラブ・サークル活動に関するアンケート」の集計結果まとめ

本アンケートは、令和元年12月1日から同年12月31日までの間、人間生活学部在籍している1,123人の人間生活学部の学生を対象に学生ポータルサイトを利用して実施された。703人の学生から回答があり、回答率は62.6.8%となり前回29.8%より高くなった。回答者の男女別と所属状況別の内訳は、女子67.0%・男子33.0%、所属状況は、「所属している」47.7%・「かつては所属していたが今は所属していない」16.8%、「今まで1度も所属したことはない」35.6%である。

ページ1の表において「人間生活学部」の回答率が123.5%となっている。「人間生活学部」として入力し学部への回答が欠損した可能性が考えられる。学部ごとにURコードを分ける設定により防ぐ対応を行うことが検討された。

まず、回答者のうち、各クラブ・サークルへの所属(歴)の多かったのは以下のようである。

「所属している、していた文化部」

「うたおは部」「コミックアート部」「軽音楽部」それぞれ19人、「文理食生活研究部」18人、
「HOTSTAFF部」17人

なお、昨年度は「文理食生活研究部」13人、「うたおは部」9人が多く報告された。

「所属している、していた体育部」

「ダンス部」25人、「女子サッカー部」21人、「バドミントン部」18人、「陸上競技部」14人

なお、昨年度は「ダンス部」6人、「女子サッカー部」6人、「陸上競技部」6人となっていた。

「所属している、していた同好会・サークル・郷土芸能振興サークル・委員会」

「羽球同好会」24人、「エイサー団体ニライカナイ(沖縄県人会)」22人、「徳島文理大学連」16人、「天文同好会」15人、「山城祭実行委員会」14人、「心理サークルKOKORO」「籠球同好会」13人

昨年度は「エイサー団体ニライカナイ(沖縄県人会)」8人、「籠球同好会」7人、「山城祭実行委員会」6人などであった。

次に、所属した理由として、「活動内容に興味を持った」「友人関係を広げたかった」が多く、やめた理由は、「人間関係」「興味がなくなった」「勉強する時間がなくなった」「アルバイトができない」という順に多かった。それに対し、現在も続ける利用は、「活動を行うため」「交友関係を広げる・深めるため」「友人と遊ぶため」が多い。

「所属当初と比べて、現在の参加状況」における「当時と変わらずに参加してい

る」項目に、昨年度と比べ顕著な違いがみられる。昨年度 37.4%に対して今回は 7.7%と大きく参加率が減少している。全体の回答率が上がったことで、前回は活動している学生の回答が多かったのに対して、今回の回答者には活動していない学生の回答が加わったせいであるとも考えられる。しかし、上記のやめた理由を考慮することは、学生理解につながると思われる。

最後に、35名からの自由記述があった。「部費や部室に係る要望」が最も多く(20人)、「感謝や評価」「提案や感想」「特になし」(各5人)となる。

詳しい集計結果については、本年度2月7日(金)から3月31日(火)までの間、学内のコンピュータ室のパソコンで、以下のフォルダを開いて閲覧することができる。

マイコンピュータ → 読込み専用領域(Z) → 人間生活学部_学生指導委員会

四. 総括

本年度のアンケート調査は、学生ポータルのお知らせで人間生活学部学生に連絡するとともに、各学科に協力を依頼し行ってもらった。それにより全学科に回答率の上昇がみられた。しかし、全員回答はなかなか難しい現状があった。学生ポータルによる連絡を促進するためにカテゴリ(「緊急」など)を設定し通知するといった工夫が求められるのではないかという意見がでた。

本アンケート結果は一部の回答者の意見ではあるが、クラブやサークル、その他の活動に励む姿やその過程における困難や課題を共有し理解することは、今後の学生指導に役立てることができると期待する。

本年度のアンケートへのご協力に委員会一同より各学部の先生方、学生の皆様に深く御礼を申し上げ、集計結果のご高覧をお願い申し上げます。

人間生活学部（学生指導委員会）

2019年度学生アンケート（クラブサークル）集計結果

表 回答者数と回答率

	人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
在籍者数	81	226	268	74	168	306	1123
回答者数	100	151	194	60	84	114	703
回答率(%)	123.5%	66.8%	72.4%	81.1%	50.0%	37.3%	62.6%

図 回答率(%)

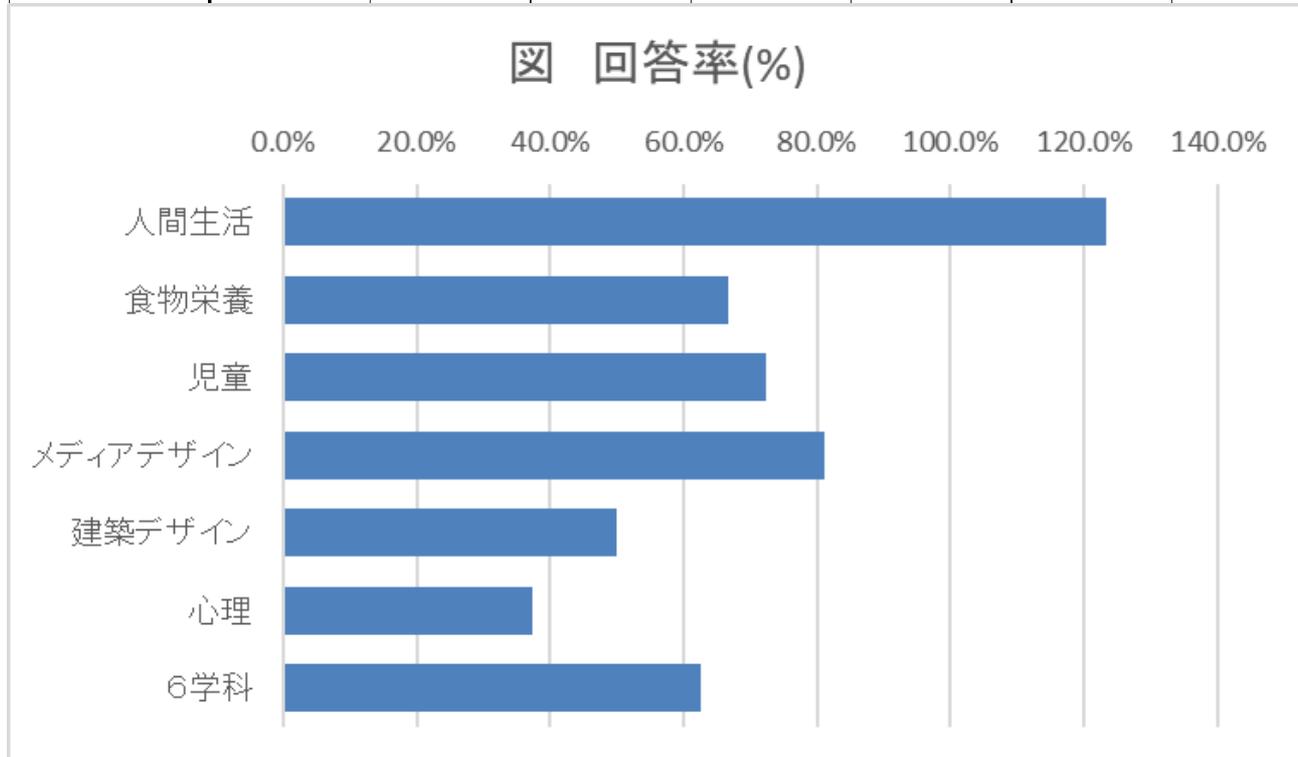


表 性別

		人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
1.女性	人数	71	126	135	20	33	86	471
	学科の%	71.0%	83.4%	69.6%	33.3%	39.3%	75.4%	67.0%
2.男性	人数	29	25	59	40	51	28	232
	学科の%	29.0%	16.6%	30.4%	66.7%	60.7%	24.6%	33.0%
合計	人数	100	151	194	60	84	114	703
	学科の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

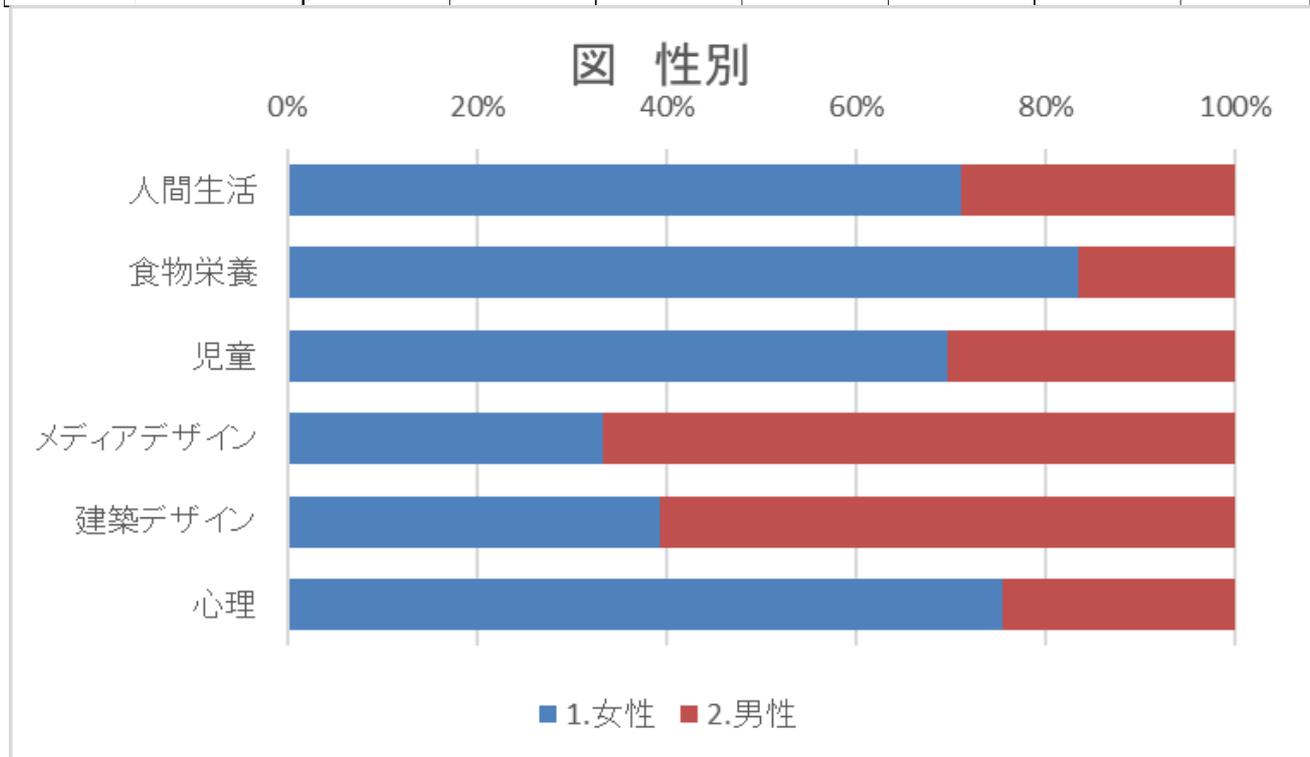


表 学年

		人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
1年生	人数	39	47	47	28	41	42	244
	学科の%	39.0%	31.1%	24.2%	46.7%	48.8%	36.8%	34.7%
2年生	人数	21	33	39	7	14	32	146
	学科の%	21.0%	21.9%	20.1%	11.7%	16.7%	28.1%	20.8%
3年生	人数	24	29	65	17	18	19	172
	学科の%	24.0%	19.2%	33.5%	28.3%	21.4%	16.7%	24.5%
4年生	人数	16	42	43	8	11	21	141
	学科の%	16.0%	27.8%	22.2%	13.3%	13.1%	18.4%	20.1%
合計	人数	100	151	194	60	84	114	703
	学科の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図 学年

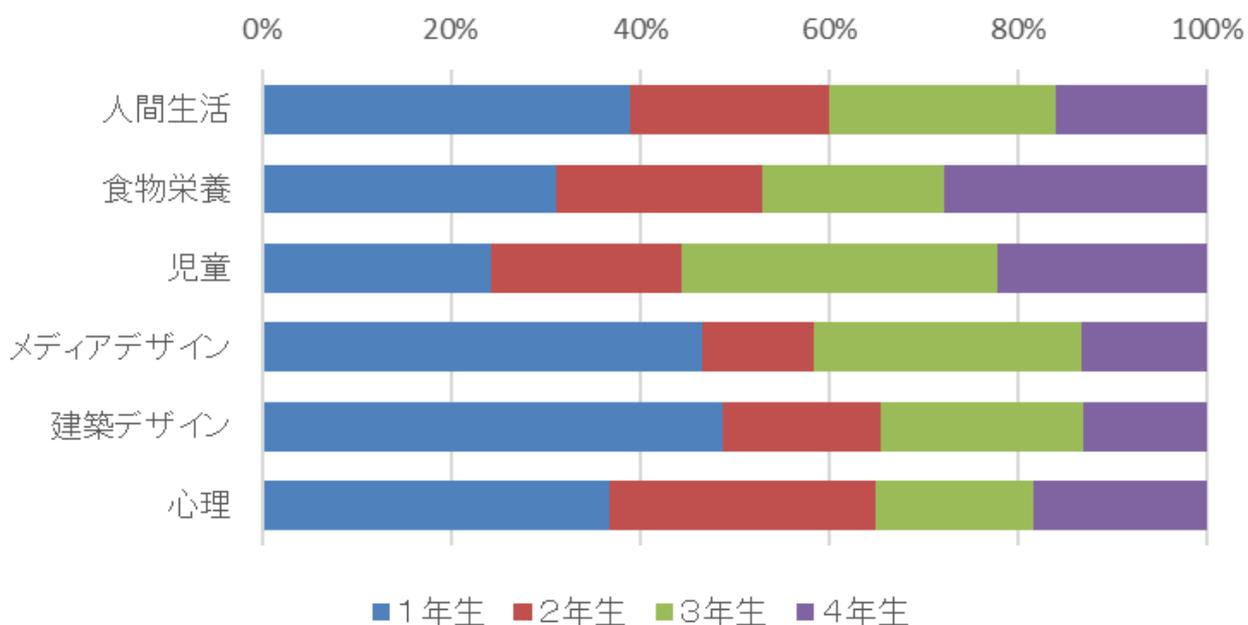


表 クラブ・サークルに所属していますか

		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	合計
1.所属している	人数	51	62	105	25	36	56	335
	学科の%	51.0%	41.1%	54.1%	41.7%	42.9%	49.1%	47.7%
2.かつては所属していたが、今は所属していない	人数	13	32	32	13	10	18	118
	学科の%	13.0%	21.2%	16.5%	21.7%	11.9%	15.8%	16.8%
3.今まで1度も所属したことはない	人数	36	57	57	22	38	40	250
	学科の%	36.0%	37.7%	29.4%	36.7%	45.2%	35.1%	35.6%
合計	人数	100	151	194	60	84	114	703
	学科の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図 クラブ・サークルに所属していますか

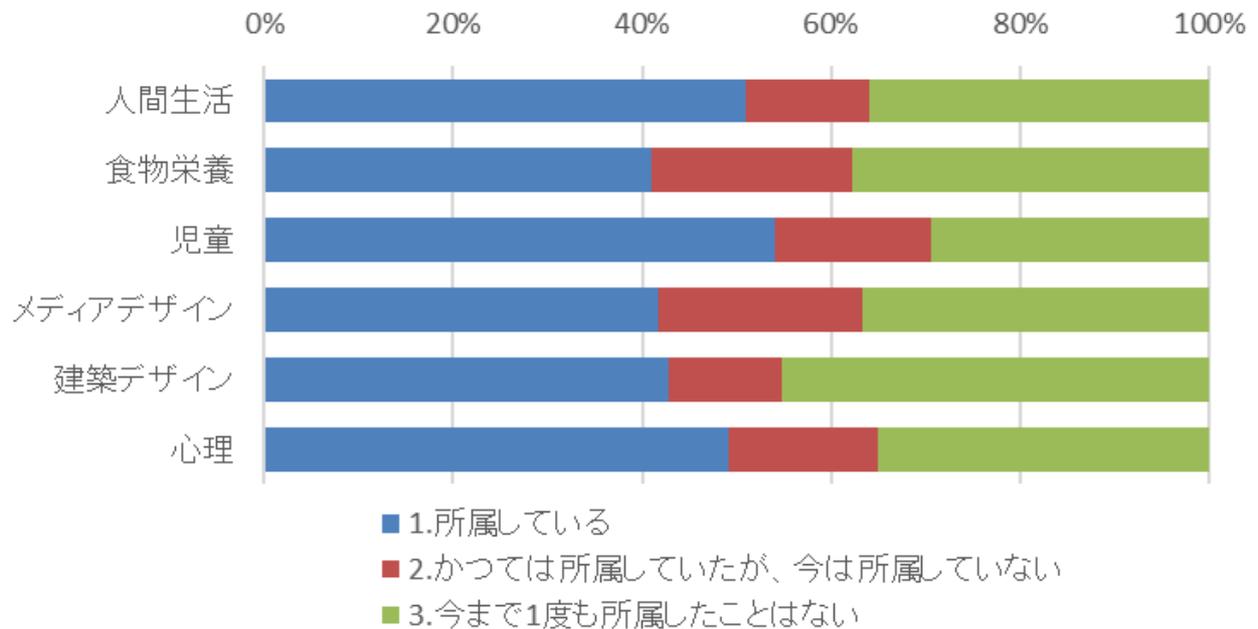


表 所属している、していた文化部の名称

	人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
BBS部	0	0	1	0	1	8	10
HOTSTAFF部	1	2	6	4	1	3	17
うたおは部	1	0	18	0	0	0	19
コミックアート部	4	2	2	4	2	5	19
とくしまピア	1	0	0	0	0	4	5
学生ボランティア部	0	1	0	0	0	0	1
軽音楽部	3	9	4	2	1	0	19
写真部	5	1	1	0	0	3	10
手話部Friends	0	1	0	0	0	1	2
書道部	1	0	0	0	1	0	2
人形浄瑠璃部	0	1	2	1	1	0	5
地域貢献まちづくり後援部	0	0	0	0	0	2	2
茶道部	1	1	1	0	0	0	3
文理食生活研究部	1	16	0	0	0	1	18
放送部ナナイロ☆アンテナ	1	1	0	5	0	4	11
和太鼓部億	1	1	2	1	2	1	8
箏曲部	1	1	3	0	2	1	8
その他	1	3	4	1	1	7	17
合計	22	40	44	18	12	40	176

表 所属している、していた体育部の名称

	人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
ダンス部	3	6	11	2	0	3	25
バドミントン部	3	3	2	3	6	1	18
フットサル部	1	0	4	3	1	1	10
弓道部	0	0	1	0	0	0	1
剣道部	1	0	2	0	0	2	5
硬式テニス部	1	3	0	1	1	3	9
準硬式野球部	1	2	2	1	2	1	9
女子サッカー部	3	1	12	0	1	4	21
女子バスケットボール部	3	0	2	0	0	0	5
女子バレーボール部	2	6	2	0	0	0	10
ソフトテニス部	1	0	1	2	1	1	6
卓球部	0	1	0	1	0	1	3
男子サッカー部	1	0	3	0	2	0	6
男子バスケットボール部	2	3	4	0	3	0	12
男子バレーボール部	1	0	3	1	2	0	7
軟式野球部	1	0	3	0	0	0	4
日本拳法部	0	2	0	0	1	0	3
陸上競技部	2	4	7	1	0	0	14
その他	0	0	2	0	1	1	4
合計	26	31	61	15	21	18	172

表 所属している、していた【同好会・サークル・郷土芸能振興サークル・委員会】の名称

	人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
Bunriハンドベルクワイア	1	0	5	0	0	1	7
YUKI-TAスノーボードサークル	0	0	2	1	0	0	3
エイサー団体ニライカナイ（沖 縄県人会）	5	5	12	0	0	0	22
クラブ執行委員会	0	0	1	0	0	0	1
テーブルゲーム同好会	0	0	0	0	0	1	1
バレーボールサークル	0	2	0	0	0	0	2
阿波の雪ん子	0	0	0	1	0	1	2
羽球同好会	5	5	8	1	3	2	24
演劇サークル	0	0	0	1	0	0	1
軽射撃同好会	0	1	0	0	0	0	1
高知県人会～TOSAMONO～	2	1	4	0	1	4	12
山城祭実行委員会	0	11	1	1	1	0	14
女子ソフトボールサークル	0	0	1	0	0	0	1
心理サークルKOKORO	2	0	0	0	0	11	13
水泳同好会	0	0	0	0	1	0	1
雪板	0	0	1	0	0	0	1
天文同好会	1	0	1	1	8	4	15
徳島文理大学連	3	1	8	1	0	3	16
読書クラブ	1	0	0	0	0	0	1
籠球同好会（バスケットボー ル）	1	3	4	1	2	2	13
合計	21	29	48	8	16	29	151

表 クラブ・サークルを辞めた理由（複数回答）

		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	合計
1 興味がなくなった	人数	2	11	4	4	2	3	26
	学科の選択率%	14.3%	34.4%	12.5%	30.8%	22.2%	16.7%	
2 先輩の指導について 行けなくなった	人数	1	4	5	0	1	2	13
	学科の選択率%	7.1%	12.5%	15.6%	0.0%	11.1%	11.1%	
3 人間関係	人数	3	5	8	2	4	7	29
	学科の選択率%	21.4%	15.6%	25.0%	15.4%	44.4%	38.9%	
4 勉強する時間がなくな った	人数	2	12	5	3	1	2	25
	学科の選択率%	14.3%	37.5%	15.6%	23.1%	11.1%	11.1%	
5 アルバイトができな い	人数	4	8	4	2	0	3	21
	学科の選択率%	28.6%	25.0%	12.5%	15.4%	0.0%	16.7%	
6 その他（引退等）	人数	6	8	11	3	2	6	36
	学科の選択率%	42.9%	25.0%	34.4%	23.1%	22.2%	33.3%	
合計	人数	14	32	32	13	9	18	118

図 クラブ・サークルを辞めた理由（複数回答）

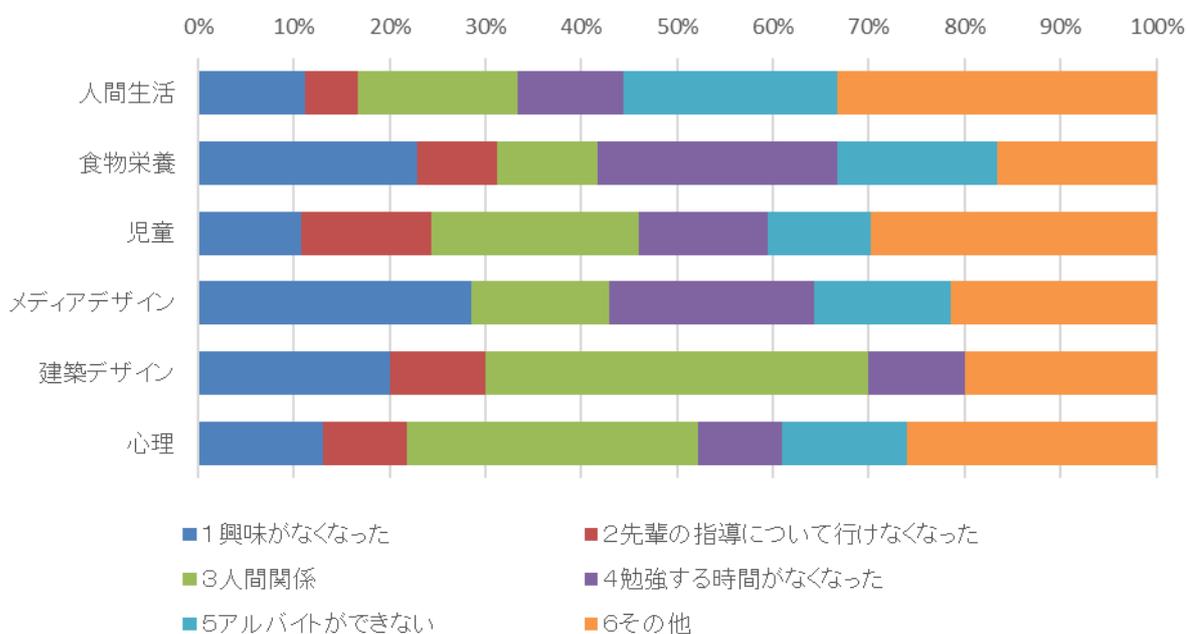


表 大学に入学後どのくらい経過してして所属したか

		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	合計
1か月以内	人数	6	6	12	3	9	5	41
	学科の%	9.4%	6.4%	8.8%	7.9%	19.6%	6.8%	9.1%
半年以内	人数	14	20	28	11	8	19	100
	学科の%	21.9%	21.3%	20.4%	28.9%	17.4%	25.7%	22.1%
1年以内	人数	15	16	19	8	11	14	83
	学科の%	23.4%	17.0%	13.9%	21.1%	23.9%	18.9%	18.3%
それ以上	人数	6	18	21	7	5	12	69
	学科の%	9.4%	19.1%	15.3%	18.4%	10.9%	16.2%	15.2%
無回答	人数	23	34	57	9	13	24	160
	学科の%	35.9%	36.2%	41.6%	23.7%	28.3%	32.4%	35.3%
合計	人数	64	94	137	38	46	74	453
	学科の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図 大学に入学後どのくらい経過してして所属したか

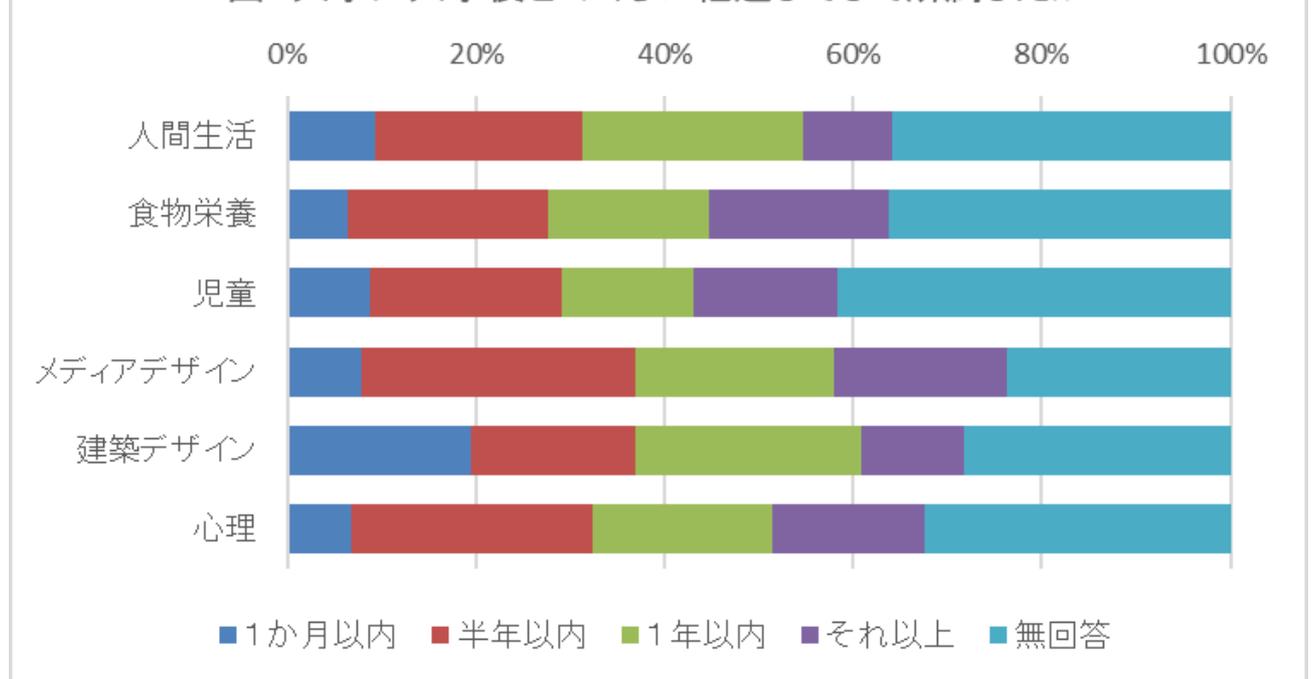


表 クラブ・サークルに所属した理由（複数回答）

		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	合計
1 活動内容に興味を持った	人数	33	64	90	26	31	51	295
	学科の選択率%	54.1%	74.4%	69.2%	72.2%	72.1%	69.9%	
2 友人関係を広げたいかった	人数	20	25	32	12	16	24	129
	学科の選択率%	32.8%	29.1%	24.6%	33.3%	37.2%	32.9%	
3 友人に誘われた	人数	19	23	45	6	11	24	128
	学科の選択率%	31.1%	26.7%	34.6%	16.7%	25.6%	32.9%	
4 共通の趣味の友人を作りたいかった	人数	4	4	12	4	5	9	38
	学科の選択率%	6.6%	4.7%	9.2%	11.1%	11.6%	12.3%	
5 特に理由はない	人数	6	2	9	3	4	3	27
	学科の選択率%	9.8%	2.3%	6.9%	8.3%	9.3%	4.1%	
6 その他	人数	1	2	6	0	0	2	11
	学科の選択率%	1.6%	2.3%	4.6%	0.0%	0.0%	2.7%	
合計	人数	61	86	130	36	43	73	429

図 クラブ・サークルに所属した理由（複数回答）

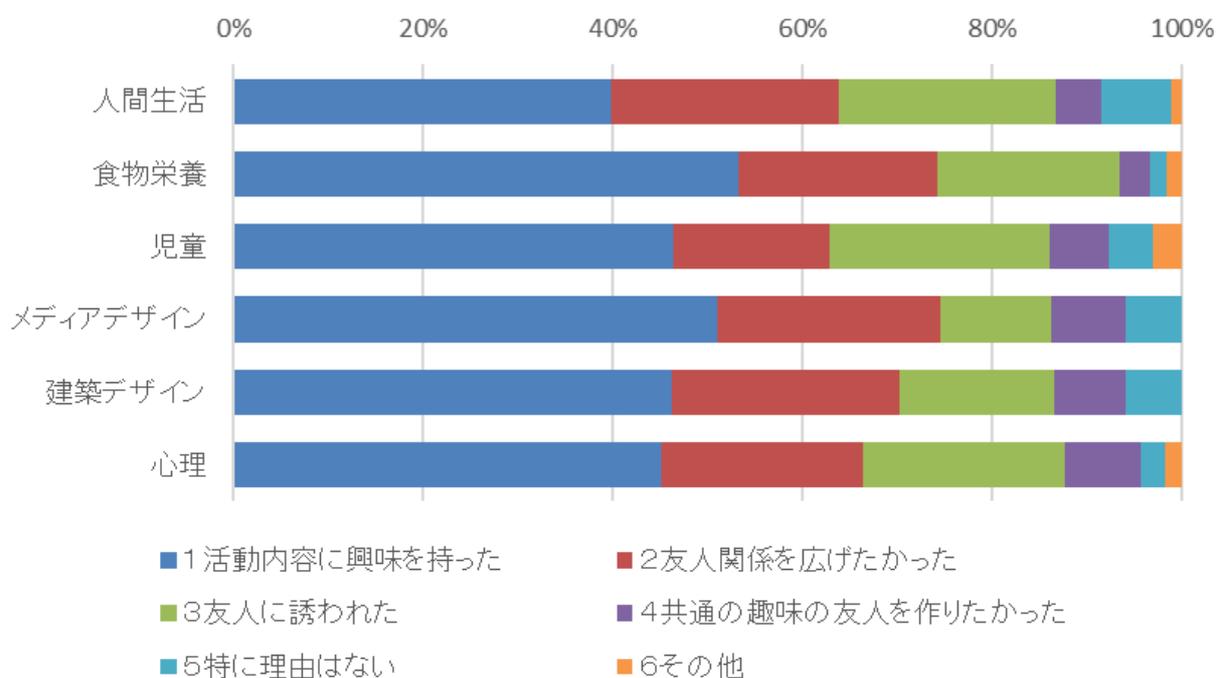


表 所属当初と比べて、現在の参加状況

		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理	合計
1.当時よりも頻繁に参加している	人数	9	23	15	7	5	11	70
	学科の%	14.1%	24.5%	10.9%	18.4%	10.9%	14.9%	15.5%
2.当時と変わらずに参加している	人数	7	2	18	0	3	5	35
	学科の%	10.9%	2.1%	13.1%	0.0%	6.5%	6.8%	7.7%
3.当時よりも参加する頻度は減っている	人数	22	28	51	16	19	29	165
	学科の%	34.4%	29.8%	37.2%	42.1%	41.3%	39.2%	36.4%
4.当時からほとんど参加したことがない	人数	20	30	42	9	15	26	142
	学科の%	31.3%	31.9%	30.7%	23.7%	32.6%	35.1%	31.3%
無回答	人数	6	11	11	6	4	3	41
	学科の%	9.4%	11.7%	8.0%	15.8%	8.7%	4.1%	9.1%
合計	人数	64	94	137	38	46	74	453
	学科の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図 所属当初と比べて、現在の参加状況

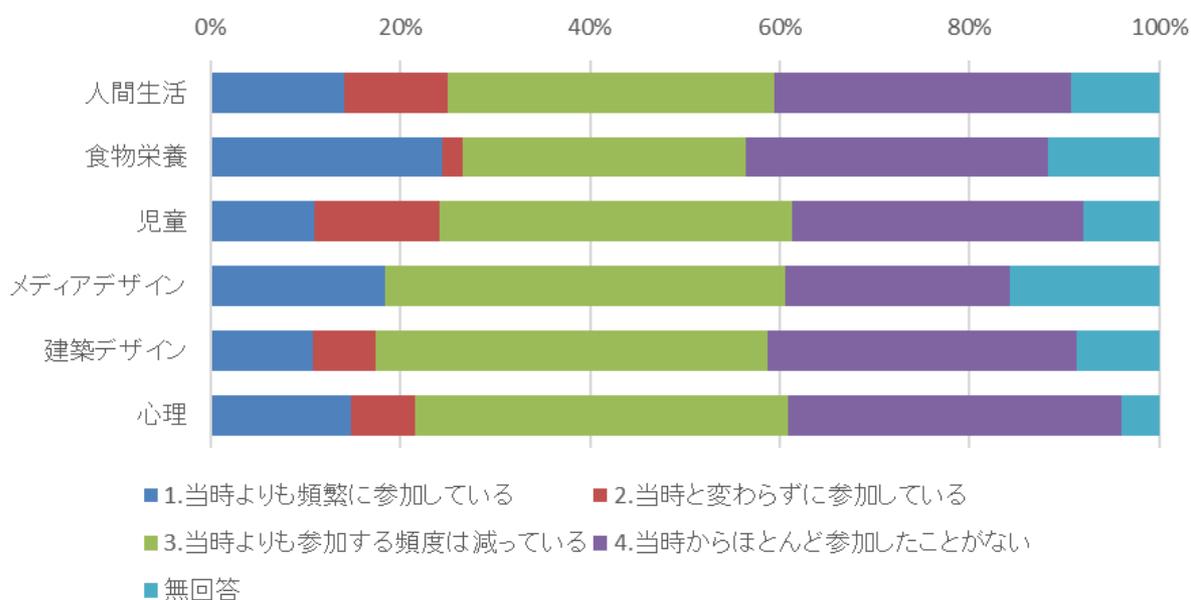


表 現在も続ける理由（複数回答）

		人間生活	食物栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	合計
1 クラブ・サークル 活動を行うため	人数	34	36	84	19	24	38	235
	学科の選択率%	61.8%	58.1%	71.8%	67.9%	61.5%	64.4%	
2 交友関係を広げ る・深めるため	人数	14	21	38	9	14	18	114
	学科の選択率%	25.5%	33.9%	32.5%	32.1%	35.9%	30.5%	
3 友人と遊ぶため	人数	7	11	23	5	8	11	65
	学科の選択率%	12.7%	17.7%	19.7%	17.9%	20.5%	18.6%	
4 情性	人数	8	5	4	3	3	12	35
	学科の選択率%	14.5%	8.1%	3.4%	10.7%	7.7%	20.3%	
5 特に理由はない	人数	10	13	19	5	6	8	61
	学科の選択率%	18.2%	21.0%	16.2%	17.9%	15.4%	13.6%	
6 その他	人数	0	0	3	2	0	0	5
	学科の選択率%	0.0%	0.0%	2.6%	7.1%	0.0%	0.0%	
合計	人数	55	62	117	28	39	59	360

図 現在も続ける理由（複数回答）

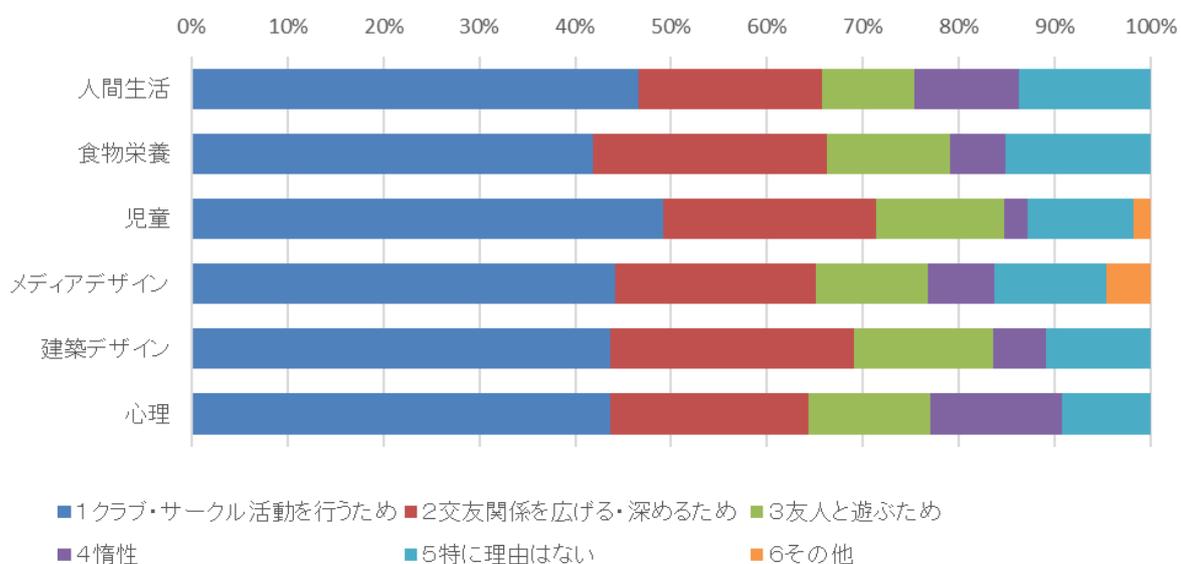


表 クラブ・サークル活動について、御意見があれば、思ったことを何でも御自由にお書きください。	
1 要望	
部費など	
	大学が支給する部費をあげて欲しい。
	同好会にも予算が欲しい。
	部費が減らされてるみたいで困ってる。
	部費をもっと増やしてほしい。
	部費を上げてください。
部室など	
	コミックアート部の部室が寒くて狭かった。
	ダンスを練習することができる時間を長くしてほしいです。それか、できる場所を増やしてほしいです。
	全員で部活動を行えるほどの練習スペースがないので、部室がもう少し大きくなったらいいのになと思っています。
	アカサスホールを使わせていただきたいです。
練習日や時間など	
	イベント前にもっと体育館を使って練習ができる時間を増やして欲しい。
	私は、ダンス部に所属していますが、夜遅くの練習に行くことが家庭の事情でできずに困っています。
	体育館の閉まる時間帯でクラブ活動時悩まされました。練習日が少ないうえに練習時間も平日8時までとなると厳しい。
	大学生にあった練習日を見直せばいいと思う。
その他	
	クラブ総会の頻度を減らして欲しい。(ポータルで分かる内容は集まってまで聞く必要はないと思う。)
	サークルについて悩むことがあったら相談する場所をください。
	もうちょっと人が参加してほしい、幽霊部員が多い。
	音楽系のサークルが少ないので、増えることを願っています。
	騒ぐなど地域に迷惑をかけた部活など問題があれば相応の処置をしてほしいです。
	男子フットサルサークルだけでなく、それに女子も参加出来るようにしてほしい。
2 感謝や評価	
	茶道部で使っている茶琴亭なんですが、今年の11月にクーラーを修理して頂きありがとうございます。
	いつも部活動の様々な面で助けていただき、応援していただきありがとうございます。これからも精進していきます。
	実際しっかり活動しているクラブがあるなかで、指導者がいないクラブもしっかり活動しているクラブがある。
	やったほうがいい。学科の友達とは気が合わなかったので、それ以外の友好関係は大切。世界が広がる。 (部活は) いいと思います。
3 感想・その他	
	沖縄県人会をよろしく願います。
	練習はたいへん。
	先輩との関係がむずかしい。

平成 31 年 3 月

1. はじめに

人間生活学部広報委員会は、学部6学科から各1名の広報委員から構成され、入試広報部との連携のもと、大学案内やホームページの作成、各種の広報活動を行っている。実行部隊なので、委員会を1回開催し、HPに関わる様々なアップ作業を行った。

2. 2019年度 第1回人間生活学部広報担当委員会

日時：2019年11月7日（木）16時20分より17時10分

場所：9号館10階研究室（4）

出席者：坂井堅太郎（食物）、林向達（児童）、長濱太造（メデ）、池田文夫（建築）

進行：岡林春雄（心理） 委任状：竹内理恵（生活）（敬称略 順不同）

議題：

- 1) 文科省学位規則の改正にともなう論文ネット公開への対応
食栄の博士論文（内容の要旨と結果の要旨）を入手、アクセス権を取得し、ホームページUP作業に掛かった。
- 2) 人間生活学部HP(中国語)作成・対応
国際交流と入試課が留学生受け入れを進めているが、現在のところ学部の意向が反映されていないので、学部長の意向もふまえて学部のHP(中国語)はまだ手を付けないこととする。
- 3) その他
 - ・学部の委員会で大学院のHP作業をする件は、学部長より教授会で議題として説明があった。
 - ・当委員会がアクセス権をもっていないという件は、学部長承認の下、篠原先生から長濱先生にアクセス権の譲り渡しがあり、委員会のアクセス権とした。
 - ・長濱先生よりこれまでの委員会の審議内容についての引継ぎがメールによってなされた。

3. 実際の活動

- (ア) 文部科学省の通達通り、博士論文（内容の要旨と結果の要旨）を学部HPにUPした。
- (イ) 学部HP更新。
- (ウ) 入試広報部と連携し、公認会計士へ回答。

4. 人間生活学部HPの現状

■管理マニュアル、方針の有無

管理マニュアルといった明確な文章はない。

方針としては、受験生と在学生のためのページとなっている。

それぞれの学科に記事作成の教員がおり、その人が自学科のみの記事を投稿（一部、別教員が記事作成の場合あり）

インスタグラム：高校生をメインターゲットとしている。

■管理責任者、担当者

WEB：管理責任者【学部長・学科長】、担当【担当教員各1名以上】

インスタグラム：管理責任者【学科長】、担当【担当教員、指定した在学生】

■更新の程度、最終更新日（10/24 現在）

Web：更新頻度

食物栄養学科：月 1～3 回程度
児童学科：月 1 回程度
心理学科：月 1 回程度
メディアデザイン学科：月 1～3 回程度
建築デザイン学科：月 1 回程度
人間生活学科：月 1～3 回程度

最新更新日

食物栄養学科：10/19
児童学科：6/16
心理学科：7/27
メディアデザイン学科：10/17
建築デザイン学科：9/27
人間生活学科：9/28

Instagram：更新頻度

児童学科：月 1～2 回程度
人間生活学科：月 2～4 回程度

最新更新日

児童学科：10/20
人間生活学科：10/20

■作成・更新は自前又は外注

作成・更新は原則として自前で行います。

□発信情報のモニタリング

フォロワーなどは在学生が多いようである。

□ID、パスワードの更新

変更していない

□なりすまし防止対策

入試広報部が「徳島文理」で YAHOO のリアルタイム検索を定期的に行っており、
疑わしい場合は、各部署に連絡します。その他、教職員からも入試広報部へ連絡
があることがあります。

□これまでのトラブルの発生とその対応

とくになし

■活用頻度

Instagram：更新頻度

児童学科：月 1～2 回程度
人間生活学科：月 2～4 回程度

最新更新日

児童学科：10/20
人間生活学科：10/20

■閲覧回数、フォロワー数

Web：アクセスログを取っていない。

Instagram

児童学科：フォロワー数：200（10/24 現在）
人間生活学科：フォロワー数：134（10/24 現在）

■効果の分析

Web：在学生、卒業生、高校生が閲覧していると思われ、一定の効果あり。

Instagram：児童学科や人間生活学科は女子学生が多いため、Instagram
を使うことで、視覚的に魅力を発信できるであろう。

5. 全体を通して

HP に関しては、入試広報を軸に大学全体としての予算はつくが、学部、学科単位の予算はつきにくくなっている。将来的には、大学全体の HP にツリー構造で学部、学科の情報を入れるという俯瞰した視点で考えていく必要がある。人間生活学部の場合、各学科がチラシ等で特色をアピールしているので、それらが高校生や外部に露出できる構造を考える必要もあろう。

令和元年度 人間生活学部教員養成推進委員会活動報告

教員養成推進委員会委員長
三橋 謙一郎

I 委員会の目的

教育実習等に関する資質や指導技術を確かなものするための具体的な方策を検討する。また、教員養成に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和元年度委員

竹原 明美 (人間生活学科)、松本 萬寿美 (食物栄養学科)、◎三橋 謙一郎 (児童学科)、古本 奈奈代 (メディアデザイン学科)、川村 恭平 (建築デザイン学科)、○貴志 知恵子 (心理学科)

[◎印：委員長、○印：副委員長]【敬称略】

III. 委員会開催の概要

一. 第1回教員養成推進委員会

日時：令和元年 6月18日(火) 16:30~17:30

場所：9号館10階(研究室⑥)

出席者：松本、古本、貴志、三橋(司会)、竹原(記録) 欠席者：(川村)

(敬称略)

議題

1. 教育実習および保育実習の評価をめぐる問題

・昨年度から本委員会において、教育実習および保育実習の評価点については、最終的に大学側で出しはどうかという意見でまとまっていた。しかし、教務部の担当者と話し合いを続ける中で、学側の負担が大きく、無理ではないかという結論に至った。しかし、大学側からの意見も尊重したいため、評価点がボーダーラインの学生に対しては、大学側が修正する方向で意見がまとまった。

2. 大学における教職科目の検討課題について

・文科省は、今後もさらに、教職科目のあり方について、次の視点から見直しを進めようとしている。

① 教科及び教科の指導法に関する科目群の見直し

② 大学の独自性をいかに発揮するか

③ 教員の資質向上のための「採用時の指標」をいかにカリキュラムの中に取り込むか

・①に関しては、教科に関するコアカリキュラムを念頭に踏まえ、教科教育法に関するカリキュラムの見直しを図ろうとするものである。②では、私立大学の独自性を示すために、各教職課程の養成する教師像を明確にすることが求められている。私立大学の独自性を生かした教育として、広島修道大学の事例が紹介されている。③においては、「採用時の指標」として、「教職の意義及び教員の役割・職務内容」科目での提示、「教職実践演習」での振り返りを取り入れる。

上記の説明がなされた。

3. 教員採用試験への取り組みについて

・児童学科はパンフレットに教員採用試験結果を掲載している。

・高知県は、退職者が多い中、受験者が少ないために合格しやすい現状である。6月

- 22日に一次試験が予定されているが、本学からも多くの受験生がいるようである。
- ・昨年度から、沖縄県出身の学生が独自でチームを組み、100円朝食を食べて受験勉強を進め、地元で現役合格者を4名も出したことがきっかけとなり、今年度は、学科を越えてチームをつくるなどして頑張っている学生が増加している。
 - ・児童学科は、学科内で直前講座を月曜日と水曜日に面接と専門に分けて実施している。(採用試験合格者を出して、入学者を増やすことが目的でもある。)

4. その他

- ・各委員の授業の進め方や、所属学科の学生の概況などが話された。

二. 第2回教員養成推進委員会

日時：令和元年 10月25日(金) 16:20~17:50

場所：9号館10階(研究室⑥)

出席者：松本、貴志、三橋(司会)、竹原(記録)【欠席者：古本、川村】

オブザーバー 辻、中村(全学共通教育センター)【敬称略】

議題

1 「教職実践演習」「教職履修カルテ」について

- ・教職実践演習は教職履修カルテが完成しないと受講できないが、記入漏れや先生方のチェックのないことが多い。今年度は1年生に対し、6月に説明を行った。ポートフォリオと履修カルテのリンクの検討をしたが、製作の金額が高いため、難しい。
- ・教職履修カルテは文科省に義務づけられているので必ず記入しなければいけないため、学生の振り返りに利用される自己評価シートに教員のコメント記入がもう少しほしい。
- ・食物栄養学科や人間生活学科は人数が少ないため、担任が記入している。学生へ記入の周知が難しい。

2 教育実習および保育実習の評価をめぐる問題について

- ・三橋先生から説明資料により、保育士養成施設連絡協議会において協議されたことについて説明。鳴門教育大学と四国大学は大学で評価している。四国大学は教育実習の部署があり、評価を検討できる。文理大学には担当がおらず、学校からの評価に従っている。最近、保育実習の点数が出たが、普段は非常に優秀な学生の評価が悪かった。
- ・学校によって評価点の差が大きい。本学は負担が教務部(教務課と教育研究支援課)にかかっている。チューターが点数をつけて教務部に出すことは無理なのか？また、保育実習と教育実習の担当部署が分かれているため一つにならないものか。この場で決めることはできない。評価は本来、大学がすべきではなからうか？実習校からの評価と大学内の評価の差が大きい場合は、検討すべきではないか？ベストな方法の検討が必要である。教務部担当の多田先生や安藝さん等を交えて話し合う必要がある。

3 現時点での教員採用試験の結果について

- ・資料により辻先生より報告。不合格となった学生も非常によく頑張った。
- ・養護教諭は特に、今年度合格者が多かった。
- ・新規卒業者で採用される場合は、苦勞するケースが多いので講師経験も大切である。
- ・食物栄養学科の学生で、今年度栄養教諭の受験者はいなかった。(栄養教諭のポストが少なくなっている)
- ・公民の受験者は出ていない。
- ・神戸市で起こった教員の不幸事は、教員離れにつながらないか心配である。

- ・養護教諭合格者が児童学科のチームに入り、学科を越えて勉強をしたことがよかったといっている。学科を越えて勉強するようになってきた。

三. 第3回教員養成推進委員会

日時：令和2年 2月 7日（金） 13：30～14：50

場所：9号館10階（研究室⑥）

出席者：松本、古本、貴志、三橋（司会）、竹原（記録） 欠席者：川村）

（敬称略）

議 題

1. 本年度の取り組みについて

- ・教育実習、保育実習の評価について

第1回、2回の会議録により三橋先生から説明。本学の現状では実際に学生を客観的に評価できない。鳴門教育大学や四国大学の学内評価とは異なり、実習校による評価のため評価点に差がある。最終的に大学が出したほうがよい。段階別評価はどうか。現在の状況で実施しつつ、柔軟なやり方で実施し、よい方法をとらなければいけない。

- ・教職履修カルテについて

第2回会議録により、履修カルテの記入については、年度内にカルテが書けていない場合は入力が出来なくなり、手書きになる。未記入があれば、4年生の教職実践演習は受講できない。

- ・教員採用試験への取組について

昨年度、沖縄県の児童学科の学生が始めたチームを組んで勉強する形が広まり、他学科でもチームを組んで学習するようになり、よい傾向が出ている。特に今年度、人間生活学科の養護教諭志望の学生のチーム学習により、現役合格4名という好成績を残した。

2. 報告・連絡

- ・令和元年度教員採用試験最終結果について【資料参照のこと】

- ・教員養成に関する研修会日程のお知らせ【資料参照のこと】

大学生のための教職ガイダンスについて

令和2年3月19日（木）9：50～16：10 [受付：9：20～]

（於：徳島県立総合教育センター）

IV 委員会活動の総括

本委員会では、本学の「全学共通教育センター」「全学教職課程委員会」「教員養成対策委員会」と連携を取りながら、本学の学生の教員としての資質能力の向上を目指し、「教職実践演習」「教職に関する科目」「教職履修カルテ」「事前・事後指導」や「教育実習」等のあり方を中心にして検討を行ってきた。

「教職実践演習」の実施に伴い、養成しようとする教員像の明確化、教職課程カリキュラムと「教職実践演習」との関係、「教職履修カルテ」の記載内容と項目の検証、「教職履修カルテ」と「教育実習」との関係、「教職履修カルテ」の作成とそのとらえ方や大学全体による教職課程運営体制の確立は、必要不可欠なことである。これらの点について本委員会では一定程度、有効な話し合いができたように思われる。

この点を踏まえ、次年度は本学学生の教員としてのさらなる資質能力の向上を求めて、「教職実践演習」と関連した「教職履修カルテ」「教育実習」や「学習支援ボランティア」等のより具体的・実践的なあり方の解明に取り組んでいきたい。

また、教員としての資質能力を高めていくことと関連させながら、教員採用試験への取り組みについても、より効果的な対応策を検討していきたいと考えている。

令和元年度 防災対策検討委員会報告

防災対策検討委員会委員長
山城 新吾

1 令和元年度（平成 31 年度）委員

人間生活学科	岡部	千鶴
食物栄養学科	森川	咲子
児童学科	西原	正純
メディアデザイン学科	山城	新吾
建築デザイン学科	山田	實
心理学科	小坂	清文

2 委員会開催の概要

今年度は直接集まったの委員会は開催せず、10月中旬～11月下旬にかけ、委員間のメール連絡によりすべての打ち合わせを行った。

3 人間生活学部防災対策検討委員会として検討を行った事項

全学的に危機管理マニュアル・ポケットマニュアル・安否確認サイト等の整備、津波および火災避難訓練、ボランティア活動や防災教育等がすすめられており、学部独自として検討すべき事項はないと考えられた。

4 地震等による二次災害防止対策のための必要部品調査について

転倒防止の必要な棚・ロッカー等、飛散防止フィルム・ロープ・ネット等取付の必要なガラス扉・棚等について、現在は設置や移転時に総務部施設用度課が対策を行っているが、各学科で未対策のものがあれば各学科単位で必要なものを検討・実施することとした。

以 上

第2章 各学科スタンダード

第1節 人間生活学科

人間生活学科は人間生活全般にわたって幅広く学ぶ学科である。人の相互理解のもとに築く心豊かな生活と健やかで快適な生活環境の構築を求めて知識を深めるとともに、環境との共存を図りながら自己に適したライフスタイルを創造する能力と実践力を身につけ、教養とグローバルな思考力を持つ教員・社会人の育成を教育目標としている。

教育内容は「生活経営学」「食物学」「被服学」「住居学」「保育・保健・養護学」の各分野から構成され、それぞれ、総論から各論へ、基礎から専門へと学びを深めていく。授業形態は講義、実験、実習、ゼミナールからなっている。特に1年次前期開講の「生活文化学」は、国際化の進展した生活の中で、日本や郷土を見直し、多様な価値観に対応できる技術や知識・考え方を講義や実習、学外演習験を通して身につけ、さらに、学科教員とのコミュニケーションを通して人との関わり方を理解する科目である。外部講師による講義も組み入れるなど、本学科の基礎的内容を総合的に学ぶスタートの科目として位置づけている。

本学科で取得できる教員免許は、家庭科および保健科の中学校教諭一種・高等学校教諭一種と養護教諭一種であり、フードスペシャリスト、医療秘書、社会福祉主事任用資格なども取得できる。どの免許・資格も現代社会においては非常に重要な役割をはたす資格である。学生の興味・関心・適性に応じた個別指導を行う事により、自己の専門性を確立させ、自立した生活者としての幅広い知識と応用可能な実技力を習得させる。

令和2年度からは新カリキュラムに移行し、他学科との連携を深めることにより、人間生活学科の教育内容をさらに拡充させることが可能となる。来る「人生100年時代における生活の質向上」を視座に据え、従来の教育内容に加え「環境」「健康」「福祉」「国際」そして「防災」の領域から生活研究を多面的に追究する学科として歩み続けたい。

- (1) 家庭科及び保健科の中学校1種・高等学校I種、養護教諭1種の教員免許を取得し、社会の変化に柔軟に対応でき、豊かな教養と包容力を持つ教員の養成を目指す。
- (2) 医療秘書・フードスペシャリスト・消費生活アドバイザーなどの資格や知識、及び他学科の講義を受講・受験することで取得可能となる日商簿記などの知識を、ビジネス社会において主体的に役立たせる意欲を持つ学生の育成を目指す。
- (3) 地域の課題解決に興味・関心・意欲を持ち、フィールドワーク等を通じて積極的に関わることによって得られた知見を、社会において実践し地域社会へ貢献する気概を持つ学生の育成を目指す。
- (4) 大学院や専攻科への進学を希望する学生への十分な学術研究能力と教育実践力の養成を行う。

第2節 食物栄養学科

管理栄養士は「ヒトの健康」を維持・管理する仕事に従事する。そのため、本学科では栄養や保健、衛生に関する高度な学識と技術をもつとともに、「人間栄養学」を実践できる人間味溢れる管理栄養士を養成する。すなわち、チーム医療の一員として傷病者の健康回復を栄養面からサポートできる職業人、保健チームの一員として地域住民の健康増進と疾病予防のために役立つ職業人、あるいはフードサービス分野において栄養部門のトップマネジメントを担うことのできる管理栄養士などである。いずれにおいても、栄養アセスメントに基づくマネジメントサイクルに適応できる職業人でなければならない。

さらに、食生活の乱れに起因する生活習慣病を予防するためには、義務教育課程において食育教育が重要である。そのため、管理栄養士資格を有し、「人間栄養学」を教育できる栄養教諭を養成する。

この目的のために、四年間を通して、栄養学を中心に「人体の構造と機能」や「ヒトの健康と疾患」について、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶ。さらに、これらに加えて、低学年では食品学や食品加工学、食品衛生学や給食管理、調理学について学び、高学年では、栄養教育・指導ために、公衆栄養学や栄養教育論を学ぶ。また、三・四年次には、学外臨地実習（学校、病院、給食施設、保健所など）で、実際に管理栄養士が活躍する現場を経験し理解を深める。

上記を現実のものとするには管理栄養士国家試験に合格して、管理栄養士の資格を取得しなければならない。そのために、国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本とする。そのため、国家試験対策としては、①演習科目の有効利用、②模擬試験の実施とその結果分析と事後指導、③自習室の積極的利用、等に対応する。一方、研究職や大学教員を目指す学生の育成にも努め、研究能力および教育能力の涵養については、卒業研究においてそれらの能力の基礎を教育・指導し、さらに大学院人間生活学研究科や専攻科において、より深い研究・教育能力を修得させる。

第3節 児童学科

今日の教育界においては、「いじめ」や「児童虐待」「子どもの貧困」等の問題が、社会的論議を呼んでいる。このような客観的な状況を念頭に置き、児童学科では豊かな感性、コミュニケーション能力、ICT活用力を身に付け、教育学、心理学、保育学等の学びから、多様な教育・保育ニーズに理論的、且つ、実践的に対応できる教員・保育士等の指導者養成に全力を傾けている。

このことを踏まえ、以下のように児童学科のスタンダードを構築する。

- (1) 主として、小学校教諭1種免許状、幼稚園教諭1種免許状および保育士資格（どの免許状・資格を取得するかは選択は自由）を取得し、国公立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園や児童福祉施設などに就職できる。
- (2) 在学中の学内外での学校・園・施設における小学校教育実習・幼稚園教育実習・保育所実習・保育施設実習や介護等体験実習を通して、専門的知識や実践的指導力の習得のみならず、社会人としての豊かな人間性を身に付けることができる。
- (3) 教員・保育士をはじめとする指導者として必要とされる資質や能力を十分に身に付けることができる。
- (4) 「教育方法技術論」、「情報処理」等の教育と情報に関する科目を履修し、将来の教育・保育などの実践現場において、ICT機器を有効に活用することができる。
- (5) 小学校教諭を目指す学生は、小学校教諭1種免許状と中学校英語2種免許状を取得でき、子どもたちに外国の身近な生活や文化に慣れ親しませる基礎的なコミュニケーション力を育てることができる。
- (6) 大学院への進学を希望する学生は、十分な学術研究能力とより高度な教育的実践力を習得している。

第4節 メディアデザイン学科

メディアデザイン学科では、デザイン能力を「問題を解決する能力、新しい価値を創出する能力」と捉え、メディアテクノロジーを活用することで新しいデザインを提案できる人材を育成する。具体的には、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を習得することを目的とする。ここで言うメディアテクノロジーとは、映像などのデジタルコンテンツの処理、プログラミング、Web サイト、Web アプリケーションの開発、ネットワークの構築・運営・管理、社会調査データなどの統計分析を指す。

また、当学科では、社会で求められている能力「各個人は、人材市場でどの程度の価値を持ち、通用するのか判断できる」、「人材を求める企業は、人材戦略を明確に立案できるようにする」(IT スキル標準 ITSS) も視野に入れ、次のような資格に裏付けられた人材養成を行う。

- 1) IT 専門職：「IT スキル標準」は知識だけでなく実務能力の評価指標であるため、当学科では知識を主体とした資格取得を目標とする。上級情報処理士[㊦]、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士資格の取得、IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者高度試験、MOS (Microsoft Office Specialist) 試験の合格を目指す。
- 2) 高等学校教諭：平成 15 年度から始まった高等学校「情報」の授業の教育者として、情報社会における IT やセキュリティ、情報倫理、著作権などを学び、人間性豊かなコミュニケーションができる人材を育成する。
- 3) 社会調査士：社会調査士認定協会の認定が始まった初年度（平成 16 年）から、資格を取得できる体制を整えた。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析方法の妥当性、問題点の指摘、提言ができる実力を養う。

カリキュラムは、①情報領域、②コンテンツ領域、③調査分析領域、④共通領域の 4 領域で構成される。

また、講義の中で業界第一線の知識・技術に触れ、外部講師による専門的な経験談を取り入れ、学生のスキル向上を図るとともに、学士力の向上に努める。

第5節 建築デザイン学科

日本の建築における課題は、豪雨、台風、地震や津波などの自然災害が多く、安全で優れた建物をつくる技術の向上がますます求められている。また同時に、エネルギーを浪費せず、環境に負荷をかけず、生活に快適さをもたらす建物の室内環境調整の技術やインテリアデザインも大切であり、合わせて、建物に美しさも期待されることも求められている。さらには、高齢社会をむかえ、誰もがスムーズに使える住宅や公共施設のユニバーサルデザインも要求されている。

従って、建築デザイン学科は建築・インテリアデザインの専門家として、このような多くの課題をかかえる社会に貢献する知識や技術をもった、人間性豊かな人材の育成を、教育のねらいとして位置付けている。

人間生活学部には属するメリットを生かして、人と生活と環境を大切に、建築の3大要素である「強・用・美」をそなえる、建築・インテリアデザインの実現をめざし、課題を解決できる創造力を持った人材を育成している。

教育は、講義とともに、製図、CAD、模型製作、建築材料実験などの実習・演習を展開し、カリキュラムツリーにしたがって系統的におこなわれている。また授業以外に宅建士と二級建築士の受験講座の開催や、ドローン、コンペ、リノベーション、3Dプリンターなどのチャレンジクラブをつくって学生諸君の学研活動をうながしている。

建築デザイン学科では、次のようなスタンダード（学習到達水準）を設けて教育にあたっている。

1. 専門分野の基本的な知識と考え方を身につける。
2. 自己の考えを的確に表現し、円滑なコミュニケーションができる。
3. 都市や地域の歴史・環境・計画についての基礎知識を持たせる。
4. 建物の室内環境調整についての基礎理論を習得させる。
5. 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建物の施工や材料について基礎知識を持たせる。
6. コンピュータについて、建築系の実務に必要な基礎知識と自由に操作することができる能力を持たせる。
7. 建築士に必要な実務的知識と設計製図能力を習得させる。
8. 戸建住宅および小規模建物の基本的な建築計画・設計・施工管理ができる能力を持たせる。
9. 中学・高校の家庭科教員に必要な住生活に関する知識の基礎的事項を習得させる。

第6節 心理学科

心理学は人間の心の機能（知・情・意）とその表れである行動についての学問であり、人間行動のあらゆる領域をその対象としている。基礎的な生理的反応や知覚の領域から、カウンセリングや心理療法といった対人支援の領域、また、生産性の向上や組織運営のあり方といった産業領域での活用、地域社会や環境との関わりまで含めたコミュニティ心理学など、非常に幅広い学問である。

ヒトは社会的動物であり、人との関わりの中で人間として成長し、人が作る社会の中で生きていく。心理学は人としての基礎教養であり、また、それぞれの職能領域で「こころの専門家」としての活躍が期待されている学問でもある。心理学科においては、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」等の基礎的領域から「健康・医療心理学」「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」「心理学的支援法」等の応用領域へと、幅広い領域の心理学を段階的に学べるようにカリキュラムが編成されている。また、「心理学実験」や「心理検査実習」「心理療法演習」などの体験・参加型授業によって、知識のみでなく、心理学的技能の習得を図っている。

心理学科は、卒業後の就職および進学に関連して資格取得という点から、3つの特徴ある目標指向プロセス（Goal oriented process）をもっている。これはコース編成というよりもキャリア選択に向けての具体的な指針であるので、余裕のある学生は（1）～（3）の複数の目標をもって大学生活を送ることができる。

（1）一般企業、公務員、等（心理標準プロセス）

人間関係が希薄になっている現代社会において、心理学を専門として学んできたこと自体が一般企業や公務員として好印象を持たれることは間違いないが、一般企業の会社員や一般公務員として社会の中で種々の役割を担うにあたって、心理学全般の基礎的知識・能力を認定するものとして、「認定心理士」と「心理学検定」がある。所定の科目を履修することで「認定心理士」の資格取得が可能である。また、在学中に「心理学検定」の受験が推奨されており、検定資格の取得を目指すことができる。このプロセスを選択して大学を卒業し、心理・福祉関連職種（児童、障害者、高齢者など種々の福祉施設）に就職・実務を経験しながら下記心理専門職を目指すことも現段階では可能である。

（2）養護教諭一種免許取得（心理養護教諭プロセス）

養護教諭は児童・生徒の心身の健康を担う教諭であるが、心理学科では特に「こころ」の健康に貢献できる養護教諭の養成を目指している。教育現場では、不登校やいじめなど心の問題を抱えた児童・生徒への支援が保健室の大きな役割になっており、身体的な知識に加え、心理学の専門性が必要とされている。

（3）大学院進学と資格取得（心理専門職プロセス）

心の専門家に関する国家資格への社会的な要請は強く、公認心理師法が成立した。本学科では、スタッフならびに実習先確保等万全の態勢で養成を始めており、大学院修士修了が国家試験・受験資格の要件なので、学部・大学院が揃っている徳島文理大学は国家資格を目指すには非常に良い環境だと言えよう。今後、医療や種々の心理相談機関において心理専門職として認められるためには、公認心理師あるいは臨床心理士の資格取得が望ましい。臨床心理士については、指定大学院卒業が受験資格とされており、本学大学院は臨床心理士養成第1種指定校であり、学部において優秀な成績を修めた者に対しては大学院進学における特別選抜制度の適用がある。

第3章 卒業生満足度評価の調査

第1節 大学全体

2019年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 (徳島文理大学全体)

徳島文理大学

対象者数	1020
回答者数	743
回答率	72.8%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	319 42.9%	424 57.1%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	92 12.4%	514 69.2%	125 16.8%	12 1.6%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	638 85.9%	36 4.8%	69 9.3%	0 0.0%

あなたの成績について一番多かったのは	優	良	可	無効
	319 42.9%	279 37.6%	145 19.5%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.15	293	311	104	24	11	743	0
			39.4%	41.9%	14.0%	3.2%	1.5%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.01	227	352	121	28	15	743	0
			30.6%	47.4%	16.3%	3.8%	2.0%		
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか	4.23	347	276	81	24	15	743	0
			46.7%	37.1%	10.9%	3.2%	2.0%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.24	329	308	76	15	15	743	0
			44.3%	41.5%	10.2%	2.0%	2.0%		
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか	4.09	307	262	124	31	19	743	0
			41.3%	35.3%	16.7%	4.2%	2.6%		
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	3.95	258	278	144	39	24	743	0
			34.7%	37.4%	19.4%	5.2%	3.2%		

III. 大学の施設および支援体制について

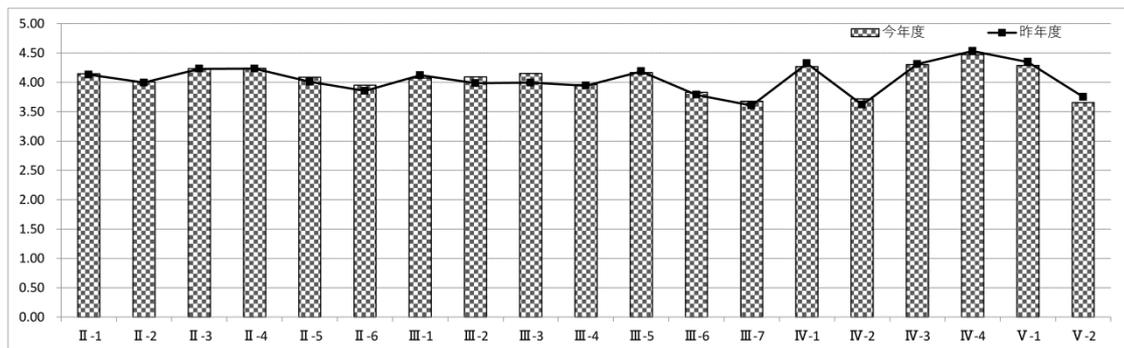
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.07	316	249	117	39	22	743	0
			42.5%	33.5%	15.7%	5.2%	3.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.09	332	217	143	34	17	743	0
			44.7%	29.2%	19.2%	4.6%	2.3%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.15	347	234	109	32	21	743	0
			46.7%	31.5%	14.7%	4.3%	2.8%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.96	279	257	139	34	34	743	0
			37.6%	34.6%	18.7%	4.6%	4.6%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.17	320	283	96	32	12	743	0
			43.1%	38.1%	12.9%	4.3%	1.6%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.83	291	222	105	64	61	743	0
			39.2%	29.9%	14.1%	8.6%	8.2%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	3.68	221	200	223	59	40	743	0
			29.7%	26.9%	30.0%	7.9%	5.4%		

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.27	363	267	75	25	13	743	0
			48.9%	35.9%	10.1%	3.4%	1.7%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.72	245	192	208	47	51	743	0
			33.0%	25.8%	28.0%	6.3%	6.9%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.30	416	200	86	16	25	743	0
			56.0%	26.9%	11.6%	2.2%	3.4%		
4	よき友と出会えましたか	4.47	508	140	57	15	23	743	0
			68.4%	18.8%	7.7%	2.0%	3.1%		

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.29	387	237	81	21	17	743	0
			52.1%	31.9%	10.9%	2.8%	2.3%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	3.66	219	225	189	44	66	743	0
			29.5%	30.3%	25.4%	5.9%	8.9%		



第2節 人間生活学部

2019年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果（人間生活学部）

徳島文理大学

対象者数	253
回答者数	198
回答率	78.3%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	56 28.3%	142 71.7%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	4 2.0%	193 97.5%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	168 84.8%	12 6.1%	18 9.1%	0 0.0%

あなたの成績について 一番多かったのは	優	良	可	無効
	109 55.1%	69 34.8%	20 10.1%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.42	104 52.5%	80 40.4%	10 5.1%	2 0.5%	3 1.5%	198	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.30	80 40.4%	101 51.0%	15 7.6%	0 0.0%	2 1.0%	198	0
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を 修得できましたか	4.45	118 59.6%	58 29.3%	18 9.1%	1 0.5%	3 1.5%	198	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.44	111 56.1%	71 35.9%	12 6.1%	1 0.5%	3 1.5%	198	0
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は 充実していましたか	4.22	101 51.0%	55 27.8%	31 15.7%	6 3.0%	5 2.5%	198	0
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4.22	90 45.5%	76 38.4%	22 11.1%	5 2.5%	5 2.5%	198	0

III. 大学の施設および支援体制について

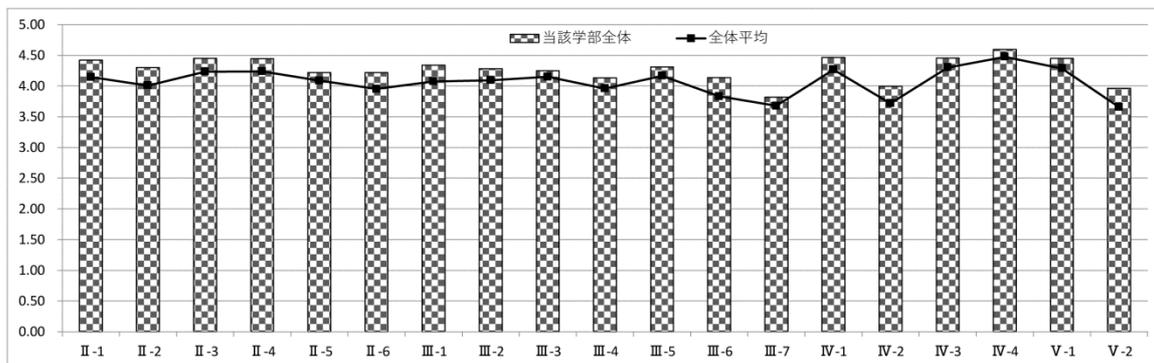
No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.34	104 52.5%	67 33.8%	19 9.6%	6 3.0%	2 1.0%	198	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.28	105 53.0%	53 26.8%	33 16.7%	5 2.5%	2 1.0%	198	0
3	図書館は利用しやすかったですか	4.25	102 51.5%	58 29.3%	27 13.6%	7 3.5%	4 2.0%	198	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.13	91 46.0%	60 30.3%	34 17.2%	8 4.0%	5 2.5%	198	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.31	97 49.0%	73 36.9%	22 11.1%	4 2.0%	2 1.0%	198	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.14	94 47.5%	62 31.3%	23 11.6%	13 6.6%	6 3.0%	198	0
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.82	74 37.4%	47 23.7%	54 27.3%	13 6.6%	10 5.1%	198	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.46	118 59.6%	60 30.3%	15 7.6%	4 2.0%	1 0.5%	198	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.99	88 44.4%	48 24.2%	42 21.2%	13 6.6%	7 3.5%	198	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.45	127 64.1%	47 23.7%	16 8.1%	3 1.5%	5 2.5%	198	0
4	よき友と出会えましたか	4.60	151 76.3%	30 15.2%	8 4.0%	2 1.0%	7 3.5%	198	0

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数／下段：回答率（%）					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.45	122 61.6%	56 28.3%	12 6.1%	3 1.5%	5 2.5%	198	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.96	80 40.4%	60 30.3%	38 19.2%	11 5.6%	9 4.5%	198	0



第3節 卒業生満足度評価アンケートの結果に対する総評

人間生活学部分については、全体的に4点付近の評価を受けている。授業の充実度やわかりやすさ、専門知識や教員の熱意などについてはおおむね良い評価である。大学全体と比較しても、授業・教育課程について全体的よい評価を受けている。

第4章 学生の授業評価アンケート

第1節 大学全体

2019年度後期 授業アンケート集計結果（全体） 徳島文理大学

対象数（学生の履修登録数の総和）	回答数	28,077	有効回答数	27,718
45,422	回答率	61.81%	有効回答率	98.7%

1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	9,397	0.34	2.98
部分的に読んだ(3点)	11,083	0.40	
ほとんど読まなかった(2点)	4,566	0.16	
まったく読まなかった(1点)	2,672	0.10	

2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	9,526	0.34	3.18
どちらかというに興味があった(3点)	14,342	0.52	
どちらかというに興味がなかった(2点)	3,167	0.11	
まったく興味がなかった(1点)	683	0.02	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか			
設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	13,712	0.49	3.37
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	11,065	0.40	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	2,370	0.09	
わかりにくい内容であった(1点)	571	0.02	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	24,059	86.80
自立性	8,967	32.35
協同性	7,439	26.84
考え抜く力	10,007	36.10
交渉力	4,790	17.28
発信力	3,652	13.18

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
説明内容	18,294	66.00
授業の進め方	15,197	54.83
教科書・パワーポイントなどの資料	11,534	41.61
課題や宿題の内容（量も含む）	7,593	27.39
教室の設備	7,897	28.49

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	10,337	0.37	3.15
良(3点)	11,471	0.41	
可(2点)	5,655	0.20	
不可(1点)	255	0.01	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	14,399	0.52	3.44
どちらかという満足(3点)	11,528	0.42	
どちらかという不満足(2点)	1,425	0.05	
不満足(1点)	366	0.01	

第2節 人間生活学部

2019年度後期 授業アンケート集計結果 (人間生活学部) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	9,189	有効回答数	9,052
12,226	回答率	75.16%	有効回答率	98.5%

1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	3,328	0.37	3.06
部分的に読んだ(3点)	3,605	0.40	
ほとんど読まなかった(2点)	1,426	0.16	
まったく読まなかった(1点)	693	0.08	

2. 受講する前 (学期はじめ) 、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	3,466	0.38	3.25
どちらかというに興味があった(3点)	4,505	0.50	
どちらかというに興味がなかった(2点)	925	0.10	
まったく興味がなかった(1点)	156	0.02	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	5,089	0.56	3.46
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	3,183	0.35	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	628	0.07	
わかりにくい内容であった(1点)	152	0.02	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	8,137	89.89
自立性	3,121	34.48
協同性	2,816	31.11
考え抜く力	3,416	37.74
交渉力	1,872	20.68
発信力	1,630	18.01

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	6,309	69.70
授業の進め方	5,218	57.64
教科書・パワーポイントなどの資料	4,034	44.56
課題や宿題の内容 (量も含む)	2,750	30.38
教室の設備	3,091	34.15

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	3,812	0.42	3.23
良(3点)	3,549	0.39	
可(2点)	1,632	0.18	
不可(1点)	59	0.01	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	5,289	0.58	3.53
どちらかという満足(3点)	3,318	0.37	
どちらかという不満足(2点)	361	0.04	
不満足(1点)	84	0.01	

第3節 令和元年度後期授業評価アンケートの結果に対する総評

人間生活学部は大学全体と比較して全てにおいて高くなっている。本年度よりアンケート項目が新しくなっており、例年との比較はできない。今後の結果に注目する必要がある。

第5章 研究授業

第1節 スケジュール

番号	授業日	曜日	講時	学科	科目	受講学生	教授法	シラバス科目 番号	授業者	参観教 員数	授業者	協力者
1	12月18日	水	3	人間生活学 部	臨床看護学	31	講義及びグループ ワーク	13731	竹内 理恵	1	1	0
2	6月27日	木	3	食物栄養学 科	食品加工学	54	講義法	10115	亀村典生	3	1	0
3	12月19日	木	2	児童学科	保育の心理学II	25	一斉講義, 個人・ グループワーク	13064	金子 紗枝子	3	1	0
4	11月27日	水	4	メディアデ ザイン学科	プログラミング応 用	12	講義および実習	12830	篠原 靖典	4	1	0
5	12月3日	火	1	建築デザイ ン学科	構造力学I	45	講義および演習	10038	笠井敬正	2	1	0
6	7月16日	火	2	心理学科	心理統計学演習	30	学生によるプレゼ ンテーション	9号館ゼミ室 ②	岡林春雄	1	1	0

第2節 研究授業報告

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	人間生活学科
授 業 者	竹内 理恵	科 目 名 (シラバス番号)	臨床看護学 (1 3 7 3 1)
授業協力者		実 施 教 室	1308 教室
実 施 日 時	令和元年 12月18日 水曜日 3 講時		
対 象 学 生	人間生活学部人間生活学科2年、心理学 科2年	受講学生数： 31 名	
教 授 法	講義及びグループワーク		
授業テーマ 性感染症の予防について考えよう			
研究授業内容自己評価 今回の授業では、性感染症についてなぜ感染が広がるのか、どう予防するのかを、学生が自分の問題としてとらえられるようにすることが重要であると考えた。そこで、事前に今回の講義内容のワークシートを配付し、講義内容の全体と性感染症に関する各班の課題について要点をノートにまとめる予習を行わせた。授業では、性感染症に関する医学的知識を理解した上で、予防方法をグループで協議し多様な予防方法について考えられるようにした。グループの発表に際しては、ホワイトボードを利用した。授業の最後に、性感染症予防の標語を作成し、予防への意識を高めようとした。 学生自身の事前学習とグループ協議を中心に授業を進めることにより、学生の授業参加への意欲と知識が広がったと考えられる。今後は学生全員が積極的に授業に参加できるように、教材となる講義資料の充実をさらに図る必要があると考えている。			
研究授業参観者の意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> ・学生は、予習がよくできており、非常に熱心に受講できていた。また、グループ学習により、自分の意見を述べることで意見の集約につながると感じた。 ・ホワイトボードの活用がうまくできていたが、グループの発表では、声が小さくて聞き取れないときがあり残念だった。 ・学びから標語につなげる工夫がよかった。知識の定着には、表現することはうまい方法であると思われる。 			
授業参観教員数	1 名		

研究授業(教員相互の授業参観)記録			
学部	人間生活学部	学科	食物栄養学科
授業者	亀村典生	科目名 (シラバス番号)	食品加工学 (10115)
授業協力者		実施教室	9202
実施日時	令和元年 年 6 月 27 日 木 曜日 3 講時		
対象学生	食物栄養学科3年生	受講学生数: 54 名	
教授法	講義法		
<p>授業テーマ 畜産加工品に関して</p>			
<p>研究授業内容自己評価 本講義は学生さんに食品加工学の重要性、加工方法を学んでいただくことを目標に授業に取り組んでいる。最近の学生さんは本を読む機会があまりないと言われているため、授業において教科書を読ませることを取り入れ、読み終わった後、その部分において、分かりやすい解説を私がするようにしている。さらにポイントをおさえるように、その日の講義で重要な点において単語を書いたプリントを配布して、自分でまとめるようにしている。そのために2重にその部分において勉強できるようになっているため学生さんの理解度も深まっていると考えている。さらに教科書では足りない部分もあるので、他の参考書などから資料を印刷し、配布しているため、幅広く勉強ができるようになり学生さんも、より専門的なことが学べていると考えている。</p>			
<p>研究授業参観者の意見・感想 授業の進行等に関して、問題がないとのことである。意見としては、板書をもう少し活用し、まとめのプリントにおいて、板書にキーワード的なことを書いていくと学生さんもより理解度が深まり、まとめのプリントを正確にまとめることができるということ。また、まとめのプリントを学生の中には書かない人がいるので、加点と言うことで提出させることによって、皆が真面目に記載するようになるとのこと。教科書を一冊前期に終わらせる予定であるためペースが速い。そこで、もう少し簡潔にゆっくりと授業を進めて言うほうが良いとの意見をいただいた。また授業中寝ている人がいたので、その対策も少ししていくほうが良いということ。 これらの意見を聞いて、板書の活用法や、学生さんがもっと集中してきけるような工夫を考えていきたい。</p>			
授業参観教員数	3	名	

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	児童学科
授 業 者	金子 紗枝子	科 目 名 (シラバス番号)	保育の心理学 II (13064)
授業協力者		実 施 教 室	25 号館スタジオ型
実施日時	令和 元年 12 月 19 日 木曜日 2 講時		
対 象 学 生	保育科 2 年生	受講学生数： 25 名	
授 課 法	一斉講義, 個人・グループワーク		
授業テーマ 乳幼児期における基本的な生活習慣の獲得			
研究授業内容自己評価 基本的な生活習慣を子どもたちに効果的に獲得させるために、保育者として必要な知識・技能について学ぶことが本時の目標であった。実習時に作成した日誌を用いて、日々の生活の中に基本的な生活習慣を獲得させる機会が存在していることについて演習を行った後、適切な生活習慣を強化するための一つの方法として「条件づけ」が有効であることについて説明した。また基本的な生活習慣が複数の動作の組み合わせで構成されていることを資料および演習で確認させ、獲得を促すためにはその一つ一つに介入することが必要であることも説明した。これまでの実習経験と結びつけたことで、学生はおおむね熱心に参加していたと考える。			
研究授業参観者の意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、前回の授業のふり返りを学生からの質問に答える形でやっており、今回の授業にスムーズに入っていくことができているようであった。 ・よく通る声で、かつ学生に話しかけるような口調で、学生は熱心に話を聞いていた。 ・パワーポイントのスライドが丁寧に作られていた。 ・講義一辺倒ではなく、随所に演習課題をはさみ、学生が自ら考えながら授業が進んでいくアクティブ・ラーニングになっていた。 ・演習を行う際には、何をどのようにするか、その流れがスライドで示されており、学生はうまく演習課題に取り組むことができていた。 ・学生の私語に対する注意が適切に行われており、静かな環境で授業が進んでいた。 			
授業参観教員数	3 名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	メディアデザイン学科
授 業 者	篠原 靖典	科 目 名 (シラバス番号)	プログラミング応用 (12830)
授業協力者	古本 奈奈代	実 施 教 室	マルチメディア室
実施日時	令和元年11月27日 水曜日 4講時		
対象学生	メディアデザイン学科 2年	受講学生数：12名	
教授法	講義および実習		
授業テーマ グラフィック作成用プログラミング			
研究授業内容自己評価 「グラフィック作成用プログラミング」の単元に入り本講時で2時間目である。最新バージョンのプログラミング言語を使用しており以前よりもプログラミングの手続きが難しくなってきた。そこで、本講時の最初は、先週作成したグラフィックツールの復習に時間をかけ理解度を上げるようにした。その後、プログラムを改良する過程で新しい命令およびオブジェクト、プロパティ等を説明した後、プログラム作成に取りかかった。学生は概ね内容について理解をしており、全ての学生が時間内にプログラム作成を終了することができた。			
研究授業参観者の意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> ・説明がわかりやすかった ・学生全員が同じように理解しており、プログラム作成の時間もほぼ同じであった。 ・レポートの提出状況を見ながら授業の進めていたのは参考になる。 ・学生が楽しそうに授業に取り組んでいた。 ・良いテキストを選定していると思う。 ・プログラミング言語を他言語に変更した方が良いのでは。 ・（この意見に対し）研究授業の主旨は授業運営に関する意見や感想なので、この意見は適切でない。 			
授業参観教員数	4名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	建築デザイン学科
授 業 者	笠井敬正	科 目 名 (シラバス番号)	構造力学 I (10038)
授業協力者	無し	実 施 教 室	231108
実 施 日 時	令和 元 年 12 月 3 日 火曜日 1 講時		
対 象 学 生	建築デザイン学科 2 年	受講学生数：45 名	
授 課 法	講義および演習		
授業テーマ ヒンジのある構造物の反力			
研究授業内容自己評価 どちらかと言うと学生にとっては得意としない科目なので、毎時間復習問題を取り入れながら進めていっている。また今回は「ヒンジ構造の反力」という分かりにくい分野であったが、スライドを用いて説明したので少しは理解してくれたと思う。 この授業では練習問題を解くときは班で話し合いながら解いていき代表者が前で解答するというアクティブラーニングに近い形をとっているが、まだまだ学生の積極的な参加が乏しいように感じる。学生がこの科目に興味を持ち楽しく学修できるようにするにはどうしたらいいか、授業の在り方も含めてもっと考えていく必要があると感じた。			
研究授業参観者の意見・感想 学生の態度は問題なく真剣に授業を受けていた。 教員の話し方も聞き取りやすくわかりやすい説明であった。 グループ討議による問題解決方法に興味を持った。 指名された班の代表者は確実に正解を板書できていた。 スライドを使った理解しやすい授業を展開していた。			
授業参観教員数	2 名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	心理学科
授 業 者	岡林春雄	科 目 名 (シラバス番号)	心理統計学演習 (13725)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9号館ゼミ室②
実施日時	令和元年7月16日 火曜日 2講時		
対象学生	心理学科2年次生	受講学生数： 30 名	
教授法	学生によるプレゼンテーション		
<p>授業テーマ</p> <p>独立変数と従属変数の設定から仮説検証のために分散分析が適用できるようになる！</p>			
<p>研究授業内容自己評価</p> <p>「心理統計学演習」は、心理学科の学生が授業前から「数字を扱うのが嫌いだから（算数や数学が嫌いだった）、受けたくない」と思っている授業である。そのような学生に、講義形式の授業だけでもって行くのでは、学生が理解レベルまで到達できない。そこで、演習が必要である。</p> <p>今回、グループワークという形で、自分たちで問題を設定し、データを取り、自分たちで処理しながら仮説検証ができるのか、というところがポイントとなった。</p> <p>前期前半PCルームでSPSS使用し、後半論理展開を中心にやってきたことが、ある程度、染みわたり、自分たちで分散分析を行い、仮説検証に導く——そのプレゼンテーションを行うことができた。PISA型学力である応用に近づけた、と言えよう。細かいところは、問題があるので、これから修整をかけたい。</p>			
<p>研究授業参観者の意見・感想</p> <p>心理統計の授業でどのようなことを学習しているのか、わかりました。</p> <p>自分たちで、ここまで考え、発表論文集を作成できたことは素晴らしい。心理学実験の授業などとも関係しているので、表の場合はタイトルを上、図の場合は下にタイトルを入れる、といった世界共通の決まりを徹底してもらったら、他の授業にも（卒論にも）役に立つ。</p> <p>ひとつの授業で学んだことを他の授業に生かせるようになれば良い。</p>			
授業参観教員数	1 名		

第6章 教員活動状況の調査

第1節 人間生活学科

個人情報

1. 氏名：岡部 千鶴
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 家庭経営学、家族関係学、消費者行動論、生活文化論
2. 授業担当科目
前期：家庭経営学（家庭経済学を含む）、生活文化学、専門ゼミナールⅠ、
家族社会学（理学療法学科）、総合科目B（学生災害ボランティア入門）
家族関係学特論Ⅰ（研究科 児童）
後期：家族関係学、生活関連法、消費生活論、家庭支援論、専門ゼミナールⅡ、
卒業研究

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（3）名、大学院生：修士（0）名

4. 自己評価：

- ①「ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ（SPOD加盟校教員対象）」の内容を反映した教育を実践することができたと感じている。来年度も引き続き、教育の責任、理念、方法、成果、課題、改善、目標を整理し、教育に携わる専門職としての責任を自覚しつつ、日々の教育活動に従事したい。
- ②卒業研究として3名の学生に卒業論文指導を行った。3名とも、「徳島の活性化」「地域貢献」など、問題意識は明確であり、熱意も強かったが、テーマの具体的な絞り込みに時間がかかった。加えて、「論文」作成に関する基礎的な知識に欠けたため、初歩的な指導に多くの時間を傾注することとなった。その結果、内容的な指導はまだ不十分ではあったと反省している。来年度は進捗管理に留意したい。ただし、どの学生も論文を書き上げることによって強い達成感を得ており、学生の主体的な学びの姿勢形成に貢献できたことは私にとっても大きな励みとなった。
- ③毎回、授業終了時にフィードバックシートを記入させ、次回講義時に解説と共に返却し、双方向的な授業となるよう心がけた。質問、時間外学習などの記入項目を設けることにより、事前・事後学習の重要性を気づかせることができたのではないかと考えている。フィードバックシートには誤字脱字が多く、何を言いたいかわからない文章も多くみられ、毎回、チェックし添削して返却するのはかなりの負担であるが、新年度も継続したい。
- ④昨年に引き続き、レポートの書き方に関する指導に時間を割いた。多く見られる「教科書の丸写しまたは教科書を要約しただけ」、「ウィキペディアの丸引用」、「参考文献や資料がない」などの問題はまだまだ解消できていない。次年度も引き続きレポート作成についての指導を行い、主体的に学ぶ姿勢が求められていることを学生に自覚させたい。

研究領域

1. 様々な困難を抱えた家族への支援策
2. 家庭における道徳的規範の世代間継承
3. 家族を超えた関係の形成によるケアの社会化

平成 31 年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

『現代家族を読み解く 12 章』日本家政学会編 丸善出版 (分担執筆)

『持続可社会をつくる生活経営学』日本家政学会生活系絵学部会編
朝倉書店 (分担執筆)

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 平成 31 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

自己評価：

①家族をめぐる状況が大きく変化している中、家族の多様性、家族を補完する新たな関係性に関する研究が求められている。特に、課題を抱えた人自らがそれを乗り越えていくためにはどのような支援が必要かについて研究を深めたい。

②日本家政学会による『現代家族を読み解く 12 章』発行及び『持続可社会をつくる生活経営学』(発刊準備中)に貢献できた。

③日本家政学会第 71 回全国大会開催にあたり実行委員会委員として多くの時間を割いた。同学会が認定している新資格「家庭生活アドバイザー」研修にも参加した。今後は、本資格の認知度を高め、資格としての実効性を高めるよう学会と協力していきたいと考えている。また、本学科において、同資格の導入が可能かについて考えたい。

④日本防災士機構による「防災士」資格を取得したことにより「総合科目 B (学生災害ボランティア入門)」を分担担当することとなった。今後は、防災や地域社会との連携という観点を持ち、「生活の質向上と人類の福祉に貢献」という家政学の理念に基づいた研究を行いたい。

⑤鳴門教育大学の黒川衣代教授を筆頭とする研究グループに属し、2019 年度ダイバーシティ推進共同研究制度に応募し採択された。今年度は顔合わせと研究スキームの作成のみであったが、次年度は質問紙調査とインタビュー調査を行う予定。

大学内運営

活動報告

学科長、2 年生担任、自己点検・評価実施委員会、宿泊セミナー運営委員会、教務委員会、教員養成対策委員会、短期中期目標・計画策定委員会、防災対策検討委員会、1~4 年生チューター

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本家政学会 (第 71 回全国大会実行委員会委員)

日本家政学会家族関係学部会

日本家政学会生活経営学部会

日本消費者教育学会

2. 教育機関への貢献

八女筑後看護専門学校看護科非常勤講師 担当科目「文化と生活」
審議会等委員

① 徳島県政府調達苦情検討委員会委員

② 久留米市伝統的町並み保存審議会委員

個人情報

1. 氏名：藤田 義彦
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：医学系、薬学系、衛生学、食品学、公衆衛生学
2. 学部授業担当科目
前期：公衆衛生学（予防医学を含む）、食品の安全性、食品衛生学、食品学実験、専門ゼミナールⅠ、衛生学特論（専攻科）、生活文化特論Ⅰ（大学院）
後期：衛生学、公衆衛生学実習、食品学各論実験、食品衛生学実験、食品学実験、専門ゼミナールⅡ、公衆衛生学特論（社会福祉を含む）（専攻科）、生活文化特論Ⅱ（大学院）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 3名
4. 自己評価：授業内容をプリントにまとめて、分かりやすい授業の説明に心掛けた。予習で学んだことをグループで共有し、学生に発表してもらい自発的学習のモチベーションを高めた。

研究領域

1. 専門研究領域：医学・薬学・分子生物学・法科学
2. 研究課題及び概要
 - ①DNAによる徳島県特産物、薬用植物の新・鑑定法：徳島県特産物、薬用植物は、日本人の健康志向を反映して広く用いられている。しかしながら、それらを摂取、服用するときは、加工や抽出をするため原形をとどめず植物形態学的検査による品種識別は困難となる。また、偽造や異物混入も考えられ、安全と安心の健康生活を目指してDNAによる徳島県特産物、薬用植物の新・鑑定法を開発する。
 - ②法科学におけるDNA鑑定の問題点を指摘し、冤罪絶無のための解決策を示し、社会正義の実現を目指す。
 - ③世界的な法科学鑑定標準化の確立を目指す。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

- ①藤田義彦：DNAによる徳島県特産物の新・鑑定法～第6報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して～、DNA多型、27、66-70、2019。（集会発表論文・査読あり）

2. 学会発表

- ①藤田義彦：DNAによる徳島県特産物の新・鑑定法～第7報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して、日本DNA多型学会第28回学術集会、京都、2019。
- ③藤田義彦：ニューヨーク市首席医学検査官事務所におけるDNA型鑑定について（第2報）、第56回日本犯罪学会総会、東京、2019。

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

- ①科学研究費補助金交付、基盤研究（C）「科学的証拠の信頼性評価法と標準鑑定法の確立」

自己評価

「DNAによる徳島県特産物の新・鑑定法～第6報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して～」をDNA多型に査読ありの集会発表論文として発表し、DNAによる徳島県特産物の識別法を開発した。

「DNAによる徳島県特産物の新・鑑定法～第7報～食品偽装のない安全と安心の食生活を目指して～」を日本DNA多型学会第28回学術集会で発表した。

科研費により現地で調査・研究し、「ニューヨーク市主席医学検査官事務所におけるDNA型鑑定について（第2報）」を第56回日本犯罪学会総会において発表した。

以上、学会発表、論文発表を行い、前年度以上の成果を上げることができた。さらに研究を進め、科学研究費補助金の交付を受けたことにより世界的に法科学鑑定の標準化を確立し、冤罪の絶無を目指す。また、その成果として本の出版を予定している。

大学内運営

活動報告

倫理審査委員会副委員長、学長補佐、教育研究委員、宿泊セミナー運営委員、学生指導委員、遍路ウォーク委員

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ①日本法科学技術学会評議員
- ②日本犯罪学会評議員
- ③日本薬学会会員
- ④日本DNA多型学会会員
- ⑤日本法中毒学会会員
- ⑥日本法医学会会員

2. 地域社会への貢献

- ①学校薬剤師(徳島文理大学附属幼稚園、徳島文理小・中・高等学校)
- ②徳島文理大学同窓会・アカンサス会顧問
- ③社会福祉法人ひまわり福祉会評議員
- ④えん罪救済センター運営委員

個人情報

1. 氏名：竹原 明美
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：家庭科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ、調理学、食品学、調理学演習、食品加工貯蔵学実習、
専門ゼミナールⅠ、生活文化学、文理学、卒業研究
後期：家庭科教育法Ⅲ、専門ゼミナールⅡ、調理学実習、事前事後指導、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（3）名
4. 自己評価

本年度の家庭科ⅠⅡⅢと事前事後指導では、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開した。学生は来年度教育実習を控えているので実習校において実践できる内容を取り上げ、グループ学習やロールプレイングなどを実践した。また、模擬授業では学生が手法や工夫を凝らした展開を実践できた。本年度は受講生が多く模擬授業なども個別指導が大変であったが、学生達は多くの授業を参観できた。結果として学生による授業アンケートでは予想以上に昨年度より好評価を得た。実験・実習の授業では調理学演習、調理学実習、食品加工学実習を担当した。本年度の調理学実習は建築デザイン学科2年生3名、人間生活学科3年生1名、4年生1名が1年生に混じって実習したが、お互いが打ち解けた雰囲気の中での実習が展開できた。出席率において、受講登録したものの受講をしなかった1名を除き、欠席者がほとんど出なかった。実習の前に調理法の説明を昨年度より丁寧にわかり易くしたつもりだが、いざ実習になると全く指示が通ってなかった事もあり、自分勝手なやり方で実習を進める学生もいたりして、指導法改善の必要性を感じた。

研究領域

1. 専門研究領域：家庭科教育の実践力をつける教育法、鹿革の有効利用
2. 研究課題及び概要

家庭科は「不易と流行」の教科であり、内容は家庭生活の細部にわたっている。しかし、中・高での授業時数は非常に少ないという現状の中で、生徒たちにどう指導していく事が可能なのかを探ることを昨年度研究課題にあげた。本年度も、アクティブ・ラーニングを取り入れるとどのような効果があるのかということに取り込み実践した。受講した学生たちは模擬授業で取り入れることにより実感できた。

鹿革の研究では、鹿革の特徴を活かした染色、鹿革製品の商品開発や販売商品・価格の設定について学生と共に進めた。本年度は昨年度の研究結果を踏まえて販売できる鹿革の小物をハンドメイドし、徳島ビジネスチャレンジメッセに出展させていただく機会を得た。作品を展示するとともに研究をまとめたポスター展示もした。来場者に対して購買したい物などを調査し今後の活動の資料にできた。大学祭ではハンドメイド小物を原価で販売し、牛革を使って製作した小物との売れ行きと比較もできた。城西高校神山分校生に対しては出前授業を実施し、獣害についての講義で特に鹿の害について理解してもらい、更に鹿革小物を製作して鹿革の良さを実感してもらうことができた。染色については草木染めにおいて、明るい色に染色できるか紅花染めを試みた。根拠として、紅花染めは絹などの動物性繊維がよく染まるという事実から、動物性の鹿革も染色できるのではないかと推測した。これまで試みた染色は夕黒や茶、紺色といった地味な色に染まったが、今回の紅花染めではピンクや黄色に染まり推測通り、鹿革を紅花でも染色できる結果を得た。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

なし

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

自己評価

授業運営については支援を要する学生もいるため、わかりやすい授業形態を実践していきたいと考えている。また、鹿革研究についてはまだまだ研究の余地が残っており染色や利用の部分で研究を進めていきたい。

大学内運営

活動報告

人間生活学科 3年担任 チューター生（4年6名 2年6名 1年5名）、
教職課程委員会委員、自己点検・自己評価委員、教員養成推進委員会委員、広報委員会委員、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、入学試験委員会委員
退学者防止対策検討委員会委員

- ① 中・高の家庭科教員を目指し採用試験を受験予定の学生に対し、教員養成対策講座はもとより、その延長として学生に受験対策を実施した。本年度は徳島県と高知県の教員採用試験を2名が受験したが、両名とも不合格に終わった。しかし、建築デザイン学科の男子学生が大阪府の中学校教員に合格できた。
- ② 県立那賀高校への広報活動を行っているが、森林クリエイト科もでき、普通科の定員も少なくなったため、大学への進学率が減少している。本学への進学者も減少しているが本年度は1期B日程の受験者もいて、想定していた以上の6名ほどが大学・短大で受験した。

社会貢献

1. 学会等への貢献

なし

2. 地域社会への貢献

- ① 小松島西高校学校評議員
- ② 城西高校神山分校生活科生への講師
- ③ 徳島県内の大学と徳島県教育委員会との連携に関する連絡協議会委員
- ④ 徳島ビジネスチャレンジメッセにおける小学生インターンシップとポスター展示及び鹿革のハンドメイド作品展示
- ⑤ 阿波地美栄×狩猟フェスタにおけるポスター展示と鹿革のハンドメイド作品展示

個人情報

1. 氏名：竹内 理恵
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：看護学 学校保健学 養護実践学 健康教育学
2. 学部授業担当科目
前期：基礎看護学 看護技術 臨床看護実習 保健科教育法Ⅰ 事前・事後指導（養護） 専門ゼミナールⅠ 学校ボランティア実践 臨床看護実習の事務手続き全般
後期：臨床看護学 基礎看護技術 臨床看護実習 小児保健 教職実践演習 専門ミナールⅡ 養護実践演習 卒業研究 臨床看護実習の事務手続き全般
※今年度は、臨床看護実習の時期を3年の夏休みから2年の春休みに変更したので、前期に3年の指導と事務手続きを、後期に2年の指導と事務手続きを行った。
3. 直接に研究指導した学部学生：卒論研究（3）名
4. 自己評価

学生が主体的に授業に取り組めるように、ルーブリック評価を取り入れ、グループ活動や各人の発表等に対する他者評価並びに自己評価を実施した。また、知識理解のために予習範囲の教科書の要点をノートにまとめさせ毎回チェックするとともに、知識の定着を図るため小テストを数回実施して、学生の自主的学習を促すようにした。

さらに、授業をきっかけにそれぞれの科目に対する興味や関心を広げ、学生の学ぶ意欲を育てるために小論文の作成を課題とした。学生が関心のある内容をテーマとして取り上げ、調べまとめる体験を通して、学ぶことへの関心を高め、論理的な思考力を少しでも身に付けられるようにした。

次年度は、小論文の構成や内容をさらに充実させるよう、一人一人へのきめ細かい指導を行っていきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：学校保健学 養護実践学 看護学 健康教育学
2. 研究課題及び概要
養護教諭には、多様化・複雑化した健康課題を解決していく実践的能力が求められる。そこで、養護教諭養成における実践的能力の育成に関する研究と、現場の養護教諭と連携した健康課題を解決するための養護実践活動のあり方に関する研究をさらに進めていこうと考えている。
3. 令和元年度分 研究業績一覧
 - ・論文・著書 なし
 - ・学会発表
- 1) 竹内理恵、貴志知恵子：養護教諭志望の学生の経験過程と自己肯定感の変化 第4報 日本養護教諭教育学会第27回学術集会、横浜市、2019
- 2) 貴志知恵子、竹内理恵：養護教諭志望の学生の経験過程と自己肯定感の変化 第3報 日本養護教諭教育学会第27回学術集会、横浜市、2019
4. 知的財産権の出願・取得状況
なし
5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし
6. 自己評価

平成28年度より、学生の養護実践能力の向上を図るために、保健室ボランティア活動の企画・運営をしている。平成28年度は35回延べ120人、平成29年度は72回延べ189人、平成30年度は78回延べ186人、令和元年度は162回延べ287人の学生が、各

学校の要請を受けボランティア活動に参加した。また、養護教諭志望の2年に対して、小学校に依頼して保健室の観察実習の場を設定し、令和元年度は2名が参加した。このように学校現場で直接養護教諭から指導を受け、養護実践活動を行う機会を作っている。これらの体験により、学生は自分の養護教諭像をより確かなものにし、今後の養護実習や採用試験に向けて意欲を持って取組む原動力になったと考えている。今後も、学校現場の養護教諭の協力を得て、学生に多様な体験ができる場を作るとともに、現場の養護教諭と連携した研究を進めたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告：広報委員、教員養成対策委員、選挙管理委員会委員、4年生担任、1～4年生チューター、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、養護教諭免許取得者の臨床看護実習の運営及び事務手続きの全般、養護教諭採用試験の二次対策指導

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - 日本養護教諭教育学会会員
 - 日本学校保健学会会員
 - 日本教育保健学会会員
 - 日本健康相談活動学会会員
2. 地域社会への貢献
 - ① 令和元年度教員免許状更新講習講師
「ヘルシースクールを目指す教育実践の進め方」
 - ② 徳島大学医学部保健学科非常勤講師
令和元年12月13日、令和2年1月24日「教育相談」講義
 - ③ 地域連携センター主催 養護教諭研修会の企画・運営・講師
令和2年2月15日 「新学習指導要領がめざす保健教育の効果的な進め方」
徳島県内の養護教諭14名が参加

第2節 食物栄養学科

個人情報

- 1：氏名：石堂 一巳
- 2：職位：教授

1. 教育の担当専門領域：医学

2. 学部授業担当科目

人間生活学部

前期：健康管理概論・生化学Ⅱ・生化学実験・公衆栄養学演習

後期：応用生物学A・生化学Ⅰ・臨床栄養学Ⅰ・病理学・食品衛生学演習

大学院（博士前期課程）

前期：病態栄養学特論Ⅰ・特別研究

後期：病態栄養学特論Ⅱ・栄養学特別演習・栄養学特別実習・特別研究

3. 直接に研究指導した学部学生等

卒業論文（2）名、大学院生：修士（2）名

4. 自己評価

食物栄養学科一年生が最初に受ける講義として「健康管理概論」を担当している。新入生が「管理栄養士になりたい」というモチベーションを鼓舞する目的で、管理栄養士の活躍を放映したDVDなどを講義の初めに流し、その映像について議論を進める講義を行い、その議論に基づいて小論文を提出させている（添削後学生に返却）。また、新入生に本を読む習慣をつける目的で教科書として新書（「がんでは死なないがん患者」（東口隆志著、光文社新書）を採用している。

研究領域：医科学一般

研究テーマ

1. カスパーゼ特異的阻害剤及び合成基質の開発
2. 海藻抽出成分からの抗炎症作用物質の同定
3. QPRT 結合物質によるアポトーシスの誘導：新規抗がん剤の探索

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

・南江堂 健康・栄養科学（KES）シリーズ 生化学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 編集 石堂一巳／福渡努 185-202、213-220、249-297 2019年9月30日発行
・Proceedings of the Institute for Health Sciences, Tokushima Bunri University 2016-2019. 2020年3月発行

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) ビタミンB委員会研究奨学金164,000円

自己評価：学科の運営（四年生の国家試験対策および各学年の退学防止、新入生の獲得）及び大学の運営（全学教務委員長、徳島文理大学研究倫理審査委員長、人間生活学部実験動物員会委員長、人間生活学部組み換え実験安全主任他）に専念している。そのため、研究活動に使える時間が著しく減少している。少しでも研究活動に使える時間を捻出する必要があると感じている。

大学内運営：

健康科学研究所・所長
食物栄養学科長
人間生活学研究科・食物学専攻主任
研究倫理審査委員会委員長
全学教務委員会委員長
文部科学省選定ブランディング事業実施委員会委員
発明審査委員会委員
安全保障輸出入体制整備ワーキンググループ委員
人間生活学部組み換え実験委員会委員長
人間生活学部動物実験委員会委員長

社会貢献：

日本生化学会代議員（2019年10月まで）・同評議員
日本病態プロテアーゼ学会評議員
American Society of Biochemistry and Molecular Biology 会員
日本分子生物学会会員
日本人類遺伝学会会員
日本ビタミン学会会員
ビタミンB研究委員会委員

個人情報

1. 氏名： 犬 伏 知 子
2. 職位： 教 授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品衛生学
2. 学部授業担当科目
前期：食品衛生学、総合演習Ⅰ、公衆栄養学演習、公衆栄養学実習(2クラス)
後期：食品衛生学特論、総合演習Ⅱ、食品衛生学演習、食品衛生学実習(2クラス)
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文(2)名
4. 自己評価：
前期の公衆栄養学演習と後期の食品衛生学演習は国家試験教科であり、問題数もかなりあるので、集中してわかりやすく印象に残るように教育する必要がある。
4年生の臨地実習の指導なども含まれる総合演習ⅠとⅡの担当でもあり、国家試験の合格率にも繋がる教科なので、年度の最後まで気がぬけない。国家試験も近づいてきて、やっと担当の教科が、全国平均に近づいてきた。

研究領域

1. 栄養

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

- 1) (原著論文 査読あり) 徳島県中学生の栄養素摂取量及び野菜の摂取量: 西永彩乃、犬伏知子、松下純子、小川直子、橋田誠一. 徳島文理大学研究紀要、第98号、9-19、2019.
- 2) (研究報告) 食品表示法改正に伴う栄養成分適正化状況の把握: 吉田裕美、犬伏知子、中川利津代、三木晃. 徳島文理大学研究紀要、第98号、71-80、2019

2. 学会発表

- ① 女子大生の足指筋力と栄養素摂取量の関係: 犬伏知子、眞田佳輝、橋田誠一. 第6回日本栄養改善学会四国支部学術総会(徳島), 2019, 4月
- ② 栄養成分表示義務化における菓子製造業者の現状及び課題、対応策に関する調査-第1報: 平石莉子、宇都宮秀一、亀村典生、犬伏知子、中川利津代. 第6回日本栄養改善学会四国支部学術総会(徳島), 2019.4月
- ③ 栄養成分表示義務化における菓子製造業者の現状及び課題、対応策に関する調査-第2報: 宇都宮秀一、平石莉子、亀村典生、犬伏知子、中川利津代. 第6回日本栄養改善学会四国支部学術総会(徳島), 2019.4月
- ④ 菓子類の種類が体格指標及び臨床検査値に及ぼす影響について: 小川直子、佐藤理奈、犬伏知子、橋田誠一. 第72回日本栄養・食糧学会(静岡)
- ⑤ アオサノリ(ヒトエグサ)の摂取が体格指標、臨床検査値に及ぼす影響: 小川直子、犬伏知子、山本博文. 第66回日本栄養改善学会(富山)
- ⑥ 栄養成分表示義務化に向けての菓子製造業者への影響及び必要とされる取り組みに関する調査: 中川利津代、平石莉子、亀村典生、犬伏知子、岩本康生、宇都宮秀一. 第66回日本栄養改善学会(富山)
- ⑦ 販売業者における栄養成分表示の義務化に向けての現状や対応に関する調査: 宇都宮秀一、平石莉子、犬伏知子、中川利津代. 第27回日本健康体力栄養学会(高松)

- ⑧栄養成分表示が義務付けられる菓子製造業者への影響及び必要とされる取組に関する調査：中川利津代、平石莉子、犬伏知子、宇都宮秀一．第 27 回日本健康体力栄養学会（高松）

3. 知的財産権の出願・取得状況

- 1) なし

4. 平成 31 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

科学研究費補助金、基盤研究（C）「アオサノリ摂取が骨密度および足指筋力に及ぼす影響」代表、申請中

自己評価：

今年度は文部科学省私立大学ブランディング事業選定「藻類成長因子を用いた海藻栽培技術 イノベーション」において、小川先生との共同研究の「アオサノリの摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響」の人を対象とした実験の測定などに時間を費やした。また、4年生の卒論生 1 名の卒業研究仕上げと、3年生の卒論生 1 名の実験指導を行った。

昨年の卒論生 3 名の研究と卒業した大学院生の研究は、なんとか研究紀要に掲載することができたが（2 名分は予定）、後 1 名の研究はそのままになっている。

次は、卒業した 1 名の研究とアオサノリの研究、現在 4 年生と 3 年生の卒業研究をまとめて論文にしていく必要がある。

大学内運営

1 活動報告

- ① アカンサス会徳島県支部の副支部長を担当
- ② 学生指導委員会の委員担当
- ③ 入試問題作成委員（化学基礎）の主任担当
- ④ 臨地・校外実習の実習先開拓および実習計画担当
- ⑤ 3 年生の担任
- ⑥ 1 年から 4 年生 20 名のチューター担当

社会貢献

1 学会等への貢献

- ・日本家政学会第 71 回大会（2019. 5. 24～26）の準備委員（記録係担当）
- ・日本栄養改善学会評議員

2 地域社会への貢献

- ① 徳島県食の安全安心審議会委員を担当
- ② 徳島県消費生活審議会委員を担当
- ③ 徳島県危機管理部消費者くらし安全局安全衛生課の講師指導のもと、食物栄養学科 2 年生を食品表示ウォッチャーとして、市場の食品表示のチェックを行なってもらった。
- ④ アカンサス会徳島県支部の行事（おもしろい理科実験、夏休みの宿題を親子で完成させよう（絵画教室）、生活習慣病に効果的な有酸素運動を体験しよう！）の講師依頼、進行などを行った。
- ⑤ 全国健康保険協会の健康レシピ（そば米汁、ひじきご飯）の健康コラムを作成した。（松本萬寿美先生と共同）

個人情報

1. 氏名：坂井 堅太郎
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：基礎栄養学・応用栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：基礎栄養学、応用栄養学Ⅱ、調理学演習、栄養学Ⅱ（人間生活学科）、応用生物学A（児童学科）
後期：基礎栄養学実習、応用栄養学Ⅰ、応用栄養学実習、給食経営管理演習、栄養学（理学療法学科）
大学院
前期：食品生化学特論Ⅰ（博士前期課程）
後期：食品生化学特論Ⅱ（博士前期課程）

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文3年（3名）・4年（5名）

4. 自己評価：

担当した授業について、授業中に学生自らが授業の内容をまとめるプリントを配布し、学生が習得しなければならない知識について、体系的に身に付くよう工夫した。また、パワーポイントによる授業展開を複数科目で取り入れ、受講学生の理解度を高める工夫をした。

研究領域

1. 専門研究領域：栄養生化学

2. 研究課題及び概要：

①食物アレルギーの発症機構に関する栄養化学的研究

アレルギーを引き起こしているヒスタミンが必須アミノ酸の一つであるヒスチジンから合成されていることに注目し、栄養生化学的な視点から栄養管理につなげていく研究を行っている。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 学会発表

- 1) 妻木陽子、坂井堅太郎：地域別による食物アレルギー対応食品の取扱い状況と地域差の把握、第66回日本栄養改善学会学術総会、2019年9月（富山）

3. 知的財産権の出願・取得状況：なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

自己評価：

本年度は、教育関連の準備および整理を進めることができたが、まだ十分に満足にできるものではない。今後、さらに教育・研究の環境整備を進めていきたい。

大学内運営

1. 活動報告

- ①広報委員会・委員

- ②研究紀要編集委員会・委員
- ③災害時初期対応者

社会貢献

- 1. 学会等への貢献
 - ①日本栄養・食糧学会 参与
 - ②日本栄養改善学会 評議員
 - ③日本アミノ酸学会 会員
- 2. 表彰
 - ①令和元年度全国栄養士養成施設協会会長顕彰 受賞

個人情報

1. 氏名：坂井 隆志
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：生理学、免疫学、解剖生理学、栄養学、微生物学
2. 学部授業担当科目
前期：運動生理学、解剖生理学Ⅰ、食品加工学演習、文理学、卒業研究
後期：微生物学、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実験、免疫学、文理学、卒業研究
大学院
前期：分子栄養学特論Ⅰ
後期：分子栄養学特論Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（10）名、大学院生：博士後期（1）名
4. 自己評価：一年を通して講義数が多く、その準備が大変だった。担当した微生物学、解剖生理学、運動生理学はどれも2コマの授業時間の中で教えるには範囲が広く、すべてを細かく教授することは不可能であることから、学生の目標である「管理栄養士国家試験合格」のための講義をすることを第一の目標とした。昨年度に比べ、小テストの回数を若干減らした（微生物学は期末テストのみ、解剖生理学は前期5回、後期5回実施）。そのため授業準備にかかるエフォートは若干減ったと思う。しかしながら、AO入試の取りまとめの仕事が昨年よりも増え、また入試作成委員の取りまとめやセンター試験委員の仕事が忙しく、予定していた研究領域のエフォートを増やすことはできなかった。

研究領域

1. 歯薬学分野・基礎医学・病態医化学

令和1年度分 研究業績一覧

1. 論文・著作

なし

2. 学会発表

- 1) 新規NF- κ B制御分子ヌクリングはインスリンの発現制御に関与している. 林文琳、曾我部 浩史² 宍戸 裕二、福井清、坂井隆志、第60回日本生化学会中国・四国支部例会（山口大学）、2019.5.17-18.

3. 知的財産権の出願・取得状況

- 1) なし

4. 平成31年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費補助金（基盤研究C）；「メタボリック症候群におけるクッパー細胞の重要性に関する検討」代表（不採択）

自己評価：研究成果をまとめ、論文として発表することが出来なかった。教育領域へ

のエフォートを取り過ぎ、研究領域が少々疎かになった感がある。

大学内運営

- 1) チーム医療促進委員会委員（医師）（0回）、入学試験委員会委員（年数回、入試要項チェック、入学願書のチェックなど）、センター試験委員（年数回、人間生活学部内試験監督選考、試験前日の会場設営準備、試験当日の雑務、翌日の試験発送手配など）、入学試験委員会委員長
- 2) 一般および推薦入試問題の作成、問題チェックおよび採点（生物基礎）
- 3) A0入試の学科窓口として、受験生の面接段取り手配など（26人分）

社会貢献

- 1) 日本生化学会評議員（平成30年11月より）
- 2) 毎月0～3回ほど（土日祝日のみ）、徳島県赤十字血液センターなどからの依頼で医療業務に従事
- 3) 毎月1～2回（日曜日）、香川県高松協同病院からの依頼で病棟管理業務に従事
- 4) 徳島大学大学院講義（eラーニングによる英語の講義）
- 5) 徳島大学歯学部非常勤講師として歯学部3年次生に講義（1コマ）
- 6) 徳島大学医学部講師、徳島大学大学院医科学教育部担当客員教授として研究に参加

個人情報

1. 氏名：岩田 深也
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品学、食品加工学
2. 学部授業担当科目
前期：食品学、食品加工学演習、食品学実験Ⅰ
後期：食品学特論、食品学実験Ⅱ

大学院

前期：無し 後期：無し

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（6）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価：専門的な内容を、中間的なレベルの学生の能力・立場、を汲み取って、可能な限り内容を噛み砕いて解説、指導した。最終的な目標、理想は学生全員の国家試験合格と考えているため、今後さらに、画像、映像等、内容を理解し易く、集中し易い講義内容を工夫して、全体のレベルアップ及び国家試験合格率の更なる向上に取り組んでいきたいと考えている。課題を与えられない限り、また、成績に直接つながる利点等が目に見えないと、講義に対し積極性を欠く学生が多く見受けられるため、頻繁に小テスト等を盛り込むことも考えていきたい。また、5回目までは講義を休んでも大丈夫と考えている学生が、少しずつ、次第に増えていく現状がある。休めない雰囲気を醸成せねばならないため、ランダムに質問をするといった講義内容を増やして、講義に集中する雰囲気を醸成していきたい。

研究領域

1. 発酵微生物学

平成30年度分 研究業績一覧

1. 論文 1) 特に無し。
2. 学会発表 1) 特に無し。
3. 知的財産権の出願・取得状況 1) 特に無し。
4. 平成23年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：1) 特に無し。

自己評価：

健康・体力の問題から、研究活動に関してはほとんど手を付けられていない。

3、4年生の成績不良者に対する対応や、卒論ゼミ生に対する国家試験対策等で手一杯である。また、卒業論文用の実験準備を全て整えても、当人が実験に参加できないことが多々あり、労力的にも、精神的にも逆にダメージを負う状況にあった。研究分野では、過熟ニガウリ（ゴーヤ）の利用法の相談を受け、アルコール発酵後、さらに酢酸発酵に取り組み、果実酢を醸造した。その結果、チャランチン、モモルデシンといった苦味を呈する主成分が分解、及びマスクされた、新規なゴーヤ酢の試作品が得られた。ただ、分解、マスクされる過程が十分研究できていない。また、量的に過熟のゴーヤを集めることがなかなか困難ではあるが、新規食品として、今後も開発を進めていきたいと考えている。現状の課題は過熟となった原料を一定量以上確保することである。集荷方法を県外の農業団体も含めて、考えていかなければならない。

また、山間部、限界集落等において、新たな葉っぱビジネス様の取り組みで、ドングリ、椎の実といった現在利用されていない木の実からのアルコール発酵も打診されており、大量に含まれているタンニンの除去方法等も含めて開発に取り組んでいきたい。タンニンが存在してもアルコール発酵にはさほど影響はないが、醸造酒としてはタンニンおよび各種ポリフェノールからなる、渋味が強く飲料として、あまり適さない。そのため蒸留しか手段がないわけだが、原料段階でタンニンを強力に結合・除去する技術を確定すれば、新規な、どぶろく風飲料を醸造可能であることが分かった。着色、着香等課題は多いがこれにも取り組む。

今後も体力回復に取り組み、広く未利用資源の微生物分解・発酵による利用方法の検討を進めて行きたい。

大学内運営：

就職支援委員会において、学生に対する就職支援活動を行った。

入試の試験監督、面接を行った。

4年生の担任及び1～4年生のチューターを受け持った。

保護者会等において学生の保護者に対する面談、説明を行った。

社会貢献：

徳島県農林水産部が開設する、農業大学校における6次産業化コースにて、講師を務めた。

また、北島町における少年少女発明クラブにおいて、二十数名の児童及び保護者に対して可能な限り平易な科学実験を指導した。

さらには、県内の食品産業（農業従事者本人を含む）及び食品関連機器製造業に携わる社会人の方々の食品に関する知見をより高めるため、食品の機能性等に係る、指導及び講義を行い、食品加工技術（特に発酵技術）レベルの底上げに貢献できたと考えている。全国二位の生産量を誇る筍の新製品開発や、限界集落等における新たな産業の掘り起こし等にも携わっている。

また、日本酒造組合四国支部における技術顧問に就任し、前年度の酒造タンク内の酒質保全（呑み切り）や、秋口からの酒造期において土日等休日には、県内の酒造会社の現場を巡回して技術指導を行い、四国内の酒造技術の向上（特に吟醸酒の醸造技術）に貢献している。

個人情報

1. 氏名：中川 利津代
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 公衆栄養学、公衆衛生学

2. 学部授業担当科目

- 前期： 公衆栄養学Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学演習、公衆衛生学実習
- 後期： 公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学演習
- 通年： 文理学 ゼミ 卒業論文

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（11）名、大学院生：修士（）名

4. 自己評価：

- ・ 1年生の担任として大学生生活に慣れていない学生に個別指導及び面談を多数回実施。
- ・ 学生が授業に興味を持つように配布資料を工夫した。また映画のDVDを視聴した。
- ・ 学生がわかりやすい授業にすることを目的に、学生に授業の疑問点や工夫点や、授業内容の感想についてアンケートを実施した。その結果、授業の改善につながった。加えて、学生を理解することにもつながり、双方向のコミュニケーションが取れた。
- ・ 公衆栄養学や公衆衛生学は、教科書を読んだだけではわかりにくい教科である。管理栄養士国家試験問題等を單元ごとに配布し、学習のポイントがどこにあるのかを示した。
- ・ 公衆衛生の疫学指標など数学の基礎が必要な分野を苦手とする学生が多いので、国家試験の過去問が解けるようになるまで繰り返し説明した。集団での説明で理解するのが難しい学生には、個別で相談に来るように促した。その結果総合演習の点数が上がった。
- ・ classroomを配布資料や分析用データ等のアップ、学生のレポート提出等に活用した。
- ・ 4年生のゼミ生には、セルフコーチングができるよう月ごとの目標を立て、タイムマネジメントをするように指導した。またゼミ室で勉強しやすいように環境を整えた。
- ・ 学生が作成した教育資材が消費者庁のホームページ及び全国で専門職が使用する指導媒体に掲載された。消費者庁主催「栄養成分表示等に関するプロジェクト成果報告会」で5名の学生が発表した。その時の様子が徳島新聞や徳島県・消費者庁のホームページに掲載された。また、ケーブルテレビで放映された。
- ・ 牟岐町産もち麦の商品開発で学生は学校で経験できない体験をした。その内容が、新聞4回掲載された。また、NHKで放送され学生及び保護者に喜ばれた。
- ・ 牟岐町で学生が消費者庁作成の啓発ツールを使って栄養成分表示の賢い活用方法について講義した。その時の様子が消費者庁のホームページで紹介された。加えて農林水産省が発行する食育白書に掲載される予定である。学生が地域貢献にやりがいを見出した。
- ・ 3年生6人に卒論の指導をした。また、卒論生が、日本栄養改善学会四国学術総会で2題、日本体力運動栄養学会で1題発表できるように指導をした。

研究領域：地域貢献を主体とした研究

1. 食品表示法での栄養成分表示の全面施行に向け、食品製造業者へのサポート法

- ・ 販売業者であるスーパーマーケットを対象に栄養成分を表示済みの加工食品の販売に向けた取組状況及び食品製造業者への支援状況の把握
- ・ 菓子製造業者と加工食品を製造している社会福祉施設を対象に食品成分表を活用した熱量及び栄養素量の計算方法に関する課題の把握
- ・ 保健機能食品及び栄養強調表示食品と消費者の購買行動との関連について研究した。

2. 牟岐町における「もち麦」を使っての地域おこし事業への協力

- ・ もち麦の熱量及び栄養成分の特徴、機能性成分であるβグルカンについて研究した。

3. 消費者庁と連携した栄養成分表示媒体の活用事例

- ・ 消費者庁が作成した対象の特性に応じた栄養成分表示の指導媒体の活用方法について研

究した。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

2. 学会発表

- 1) 「栄養成分表示義務化における食品製造業者の現状及び課題、対応策に関する質的検討」【第6回日本栄養改善学会四国学術総会（於：徳島）】○中川利津代
- 2) 「栄養成分表示義務化に向けての菓子製造業者への影響及び必要とされる取組に関する調査」【第66回日本栄養改善学会学術総会（於：富山）】○中川利津代
- 3) 「栄養成分表示が義務付けられる菓子製造業者への影響及び必要とされる取組に関する調査」【第27回日本健康体力栄養学会（於：香川）】○中川利津代

3. 知的財産権の出願・取得状況 1) なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 補助金研究費の名称：令和元年度とくしま政策研究センター「委託調査研究」徳島県
- 2) 補助金 徳島県南部キャンパス事業 徳島県
- 3) 協働事業 大学と連携した商品開発事業 徳島県、牟岐町の農業を守る会

自己評価：

1. 食品表示法では2020年4月1日原則栄養成分表示の義務づけが全面施行される。また、徳島県として消費者庁を徳島県に誘致することが優先施策である。このような課題のある今、栄養成分表示制度について研究し、基礎資料としたことは大変意義深い研究である。この度の調査結果は、令和元年度とくしま政策研究センター外部委員審査会や徳島県規制改革会議で報告した。徳島県や消費者庁の施策への波及効果が大きいと期待できる。
2. 調査結果を受けて菓子製造業者と加工食品を製造している社会福祉施設、販売業者等を対象に実施した研修会を実施した。大学の強みを生かしパソコン実習を行い食品成分表を使って栄養成分表示をする方法を指導した。アンケートで、93.5%の参加者から日々の業務に役立つとの評価を得た。
3. 食品成分表を活用した栄養成分表示方法の課題を抽出できた。

大学内運営

- ・多職種連携推進委員会委員 ・防災対策検討委員会委員
- ・O A入試の面接 ・オープンキャンパスでの模擬授業等の活動 ・遍路ウォーク
- ・保護者会において保護者との面談（徳島、香川）・管理栄養士国家試験受験のサポート

社会貢献

- ・「地域特性をいかした栄養成分表示等の活用に向けた消費者教育に関する調査事業報告書」に4年生が作成した指導媒体が使用され、消費者庁のホームページにアップされた。
- ・消費者庁主催「栄養成分表示等に関するプロジェクト成果報告会」で発表した。
- ・菓子製造業者・販売業者等を対象にした栄養成分表示に関する研修会の開催
- ・牟岐町における「もち麦」を使っての地域おこし事業への協力により商品開発ができた。
- ・第2回牟岐町にぎわい産業祭でもち麦のパンケーキの食味テストの実施、むぎっこタウンで子供たちと一緒にパンケーキづくり、栄養成分表示の賢い活用の仕方の講座を担当
- ・牟岐町の農業を守る会・JAかいふ・JAかいふ牟岐女性部・大塚製薬工場社員食堂・亀井製麺・牟岐町・徳島県南部県民局との連携 6月：第1回牟岐町1泊体験、8月：お披露目会、9月10月：パンケーキの商品開発、10月：山城祭、11月：第2回牟岐町1泊体験 12月：大塚製薬工場社員食堂でもち麦が使用開始、卓上ポップの提供、2月：商談会
- ・徳島大学医学部医科栄養学科 非常勤講師・徳島県栄養士会生涯教育研修会 講師
- ・吉野川市食生活改善推進協議会会員を対象とする研修会 講師
- ・東みよし町包括支援センター介護予防講座 講師

個人情報

- 1.氏名：近藤 美樹
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：調理学
- 2.学部授業担当科目
前期：調理学実習 I (2 クラス)、食生活論、調理学演習、文理学
後期：調理学、調理学実験 (2 クラス)、調理学実習 II (2 クラス)
大学院
前期：調理学特論 I、特別研究
後期：調理学特論 II、特別研究
- 3.直接に研究指導した学部学生：卒業論文 (10) 名、大学院生：修士 (2) 名
- 4.自己評価：

新入生の担任に加えて大学院生 2 名が進学し、教育へのエフォートが高い一年であった。本年度の試みとして、調理学実習 I で実施したグループ献立の相互評価を食生活論の一環として行った。この能動的かつ有機的に関連付けた授業構成は、自ら問題点を捉えて解決策を考える姿勢の育成につながった。実験は講義と連携した教育内容とし、さらに直近の臨地実習を視野に入れ、レポートの添削では文章力の向上を目指して指導した。次年度は、修士論文の完成に向けて計画的に進めたい。

研究領域

- 1.専門研究領域：調理学、食品機能学、栄養学
- 2.研究課題及び概要；
 - 1) 調理による食品成分の挙動解析：古代豆の調理による着色機構の解明の一端として、着色源の加熱およびモデル実験に基づき、着色物質の同定を試みた。
 - 2) 食品成分の分析方法の確立：動物性食品に含まれる機能性成分のイミダゾールジペプチドについて、HPLC による簡易かつ高精度の分析方法を確立した。
 - 3) 食品成分の生体調節機能の評価：植物性食品に含まれるポリフェノールを中心に、その生体調節機能の評価や機能性成分の同定を行った。

3. 平成 31 年度分 研究業績一覧

1.論文・著書

- 1) M. Hiemori-Kondo and M. Nii. *In vitro* and *in vivo* evaluation of antioxidant activity of *Petasites japonicus* Maxim. flower buds extracts. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, 84 (3), 621-632 (2020).

2.学会発表

- 1) 近藤 (比江森) 美樹, 上原穂野香：ツタンカーメンエンドウの加熱による着色反応に関与する成分の探索. 第 73 回大会日本栄養・食糧学会、2019 年 5 月 17-19 日、静岡市
- 2) 長尾久美子, 坂井真奈美, 松下純子, 近藤美樹, 後藤月江, 三木章江, 高橋啓子, 川端紗也花, 金丸芳：徳島県の実地調理 副菜の特徴 食材と調理法から見える地域性. 日本調理科学会 2019 年度大会、2019 年 8 月 26, 27 日、福岡市
- 3) 近藤 (比江森) 美樹, 新家大輔：シカ肉の各部位に含まれるイミダゾールジペプチドの定量. 第 66 回日本栄養改善学会学術総会、2019 年 9 月 5-7 日、富山市

- 4) 新家大輔, 植田玲奈, 近藤(比江森)美樹: 3種類のイミダゾールジペプチドの分離定量法の確立. 第52回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会、2019年10月26-27日、高知市
 - 5) M. Hiemori-Kondo, H. Uehara, Y. Maekawa: Investigation of a component involved in color reaction by heating Tutankhamen's pea. The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019), Kobe, 2019.11.28-12.1.
 - 6) M. Hiemori-Kondo and M. Nii, D. Shinya: Evaluation of the antioxidant activity of *Petasites japonicus* Maxim. flower bud extracts. The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF2019), Kobe, 2019.12.1-5.
 - 7) 前川優樹, 近藤(比江森)美樹: ツタンカーメンエンドウの加熱中に生じる着色反応に関与する成分の同定. 日本農芸化学会2020年度大会、2020年3月25-28日、福岡市
- その他: アオサノリの食品機能性(栄養性、嗜好性、生体調節)の評価、徳島文理大学 私立大学研究ブランディング事業「藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション」第3回 研究発表会(令和元年9月21日)

4. 知的財産権の出願・取得状況: なし

5. 平成31年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況:

- 1) 古代エンドウ「ツタンカーメン豆」の調理により生じる着色機構の解明と抗酸化性の解析: 科学研究費補助金(基盤研究C)、継続交付、代表
- 2) ゆず果皮を含む餌で飼育したキジハタのうま味成分等の分析の委託業務: 徳島県委託事業、交付、代表
- 3) 県南地域づくりキャンパス事業、交付、分担
- 4) 大学・地域連携課題解決フィールドワーク事業、交付、分担

6. 自己評価

これまでの研究成果を国際学術雑誌において論文発表し、一定の成果を収めることができた。引き続き論文掲載を目標としたい。一方、この一年は教育に占めるエフォートが高いこともあり、研究が予定より遅れたため次年度の課題として残った。

大学内運営

1. 活動報告:

教育・研究委員、1年生担任、1~4年生チューター、新入生宿泊セミナー、遍路ウォークの引率、臨地・校外実習担当、オープンキャンパス模擬授業、A0入試・編入試験面接、大学院入試問題作成・面接、文理食生活会顧問 等

社会貢献

1. 学会等での社会貢献:

日本栄養・食糧学会代議員・参与、日本農芸化学会参与、日本栄養改善学会代議員、日本フードファクター学会評議員、The 9th International Conference on Polyphenols and Health・The 7th International Conference on Food Factors 実行委員

2. 地域社会への貢献:

徳島大学医学部非常勤講師、栄養教諭を対象とした学校給食向けジビエ料理研修会講師(那賀町、美馬市)、徳島ビジネスチャレンジメッセにおける展示、食品ロス削減全国大会 in 徳島におけるポスター展示、阿波地美栄×狩猟フェスタにおける展示、情報誌あわわの取材

個人情報

- 1 氏名：小川 直子
- 2 職位：講師

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：栄養教育論
- 2 学部授業担当科目
前期：食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ（2 クラス）、
保健福祉学部口腔保健学科 3 年：食生活指導論
後期：食物栄養学科 2 年：栄養教育論Ⅰ、
食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ（2 クラス）、
食物栄養学科 4 年：栄養教育論演習
- 3 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（3）名、大学院生：修士（1）名
- 4 自己評価：食物栄養学科の 2、3、4 年生ともに毎回授業前に小テストを行っているが、学生にとっても復習する習慣が定着できて良いという意見が多かったため、今後も継続することとする。国家試験対策についても、模擬試験や本番の国家試験でも、安定して常に平均で 7 割以上の点数が取れていた。また実習関係の授業においては一人ひとりに丁寧なフィードバックを心がけたことで、実践の場でもあった大学祭や給食経営管理実習での栄養教育では、十分に力をつけられていることが、周りの評価からも実感できた。今後さらに授業の中で栄養教育に必要な新しい知識、情報を多く取り入れ、学生にできるだけ最新のものをたくさん伝えていき、将来の実践の場や国家試験で十分力がつけられるように指導したい。また、今年は卒論生 3 名にそれぞれの研究テーマを与え指導したこと、また大学院生の研究指導を行ったことで多忙な一年となったが、あらゆるテーマで研究していることが授業の中でも生かせられていたと思う。

研究領域

- 1 専門研究領域：栄養学および健康科学関連、栄養教育・栄養指導
- 2 研究課題及び概要
 - 1) 「アオサノリ（ヒトエグサ）の摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響」
 - 2) 「咀嚼が食行動や体格指標に及ぼす影響」
 - 3) 「一般市民の運動習慣が体格指標に与える影響」
 - 4) 「スポーツ栄養に関する研究」 等
- 3 令和元年度分 研究業績一覧

【論文】

- 1) (原著論文 査読あり) 徳島県中学生の栄養素摂取量及び野菜の摂取量：西永彩乃、犬伏知子、松下純子、小川直子、橋田誠一. 徳島文理大学研究紀要、2019, 第 98 号、9-19.

【学会発表】

- 1) 菓子類の種類が体格指標及び臨床検査値に及ぼす影響について：小川直子、佐藤理奈、犬伏知子、橋田誠一. 第 72 回日本栄養・食糧学会(静岡) 2019. 5. 17-19
- 2) アオサノリ（ヒトエグサ）の摂取が体格指標、臨床検査値に及ぼす影響：小川直子、

- 犬伏知子、山本博文. 第 66 回日本栄養改善学会 (富山) 2019. 9. 5-7
- 3) 給食経営管理実習における教育効果の検討～CS ポートフォリオ分析による指導内容の改善点把握～大原栄二、福浦茜、森下千佐、呉羽のり子、小川直子. 第 66 回日本栄養改善学会 (富山) 2019. 9. 5-7
- 4) アオサノリ (ヒトエグサ) の摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響：小川直子、犬伏知子、文部科学省私立大学研究ブランディング事業第 3 回発表会 (徳島文理大学) . 2019. 9. 21
- 5) アオサノリ (ヒトエグサ) の摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響：小川直子、犬伏知子、文部科学省私立大学研究ブランディング事業第 2 回シンポジウム (徳島文理大学) . 2020. 1. 11
- 4 知的財産権の出願・取得予定： なし
- 5 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
- ・ブランディング事業研究：「アオサノリ (ヒトエグサ) の摂取が体格指標、臨床検査値に与える影響」
 - ・科学研究費補助金 (基盤研究 C)：「ヒトエグサ (アオサノリ) を毎日摂取することによる生活習慣病予防効果について」代表 (申請中)
- 6 自己評価：今年は、大学の研究ブランディング事業の中で「アオサノリ (ヒトエグサ) を毎日摂取したことによるヒトの体への影響」に着目した研究を中心に行った。これについて学会発表はじめ、研究ブランディング事業第 3 回発表会、また第 2 回シンポジウムで研究結果を報告することができた。また大学院生の研究指導のため、咀嚼に関する研究を行ったことや、栄養教育効果を含めた給食経営管理に関する研究も行った。さらに 3 名の卒論生とともにスポーツ少年に対する栄養教育、一般市民に対する栄養教育研究の結果もまとめており、あらゆる研究テーマに取り組んだ。これらを論文としてまとめ、できる限り早く学術雑誌に掲載することが目標である。

大学内運営

- 1 活動報告：(委員) 自己点検・自己評価委員、
自己点検・自己評価実施委員 (認証評価委員会)
新入生宿泊セミナー委員、
遍路ウォーク委員
- (クラス担任) 食物栄養学科 2 年生担任 (48 名)
1～4 年学生のチューター (20 名)
- (その他) A0 入試面接
大学センター入試監督
オープンキャンパス模擬授業、進路説明等
新入生宿泊セミナー、遍路ウォークの引率
徳島・沖縄県保護者会 (那覇、名護、沖縄) 面談
アカンサス会本部役員
アカンサス会徳島県支部役員
アカンサス会沖縄県支部事務担当 等

社会貢献

- 1 地域社会への貢献： 一般市民、スポーツをする子どもたちに対する栄養教育

個人情報

1. 氏名： 栗飯原 乙起 (旧姓：中橋)
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学

2. 学部授業担当科目

前期：分子栄養学、臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ

後期：応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習、臨床栄養学演習

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文 3名 (4年生1名、3年生2名)

去年度から研究指導をしてきた学生が4年生となり、「ラットにおける Cyp24a1 スプレイングバリエーション体およびビタミンD代謝関連遺伝子の臓器別 mRNA 発現解析」というタイトルで卒業論文を作成することができた。現3年生の学生にも、引き続き研究指導を行っていく。

4. 自己評価：実習においては、グループワークや発表を重視し、自らの考えを論理的に説明できるかを評価した。講義においては国家試験を意識し、頻出の内容に関しては特に重点的に説明した。本年度から応用栄養学関連の講義・実習を担当した。坂井堅太郎先生や藍場美菜先生のご協力により、業務を遂行することができた。

研究領域

1. ビタミン、ミネラル

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

- 1) 山本 浩範、石黒 真理子、中橋 乙起、田中 更沙、武田 栄二、竹谷 豊：ミニレビュー 甲状腺ホルモンと食事性リンによるリン・ビタミンD₃・コレステロール代謝の相互調節 *Vitamins (Japan)*, 93(2), 52-57 (2019)
- 2) 南江堂 健康・栄養科学シリーズ 生化学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 編集 石堂一巳／福渡努 53-69、93-102、203-211 2019年9月30日発行
- 3) Mari Tajiri, Otoki Nakahashi, Tomohiro Kagawa, Masashi Masuda, Hirokazu Ohminami, Masayuki Iwano, Eiji Takeda, Yutaka Taketani Hironori Yamamoto : Association of increased renal Cyp24a1 gene expression with low plasma 1,25-dihydroxyvitamin D levels in rats with streptozotocin-induced diabetes. *J Clin Biochem Nutr.* (2020)

2. 学会発表

- 1) 山本 浩範、中尾 真理、中橋 乙起、増田 真志、竹谷 豊：リン制限による鉄代謝および腎性貧血への影響 日本ビタミン学会第71回大会 (鳥取)
- 2) 福田 詩織、山本 浩範、中橋 乙起、吉川 亮平、林 真由、岸本 麻希、伊美 友紀子、奥村 仙示、増田 真志、大西 康太。竹谷 豊：成長期における短期的・長期的リン負荷が FGF23/ α -klotho シグナルに及ぼす影響 日本ビタミン学会第71回大会 (鳥取)
- 3) 川東 美菜、高尾 遥、中橋 乙起、田尻 真梨、森川 咲子、山本 浩範：肝臓におけるビタミンD代謝関連遺伝子の mRNA およびタンパク質発現解析 第66回日本栄養改善学会 (富山)
- 4) 山本 浩範、石黒 真理子、竹井 悠一郎、中橋 乙起、増田 真志、竹谷 豊、岩野 正

之：食餌性リンは Nuclear factor-E2-related factor 2 を介し酸化ストレス応答・解毒関連遺伝子の発現を調節する 第 66 回日本栄養改善学会（富山）

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和元年年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

科研費 2020 年度 若手研究 申請済

自己評価：本年度も、昨年に引き続き、本学での研究成果を学会に発表することができた。今後も卒論生と研究をすすめ、論文の作成に尽力していく。

大学内運営

人間生活学部入試委員、全学入試委員、2 年生担任、1～4 年生チューター

社会貢献

なし

個人情報

1. 氏名： 森川 咲子
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学、栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：臨床栄養活動論，食生活論，総合演習 I
後期：臨床栄養管理論，臨床栄養学演習，栄養学，総合演習 II，臨床栄養学実習 II
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（2）名、その他（6）名

4. 自己評価： 本年は専門科目に加え、総合演習 I・IIにおける臨地・校外実習指導、並びに国家試験受験対策が主たる教育業務であった。本年度から臨地校外実習の開始時期が前倒しとなり、また自身も指導担当が初回であったことから、様々な事例を経験したものの、学科の先生方及び教育研究支援課のご担当者様に多大なご協力をいただき、全学生が無事に実習を終えることが出来た。国家試験対策においては、学生全体に対しての学習・生活指導のほか、成績不振者への個別対応（面談、補習課題や教材の提供）を行った。また、保護者様と連携を図りながら、個々の学生の事情にあわせて一年間継続的に支援を行った。

専門科目については、各科目の受け持ちが二回目以降となったため、準備に当たり余裕を持って講義内容を選別することが出来、一定の手応えを得ることが出来た。臨床栄養活動論・管理論では、本年より授業前小テストを再開した。講義における説明の時間が減ったことから、学生の満足度低下を想定したが、授業評価アンケートにおいては例年同様の結果であった。一方で、現時点では病院管理栄養士を離職してから数年経過しており、特に担当科目と関連の深い NST 業務について知識が不十分であった。そのため、本年度より病院管理栄養士の先生のご指導の下、低栄養患者の栄養ケアに関する研修を受けているところである。次年度はより学生が現場管理栄養士に求められる知識・技術を習得できるよう精進していきたい。

今年度より開始した卒業研究の指導については、主体性を重視して指導に望んだつもりだが、指導が一方通行になることもあった。次年度以降はより学生の興味・関心に寄り添い、学生が主体となって研究に取り組めるよう抜本的な見直しを図りたい。

研究領域

1. 小児生活習慣病の早期発見・早期予防に関する臨床疫学的研究
2. 2型糖尿病患者の生活習慣療法に関する臨床疫学的研究

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

- 1) 森川咲子、藤原和哉、曾根博仁. シンポジウム報告：小児生活習慣病対策における体力の意義；新潟小児生活習慣病研究から得られた知見を中心として. 日本臨床運動療法学会学会誌(査読なし). vol.21 No.2 2020

2. 学会発表

- 1) Sakiko Y Morikawa, Kazuya Fujihara, Dai Ishii, Rina Nedachi, Masahiro Ishizawa, Hajime Ishiguro, Yasuhiro Matsubayashi, Takaho Yamada, Satoru Kodama, Hirohito Sone. Weight Status and Cardiometabolic Risk Factors among

Adolescents in Japan. 米国糖尿病学会年次総会 第79回 (於:サンフランシスコ). 6月

- 2) Sakiko Y Morikawa, Kazuya Fujihara, Mariko Hatta, Yasunaga Takeda, Dai Ishii, Junko Yachida, Chika Horikawa, Mitsutoshi Kato, Hiroshi Maegawa, Hirohito Sone, JDDM Study Group. Personality, Self-Management Behaviors, and Glycemic Control among Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM). 米国糖尿病学会年次総会 第79回 (於:サンフランシスコ). 6月
- 3) 森川咲子、藤原和哉、治田麻理子、武田安永、谷内田潤子、堀川千嘉、加藤光敏、前川聡、曾根博仁. 2型糖尿病患者の性格特性と自己管理行動及び血糖コントロールの関連. 第7回日本糖尿病療養指導学術集会. 福岡. 7月
- 4) 森川咲子、藤原和哉、曾根博仁. シンポジウム1 運動疫学を再考する 小児生活習慣病対策における体力の意義;新潟小児生活習慣病研究から得られた知見を中心として. 第38回日本臨床運動療法学会学術集会. 新潟. 8月
- 5) 森川咲子、治田麻理子、平澤玲子、谷内洋子、堀川千嘉、曾根博仁. 青少年期の体格と代謝指標の関連. 第41回日本臨床栄養学会総会・第40回日本臨床栄養協会総会第17回大連合大会. 愛知. 10月
- 6) 広瀬歩美、池田和泉、竹内瑞希、根立梨奈、武田安永、治田麻理子、森川咲子、堀川千嘉、藤原和弥、曾根博仁. 小中学生における体型の過大認識の現状および身体・精神的疲労度との関連の検討. 第30回日本疫学会学術総会. 京都. 2月

3. 知的財産権の出願・取得状況：なし

4. 平成31年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費 (若手研究)：青年期の食習慣や睡眠習慣が健康状態に及ぼす影響の解明、交付、代表
- 2) 日本糖尿病協会若手研究者助成：2型糖尿病患者の性格特性が治療アドヒアランス及び治療アウトカムに与える影響の検討、採択、代表
- 3) 平成31年度厚生労働科学研究費補助金：レセプトデータベースにおける健康寿命を規定する重症イベント精密捕捉技術の確立・正確性検証とその社会実装を通じたEBMと政策立案に貢献できるエビデンス創出、採択、分担

自己評価：今年度は科研費及び日本糖尿病協会若手研究者助成の最終年度であったが、現時点で論文が掲載受理されていないため、引き続き原稿準備を進めていく。昨年と比べて学会発表数は増えたものの、現時点では査読中の原著論文が1報、原稿準備中の論文が3報と当初の計画に比べて遅れている。論文執筆に使う時間配分を増やすためのタイムマネジメントや、研究時間の多くを占めるデータ処理・ライティング・文書作成の技能向上が次年度の課題である。

大学内運営

食物栄養学科4年生担任、各学年チューター、チーム医療促進委員会委員(管理栄養士)、オープンキャンパス模擬授業担当を務めた。

社会貢献

日本糖尿病療養指導学会学会員として、学術集会における教育企画(糖尿病性腎症重傷化予防に関するワークショップ)にファシリテーターとして参画した。その他、所属学会は下記の通りである。

日本臨床栄養学会、日本臨床運動療法学会、日本疫学会、日本病態栄養学会、日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会、日本糖尿病療養指導学会

個人情報

1. 氏名：亀村 典生
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品加工学
2. 学部授業担当科目
前期：食品加工学(食物栄養学科、人間生活学科)、食品機能学
後期：食品加工学実習（2クラス）、栄養教育論演習、食品加工学特論
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（5）名
4. 自己評価：食品加工学の分野を担当し、基礎分野と応用分野を担当した。食品加工学、食品機能学、栄養教育論演習においては、学生さんが一つずつ、ステップを踏んで理解できるように、教科書から国家試験の過去問題を用いて講義を行った。食品加工学実習では国家試験や将来の就職に向けて、より実践が身につくように、様々な食品の加工を学べるように実習を行った。

研究領域

1. アレルギー学、食品加工学

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

1. Kamemura N, Sugimoto M, Tamehiro N, Adachi R, Tomonari S, Watanabe T, Mito T. Cross-allergenicity of crustacean and the edible insect *Gryllus bimaculatus* in patients with shrimp allergy. *Mol Immunol.* 106:127-134.
2. Utsunomiya H, Hiraishi R, Kishimoto K, Hamada S, Abe S, Bekki Y, Kamemura N. Cytotoxicity of benzophenone-3, an organic ultraviolet filter, caused by increased intracellular Zn²⁺ levels in rat thymocytes. *Chem Biol Interact.* 298:52-56.

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 平成 30 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

科学研究費補助金交付（若手研究）「食品添加物の細胞毒性試験による新しい毒性評価法の確立」

自己評価：

食品添加物の細胞毒性試験による新しい毒性評価法の確立のために。日々実験に励んでいる。食品添加物や農薬、化粧品などに使われる化合物の毒性試験を行い、様々な分野に貢献したと思われる。特に今年度は今後食宅にのぼる可能性がある、昆虫アレルギーの研究で、論文を掲載されるなど食品の分野に大きく貢献したと考えられる。

大学内運営

食物栄養学科3年生担任、各学年チューター、令和元年年度新入生宿泊セミナー準備実行委員、AO入試及び一般推薦入試の面接担当、オープンキャンパス模擬授業担当、を務めた。

社会貢献

なし

個人情報

1. 氏名：松本 萬寿美
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：給食経営管理、栄養教諭
2. 学部授業担当科目
前期：給食経営管理Ⅰ（3年生2クラス）、給食経営管理実習（3年生2クラス）、
（栄養教諭）事前・事後指導（4年生、短大食物専攻2年生）
後期：学校栄養指導論（3年生、短大食物専攻1・2年生）、給食経営管理Ⅱ（3年生）
（栄養教諭）教職実践演習（4年生、短大食物専攻2年生）、総合演習（3年生）
給食経営管理演習（4年生）、
3. 直接に研究指導した学部学生：栄養教諭セミナー 4名（3年生4名）
4. 自己評価：前期、施設設備も学生も、何もわからない状態から、給食経営管理実習の授業で、ハサップ方式による100人分の給食提供を4回実施することができた。

研究領域

1. 専門研究領域：栄養教諭
2. 研究課題及び概要：将来を担う子どもたちの食育を推進する栄養教諭の育成

平成31年度分 研究業績一覧

1. 論文
なし
2. 学会発表
なし
3. 知的財産権の出願・取得予定
なし
4. 平成31年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし
5. 自己評価：初めての大学の業務と授業の準備に追われ、自己研鑽する余裕がなかった。来年度は、研究にも励みたい。

大学内運営

- 1 活動報告
 - ①（委員） 教員養成委員会委員
 - ②（クラス担任） 食物栄養学科3年生担任（50名）
1～3年学生のチューター（1年6名、3年3名）
 - ③（その他） 推薦入試面接、AO入試面接、オープンキャンパス説明等

社会貢献

1 地域社会への貢献

- ① 全国健康保険協会 徳島支部 「徳島文理大学・短期大学部考案！！健康レシピ」作成（2019年11月、2020年3月分）
- ② 教育講演会「子どもたちのための食育」徳島文理小学校にて実施
- ③ 徳島県新任栄養教諭校内研修指導員 年15回実施
- ④ 那賀町新センター開設委員会 役員

個人情報

1. 氏名：藍場 美菜
2. 職位：助教

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：栄養学実験、臨床栄養学実習Ⅰ（実習補助）、公衆栄養学実習（実習補助）、公衆衛生学実習（実習補助）
後期：総合演習Ⅱ、基礎栄養学実習（実習補助）、応用栄養学実習（実習補助）
大学院
前期：
後期：
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（1）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価：前年度の経験があったためスムーズに授業、実習の準備に取り組めた。4年生の担任業務をいくつか担当した。国家試験対策動画を作成したり、個別に質問を受け付けたりしたが、学生の自主的な勉強を促すことは難しいと感じた。今後は4年生になった段階ではなく、もっと早い時期（2、3年生）に国家試験勉強を開始すれば普通の講義も真剣に取り組めるようになり、学習の効率化が図れるのではないかと思う。

研究領域

1. ビタミンD、カルシウム代謝

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

なし

2. 学会発表

- 1) 川東美菜、高尾遙、中橋乙起、田尻真梨、森川咲子、山本浩範：肝臓におけるビタミンD代謝関連遺伝子の mRNA およびタンパク質発現解析. 第66回日本栄養改善学会学術総会、2019年9月、富山
- 2) 藍場元弘、橋田誠一、藤本侑希、川東美菜、河野友晴：食後における日常活動と簡易な運動の検討. 第66回日本栄養改善学会学術総会、2019年9月、富山

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費（挑戦的研究・萌芽）申請済

自己評価：昨年度は正常ラットの各臓器を用いて CYP24A1 に特異的な抗体に反応するシグナルについての検討を行った。今年度は同シグナルの細胞内局在の検討を行った。さらに、ビタミンD欠乏食を与えたラットを用いて昨年度同様の実験を行ったが変化はみられず、ラットの週齢の違いにおいても変化がみられなかったため、今後実験方法の検討が必要である。また、来年度に論文投稿ができるように準備を進めている。

大学内運営

食物栄養学科 4 年生担任、入学式誘導、平成 31 年度新入生宿泊セミナー参加、AO 入試及び一般推薦入試の監督、誘導、オープンキャンパス模擬授業担当

社会貢献

おもしろい理科実験（アカンサス会、文理小学校訪問の 2 回）

個人情報

1. 氏名：河野 友晴
2. 職位：助教

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：
後期：調理学実験
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（0）名、大学院生：修士（0）名
4. 自己評価：後期の調理学実験では、授業構成を考えて臨んだが、思うように実験内容が進まなかった。もっと学生に分かりやすい内容とすべく、研鑽を重ねる必要を感じた。

研究領域

1. 研究分野；栄養学・運動栄養学
2. 研究課題及び概要；超高感度免疫測定法を使用した研究
尿や濾紙血中のバイオマーカー（生理活性物質）を測定し、運動や食生活がどのような影響を与えているか検討する。

平成 31 年度分 研究業績一覧

1. 論文

- 1) 河野友晴, 沼田聡, 黒田暁生, 安田哲行, 宮下和幸, 坂本扶美枝, 片上直人, 松岡孝昭, 松久宗英, 橋田誠一. 「GAD 抗体と IA-2 抗体の 2 種抗体同時検出法の開発」(投稿中)

2. 学会発表

- 1) 藍場元弘, 河野友晴, 川東美奈, 橋田誠一. 食後における日常活動と簡易な運動の検討
第 66 回日本栄養改善学会学術総会（富山）（R1.9）

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 平成 31 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費（基盤研究 C） 随時尿と早朝尿、蓄尿間の内分泌物質の変動と食生活指標関連性に関する研究 申請中

自己評価：担当授業では、実験の段取りや内容が、自分が考えているよりもうまくいかなかった。この経験を活かし、来期はよりわかりやすい内容でできるよう考えていきたい。授業以外では、学生実習の助手の仕事をしていた。今年から始めたことなので、不慣れで、効率が良いとは言い難い状況であったので、要領よくこなせるよう改善が必要であると感じた。

大学内運営

オープンキャンパスの設営、補助、相談係
山城祭で食物栄養学科 3 年生が主体となって行った健康ランドの補助

大学入試センター試験監督業務

社会貢献

なし

第3節 児童学科

個人情報

1. 氏名：河口 雅子
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：音楽科、音楽科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：音楽A（2クラス）、音楽②（2クラス）、卒業研究
後期：音楽科教育法I（2クラス）、音楽①（2クラス）、専門ゼミナール、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：9名（卒業論文、卒業演奏）
4. 自己評価（工夫、反省）

学生自らが音楽科の特性や独自性を理解し、音楽の楽しさや喜び、一体感ある授業のあり方を体感できるために、授業内容をより一層研究し、実践した。毎時間終了後には、「フィードバックシート」で自己の振り返りと学びを確認させ、その内容を次時の授業に活かせるよう心がけた。

- ① 「音楽①」「音楽②」「音楽A」では、授業を「基礎理論」「演習」「実技」の3構成に組み立て、「基礎理論」では音楽の基礎理論の理解するための手立てを工夫し、授業後半の確認作業や毎時間の確認テストの実施で定着を図った。また、「演習」や「実技」では、音楽の感性を磨くという視点からアクティブラーニング及びグループワークを中核とした授業を通して、楽曲の分析から曲想表現に結びつける等の内容構成を実施し、感性を高める授業の展開を図った。こうしたことから、学生自らが授業を通して表現方法を体感できるようになり、一体感を持った授業の展開が図れるようになった。また、常に、子どもたちの発する声や表情、心が見える教師になってほしいという視点で授業を実践したが、自分を表現する楽しさや喜びを体感できる学生が増え、表現の真の意味の理解が図れるようになってきた。
- ② 教員採用試験に向けては、ゼミはもちろんのこと、学科全体での取り組みのおかげで、1次採用の勉強、面接指導、論文指導、実技指導等が充実し、昨年度より小学校では現役合格者数が過去最高となった。（24名）
- ③ 4回目のゼミの企画運営によるコンサートでは、個人演奏、ゼミ生（3年・4年）による演奏、150名の児童学科全体の合唱等、多彩な演奏の中で、昨年度に引き続き、感動が広がったコンサートを創り上げることができた。学生の感想にも学科としての一体感を感じ、学科に対する誇りが持てたとの記入が多かった。

研究領域

- 1 専門研究領域
「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」
2. 研究課題及び概要

音楽にまつわる人の認識、思考や感情のメカニズムやプロセスから、旋律、リズム、響き、聴取という要素がいかに音楽と関わる中で普遍的認知過程を持ち、感情に繋がっていくかを一つひとつの領域で研究している。言葉や音が人の心の中で豊かな音楽を創り出すまでに至るためには、感性を磨くことが重要と考える。こうした研究を基盤とし、幼児期から児童期に係るそれぞれの発達段階に於いてどう感性を磨いていくか、楽しさや美しさを探究する子どもたちの学びをどう創造するか、どう表現活動に結び付けていくか、こうした点について、様々な教材を収集・選択し、研究を深めてきた。合唱指導においては、大学での授業及びゼミ、地域で指導

している合唱団において、自己表現による人間力の創造をテーマとした演奏を目指している。

3. 令和元年度分 研究業績一覧

4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし

5. 令和元年度平成30年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし

6. 自己評価

「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」をテーマとして、研究を続けているが、今までに実践・研究してきたものを纏めさらにテーマに結びつけていきたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）

①児童学科長 ②教務委員会 ③教員養成対策委員会 ④3年チューター(7名),
4年チューター(9名)

社会貢献

1. 学会への貢献

中四国教育学会会員

2. 地域社会への貢献

徳島県教育委員会教育委員

四国4県教育委員総会教育長会（高松市）

徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会

徳島県総合教育会議

定例教育委員会 臨時教育委員会等

県内学事視察（県立阿南光高校、県立みなと高等学園 三好市辻小学校）

教育委員会主催行事参加（G20、夜間中学校シンポジウム、エシカル甲子園全国大会2019等）

第86回NHK全国合唱コンクール徳島県大会 審査員

芸術文化・文化遺産に関する事業（徳島県教育委員会）講師

女声合唱団「Vivace みやび」指導者

第65回徳島県アンサンブルコンテスト 金賞

第60回徳島県合唱祭出演 吉野川市文化祭出演 西麻植地区文化祭出演

個人情報

1. 氏名：三橋 謙一郎
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育方法論、生徒指導、保育方法論
2. 学部授業担当科目
前期：初等教育方法論、生徒指導（進路指導を含む）、保育援助論、保育方法演習
後期：教育方法論、教職概論、保育・教職実践演習（幼・小）、保育方法演習、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（5）名、その他（5）名
4. 自己評価
*授業では具体的な実践例を取り上げながら、理論的な内容をわかりやすく説明するように心掛けた。
*授業での私語対策として、学生の反応に応じて説明の仕方を変えるなどの工夫に努めた。
*教職科目の授業に関しては、教員採用試験との関連を考慮し、教材の精選に工夫を凝らした。

研究領域

1. 専門研究領域：教育学、教育方法学、幼児教育方法学、臨床教育学
2. 研究課題及び概要
・教育的タクトのあり方に関する実証的研究：理論に支えられた教育的タクトのあり方を、現場の授業実践の参観＝分析に基づき、具体的・実践的に追求していく。
3. 令和元年度分 研究業績一覧
【著書】キーワードで拓く新しい特別活動・共・東洋館出版・令和元年5月
【学会発表】
演劇的知の教育方法学的検討（5）—導入の意義および課題を中心として—・共・令和元年9月日本教育方法学会ラウンドテーブル①（於：大阪教育大学）
4. 自己評価
・広島県内、高知県内、徳島県内の現場の授業実践を中心に、授業等の分析＝検討を行い、上述の研究課題を達成するために、研究成果を発刊することで一定の成果が得られたように思う。

大学内運営

1. 活動報告

- ① 人間生活学専攻科長
- ② 大学院人間生活学研究科児童学専攻主任
- ③ 全学教職課程委員会委員長
- ④ 全学教員養成対策委員会委員
- ⑤ 人間生活学部教員養成推進委員会委員長
- ⑥ 人間生活学部教育研究委員会委員
- ⑦ 児童学科2年クラス担任
- ⑧ 児童学科1・2・3・4年チューター等（24名）

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ① 日本教育方法学会理事・紀要編集委員
- ② 日本特別活動学会理事・紀要編集委員
- ③ 現代学習集団授業研究会副会長

2. 地域社会への貢献

- ① 徳島市子ども・子育て会議委員
- ② 教員免許状更新講習講師
- ③ 県・大学等連携による教職員研修講座講師

個人情報

1. 氏名：岡 直樹
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：学校心理学
2. 学部授業担当科目
前期：心理学 A, 教育原理, 子どもの学び支援実習 I, II, III, IV
後期：保育相談支援, 教育原理, 道徳教育, 社会心理学, 専門ゼミナール,
子どもの学び支援実習 I, II, III, IV
3. 直接に指導した学生：専門ゼミナール 4名, 子どもの学び支援センターでの指導 23名, チューター担当 15名 (専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む)。
4. 自己評価：授業においては, グループ学習の機会を多く設け, 受け身の学習にならないよう配慮した。子どもの学び支援センター(きらきらルーム)において, 学習相談の実習を学生に行わせ, その実習に対するケース検討会なども開きながら, 学生の心理教育的支援の実践力を育成している。

研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学, 学校心理学
2. 研究課題及び概要
①記憶や学習についてのメカニズムに関する基礎的研究
②基礎的研究から得られた知見に基づく学習指導法や学習方法についての応用的研究
③学習面の心理教育支援, 特に認知カウンセリングに関する実践的研究
3. 平成 31 年度, 令和元年度分研究業績一覧
【論文】
①田中紗枝子・岡 直樹・福島久美子・宮谷真人 2019 連立方程式の解法の習得に向けた認知カウンセリング:再活性化説にもとづいた反復学習による支援学校心理学研究, 19, 27-39.
②岡 直樹 2020 認知カウンセリングを活かした学習支援 学校心理士会年報 12, 19-28.
【学会発表】
①岡 直樹・田中紗枝子 大学の相談室における学習支援に関する研究 (1) 日本教育心理学会第 61 回総会 2019 年 9 月 日本大学 (ポスター発表)
②田中紗枝子・岡 直樹 大学の相談室における学習支援に関する研究 (2) 日本教育心理学会第 61 回総会 2019 年 9 月 日本大学 (ポスター発表)
③中村 涼・岡 直樹 認知カウンセリングによる学習相談における教材選択—にこにこ広島ルームのケース— 日本教育心理学会第 61 回総会 2019 年 9 月 日本大学 (ポスター発表)
④金子紗枝子・岡 直樹 認知カウンセリングへの参加が教職志望大学生に及ぼす影響 日本学校心理学会第 21 回千葉大会 2019 年 12 月 聖徳大学 (ポスター発表)
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 平成 30 年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況
6. 自己評価
研究課題については, 特に応用的研究と実践研究にウエイトをおいて研究を継続

し、論文投稿や学会発表を行ってきた。また、本学内において実施している学び支援活動（きらきらルーム）を基盤にして。事例研究に取り組むとともに、参加児童、保護者および大学生に実施したアンケート等を分析し、この取り組みについて検証し、支援方法の改善策について検討していく。

大学内運営

- ① 自己点検・自己評価委員会委員
- ② 自己点検・評価実施委員会委員
- ③ 児童学科1年生担任, 1, 2, 3年生チューター

社会貢献

- ① 一般社団法人 学校心理士認定運営機構 学校心理士資格認定委員会委員長
- ② 一般社団法人 学校心理士認定運営機構 理事
- ③ 日本学校心理士会副会長
- ④ 学校心理学研究 査読者
- ⑤ 日本学校心理士会年報 査読者
- ⑥ 日本学校心理学会 理事

個人情報

1. 氏名：松本 有貴
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学、児童心理学、臨床学校心理学
2. 学部授業担当科目
前期：教育心理学、保育の心理学Ⅰ、保育者論、児童教育相談演習Ⅰ、児童実践教育学特論Ⅰ、
児童心理学特論、家族関係学特別研究
後期：児童心理学、教育相談（カウンセリングを含む）、保育の心理学Ⅱ、専門ゼミナール、
児童実践教育学特論Ⅱ、児童教育相談演習Ⅱ、家族関係学特別講義
3. 直接に指導した学部学生：4年生ゼミナール5名 ・ 3年生ゼミナール9名
直接指導した大学院学生：専攻科1名・修士1名・博士3名（大阪大学大学院連合小児発達学研究 科2名含む）
4. 自己評価
一斉講義とともにグループ討論・課題やロールプレイを用いた演習を行い、学生の主体的学修を促進した。ゲスト講師として小学校教諭を招待し学生の実践への意欲を高めた。文献研究を取り入れた授業、論作文やパワーポイントを使った発表の取り組みを行った。評価は多視点による基準を設置して行った。

研究領域

1. 専門研究領域：ユニバーサル予防教育、ウェルビーイング教育、社会性と情動の学習(SEL)、子どもの認知行動療法、神経生理心理学
2. 研究課題
 - ① 認知行動療法（CBT）に基づく持続可能な学校予防教育の効果比較研究
 - ② 不登校の改善に資する保護者のメンタルヘルスとQOL（生活の質）の向上の研究
 - ③ 教員・指導員による発達障害の不安へのCBTを用いた支援の研究
 - ④ ウェルビーイング教育
3. 令和元年度分 研究業績一覧
〔論文・著書〕
 - ① ちばエコチル調査つうしん 2019 9月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「SEL:社会情動的スキルの学習」千葉大学予防センター
 - ② ちばエコチル調査つうしん 2020 3月号 キット先生の豊かな心をはぐくむ子育て「子どもの考える力を伸ばしたい：体を動かす」千葉大学予防センター
 - ③ Ishimoto, Y., Yamane, T., & Matsumoto, Y. (2019). Anxiety levels of children with developmental disorders in Japan: Based on reports provided by parents. *Journal of Autism and Developmental Disorders*. <https://doi.org/10.1007/s10803-019-04092-z>
 - ④ 松本有貴・石本雄真・島寄仁恵・瀧澤悠・西田千寿子（2019）子どもとつながる学校心理教育 せせらぎ出版
 - ⑤ 松本有貴（2019）子ども心理プログラムワークブック1「ミニッツ」2「ないす」 原田印刷出版株式会社

〔学会・研究会〕

- ① Osher, D., Koizumi, R., Matsumoto, Y., Miyazaki, A. (2019). 予防教育「社会性と情動の学習 (SEL: Social-Emotional Learning)」実行委員会

- 企画シンポジウム 日本心理臨床学会第38回大会 パシフィコ横浜
- ② 松本・石本・島崎・西田・瀧澤・宮崎 (2019) 学校心理教育の効果を高める環境作り - 子どもとつながる学校心理教育 - シンポジウム 日本教育心理学会第61回総会 日本大学
 - ③ 松本・原田・大川・高橋・宮崎・渡辺 (2019) 援助ニーズが高い人へのソーシャル・エモーショナルラーニング(SEL) - SELの多面的応用とその効果検討 - シンポジウム 日本教育心理学会第61回総会 日本大学
 - ④ 松本 (2020) レジリエンスの育成 日本発達心理学会 分科会社会性と情動の発達 第1回研修会
 - ⑤ 松本 (2020) フレンドの実践から子ども支援を展望する 第2回おやこ支援プログラム連絡協議会および研究会 理化学研究所 脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム

4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし
5. 平成30年度分 科学研究費補助金・各種助成金
科研基盤(C) 18K02440(H30・31・32)
申請 科研基盤(C)
6. 自己評価

アメリカの研究団体AIR(American Institute for Research)の研究者オッシュャー教授らとシンポジウムを開催した。また、同団体のパリッジ博士らがまとめた報告書「Children and Society: A Global Scan of Child Well-Being」出版に協力した。ユネスコなどの事業に関わる国際的な団体とSEL(社会性と情動の学習)を基盤とした協働を行うことができた。

理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チームの「RISTEXプロジェクト」に参加し、子ども支援プログラムの提供やプレゼンテーションなど行った。2020年までの研究推進とまとめの書籍化に尽力する。

論文投稿、学会発表に積極的に取り組むことを来年度の課題とする。

大学内運営

- ① 人間生活学部学生指導委員会 委員長
- ② 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ③ 児童学科：1年生担任、チューター(27名)、学生支援担当
- ④ 教員免許状更新の講座担当

社会貢献

- ① 日本SEL学会副代表理事
- ② クイーンズランド大学認定トリプルPプログラムトレーナー
- ③ Journal of Evaluation and Research in Education 査読者
- ④ Sage Open 査読者
- ⑤ 一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター理事
- ⑥ 理化学研究所脳神経科学研究センター親和性社会行動研究チーム研究協力者
- ⑦ アメリカの研究団体AIR(American Institute for Research)研究協力者

個人情報

1. 氏名：岡山 千賀子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：児童学・子育て支援
2. 学部授業担当科目
前期：児童学原論、レクリエーション活動援助法Ⅰ、レクリエーション論、家庭科教育法Ⅰ
総合科目（ボランティア）レクリエーション概論、レクリエーション実技①、レクリエーション実技②、文理学
後期：家庭、レクリエーション活動援助法Ⅱ、レクリエーション実技・レクリエーション概論、専門ゼミナール、
卒業研究、スポーツ・レクリエーション特講（集中）、文理学
家庭教育特論、（専攻科）、児童教育相談演習Ⅱ（大学院）
3. 直接に研究指導した学部学生： その他（1）名
4. 自己評価

*学生指導：1年生学年主任として教育に尽力した。*就職対策：4年生5名に就職指導を行った。*採用試験対策：過去の試験問題や実技について適宜授業内で紹介し、教科では、実際の試験問題に取り組む時間を設定した。保育・教育対策講座（3・4年生対象）を担当した。*授業実践：実践力を身に付けるために、積極的にボランティア活動を推進した。総合科目（ボランティア）の担当として、6学科217名（看護学科含む）の学生をボランティア活動に参加させた。また、事例解釈や実技を授業に取り入れたり、保育現場への見学・実践等を取り入れたりした。*最新の情報と資料を準備し、適宜ビデオやメディアを取り入れた。*アクティブラーニング：自著した「講義ノート」を活用し、その中で古文や新聞記事などを取り入れ、学生に自ら取り組み、考える力を付けるよう努力した。*児童研究「with children」担当、大学祭で「子ども広場」開催。*「次世代育成事業 おぎゃっと21への学生参画指導」、*地域交流センターと連携し、イベント（イルミネーションフェスティバル等）の企画・運営を行った。
*レクリエーション公認資格課程認定校講座担当として、資格取得申請に関する指導をした。「スポーツ・レクリエーション指導者」資格課程の指導を行った。令和元年度は、47名の学生が受講した。

研究領域

1. 専門研究領域：社会科学分野・児童学・家族領域
2. 研究課題及び概要；
レクリエーション・インストラクター資格・スポーツ・レクリエーション指導者資格者に必要な技術と知識に関する研究。
3. 令和元年度分 研究業績一覧
・【論文】 「子育て支援員と親の相互認識の実態についての一考察」日本児童学会へ投稿中
・【その他】 「子育て支援員」へのアンケート調査の実施。
4. 令和2年度分 科学研究費補助金の申請中
「子育て支援員が保育業務に従事するときの自信に繋がる自己効力感の向上に関する研究」
5. 自己評価（成果、反省）
日本レクリエーション協会理事に就任。日本レクリエーション協会からの依頼で講習会および全国公認資格認定委員の活動に取り組んだ。
人間生活研究科人間生活専攻博士後期課程入学、博士論文研究に取り組む。

大学内運営

1 活動報告

- ① 県内外高校へ出張講義・遠隔授業、高校生のための公開セミナー
- ② 高校生来学対応委員・保護者会担当・ボランティア推進係（学科内）
- ③ 児童学科1年生学年主任・担任62名、児童学科1年チューター5名・2年チューター3名・3年チューター4名・4年チューター5名
- ④ 学内ボランティア担当
- ⑤ 地域連携センターへのボランティア協力

社会貢献

1 学会等への貢献：

- ① 日本レクリエーション協会理事・同協会公認指導者資格課程認定校連絡協議会 監事
同協会全国公認資格認定委員
- ② 徳島県レクリエーション協会常務理事・組織部長、(レクリエーション・コーディネーター)
- ③ 日本消費者教育学会会員（中・四国支部役員）
- ④ 日本家政学会第71回大会実行副委員長・日本家政学会中国四国支部機関幹事

2 地域社会への貢献：

- ① 徳島県教育委員会生涯学習政策課、「学校を核とした地域の教育力強化推進委員会」、委員長
- ② 徳島県教育委員会生涯学習政策課、「放課後児童健全育成委員会」、委員長
- ③ 徳島県立近代美術館協議会委員
- ④ 徳島県県民環境部人権教育啓発推進委員
- ⑤ 徳島県保健福祉部長寿こども政策局、「子育て応援の匠」
- ⑥ 徳島県立男女共同参画交流センター、「育児ワポイント講座」講師
- ⑦ 徳島県レクリエーション協会、公認指導者（徳島県シルバー大学院講座講師）
- ⑧ 徳島県立総合大学校まなびーあ登録講師
- ⑨ 徳島市身体障がい者連合会評議員
- ⑩ 徳島県ウォークラリー実行委員会委員
- ⑪ 社会福祉法人 ハート福祉会 評議員
- ⑫ 社会福祉法人 悠林舎 福祉サービス評価委員
- * その他、県・市町村における子育て支援、放課後児童健全育成指導等に関する講演会活動など

個人情報

1. 氏名：津守 美鈴
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：国語科、国語科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：国語科教育法Ⅰ、保育内容（言葉）A、文学・文学A、児童文学、
文献講読演習、児童文学特論、修了研究
後期：国語（書写を含む）、保育・教職実践演習、専門ゼミナール、
保育内容（言葉）B、文献講読演習、修了研究、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（9）名
修了研究（1）名

4. 自己評価

学生がより主体的に学修できるよう参加型を意識した授業づくりに努めたが、その分教材研究と授業準備に追われた感があった。より参加型で主体的な学修ができる授業づくりに努めたい。教員採用試験の講座については、ゼミ生だけでなく幼・保、小学校教員や他学科の養護教諭をめざす学生等に対し、休日等の時間外に模擬授業練習や論文指導をするなど、全力で指導・支援をしたおかげで、近年にない合格者を出すことができた。来年度は、学生の夢の実現に向けて、方法改善に努め、さらに支援をしていきたい。また、卒論指導については、昨年度から引き続き3年生からテーマの確定と章立てをさせたり、卒業研究に関してしっかりとイメージや意欲を持たせたりするため、卒論中間及び最終発表会を実施し、改善に努めた。また、ゼミ生には、春休み中、毎日研究室で採用試験勉強をさせる取組も定着し、勉強習慣を身につけさせることができた。

研究領域

1. 専門研究領域：教育方法、国語科教育
2. 研究課題及び概要
「主体的で対話的な深い学修のできる大学授業の可能性」
授業において協働して学修できる方法について、本学のいくつかの授業で試行してみるなど、実践的に可能性をさぐってきた。また、実物を作成するなどの課題を与え、ホワイトボードをできる限り用い、話し合い意見を交流しながら制作させてみる取組も行ったが、時間を十分にかけないと効果には結びつかないと感じた。今後は、全国的に理論・実践研究している研究会等に参加させていただき、知識や技能の向上にも努めていきたい。
3. 令和元年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価
教育領域の自己評価にも記述したとおり、どうしても正課の授業や正課外の講座等、担任・チューター生への学生指導に費やす時間と労力が非常に大きいため、じっくりと研究に取り組むことが困難な状況がある。しかし、教育と研究の両輪で考えると、教育面では一定の成果をあげることができたと感じる。

大学内運営

- 1 活動報告
① 児童学科4年Aクラス担任26名、1年チューター5名、2年チューター3名、3年チューター7名、4年チューター9名

- ② 入学試験委員
- ③ 入試作問委員
- ④ 教員養成対策委員会委員
- ⑤ 書道部顧問

社会貢献

1 学会等への貢献

国語教育実践理論研究会（K Z R）会員

2 地域社会への貢献

- ① 令和元年度用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール標語部門審査員
- ② 徳島県令和元年度教科用図書選定審議会委員
- ③ 徳島県子どもの読書活動推進協議会委員長
- ④ 徳島県中学校国語教育研究大会指導助言者
- ⑤ 徳島県うずしおの会（小・中・高の学校現場の先生方を対象に毎月1回開催している国語研究会）指導助言者

個人情報

1. 氏名：西原正純
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：生活科，生活科教育法，社会科，社会科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：生活科教育法（児童 2 年），教育方法技術論（心理 3 年他），社会科（児童 3 年）
情報処理（人間生活学科他）
後期：生活科（児童 1 年），専門ゼミナール（児童 3 年），社会科教育法（児童 3 年）
教育方法技術論（看護他）， 道德教育（短大）
3. 直接研究指導した学部学生：卒業論文（8）名
4. 自己評価

授業の形が，一方的に伝える講義型の授業にならないように心掛けた。授業開始時に授業のメニューを提示して授業の見通しをもたせるようにし，電子黒板を活用して授業の内容を視覚化・焦点化した。また，対話的な学びができるようにホワイトボードを活用し共有化を図った。授業の視覚化・焦点化・共有化は，授業のユニバーサルデザイン化の基本である。次年度も，引き続きユニバーサルデザイン化された授業になるよう授業の内容を充実させていきたい。また，新学習指導要領で示されているアクティブ・ラーニングという言葉に踊らされないよう「主体的で対話的な深い学び」をめざして授業改革をしていきたい。

今年度も，すべての授業で GoogleClassroom を活用した。昨年度は，授業で使うワークシートや資料を電子媒体で送ったり，課題の提出などもスムーズにできたりすることなどを体験させることが主であった。しかし，今年度は，こちらからの課題や質問に答える一方通行にならないよう，学生が投げかけた「問い」に対して，学生が答えを出すと云った双方向的な授業となるよう心掛けた。来年度も，よりいっそう授業の中身をより充実させ，GoogleClassroom の活用の幅も広げていきたい。

まだまだ，スマートフォンや PC などの情報機器活用に不慣れな学生もいる。来年度からは，文部科学省の GIGA スクール構想により，学校現場は，一人 1 台のタブレット PC が当たり前になっていく。そのような環境の下でより効果的な学習をどのように進めていけばよいか，どんな ICT 環境であろうとも対応できるよう学生のスキルを高めていきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：教科教育（生活科，社会科），情報教育

2. 研究課題及び概要

「ICT機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化と情報活用能力の育成」

授業のユニバーサルデザイン化は、誰もがわかるできる授業をめざしている。学校現場のICT機器整備環境は、まだまだ不十分ではあるが、与えられた環境の中で効果的にICT機器を活用することで授業のユニバーサルデザイン化を図っていきたい。また、それぞれの教科の特性に応じた情報活用能力の育成についても研究を深めていきたい。

3. 令和元年度分 研究業績一覧：なし

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：；なし

6. 自己評価

研究課題に対する取り組みを形にあらわすことができていない。次年度こそ、研究業績として書けるよう努力したい。

大学内運営

1. 活動報告（委員会委員，担任等）

① 学生自主防災会担当委員

② 児童学科3年担任（40名）

③ チューター（27名）1年生（5名） 2年生（2名） 3年生（10名），4年生（10名）

社会貢献

1. 学会への貢献

2. 学校への貢献

① 出張講義 講師「小学校の先生になりたい期目へ」徳島北高校 10月29日（火）

3. 地域への貢献

個人情報

- 1 氏名：仁宇暁子
- 2 職位：准教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：図画工作科教育法、図画工作、美術A
- 2 学部授業担当科目：
前期：図画工作科教育法2年、保育内容〈表現B〉2年、図画工作①1年、卒業研究4年
後期：図画工作②1年、専門ゼミナール3年、美術A1年2年、卒業研究4年
- 3 直接に研究指導した学部学生：7名（卒業制作、卒業論文指導）、その他9名
- 4 自己評価：図画工作科教育法では、子ども一人ひとりを生かす模擬授業を、保育内容〈表現B〉では、子どもの思いを汲み上げる模擬保育の指導を、アクティブラーニングの手法を取り入れ、誰もが主体的に活動し、感性を揺さぶる授業を行った。また、図画工作科①②では、幼稚園や保育士の採用試験に必要な写実的な鉛筆デッサンをはじめとした基礎基本の技能や知識、五感を働かせて感性を豊かにする感性トレーニングを駆使し、演習を行った。今後、さらにICTを効果的に活用した授業の振り返りを行う必要がある。

研究領域

- 1 専門研究領域：絵画（桜の花びらをモチーフにテンペラ溶剤を使用した抽象絵画の研究、インスタレーション。石膏デッサンと感性トレーニングによる創造性の開発）
- 2 研究課題及び概要：
 - ・創造の一過程としての石膏デッサンの可能性
 - ・桜の花びら、藍染、キャンバス作品による「命の尊さ」の平面表現、インスタレーションによる空間表現
 - ・図画工作科における、「感性トレーニング」が子どもの心と表現に及ぼす効果
- 3 令和1年度分研究業績一覧
【論文・個展：】
 - 第39回個展（紅色の絵画展—そごう徳島店）
 - 第67回形象派美術協会展出品（愛知県美術館）
 - ことのはロビーコンサートでライブペインティングを行った（県立文学書道館）
【著書】：「仁宇暁子サク・ラ イノチリーズV展」冊子発刊
「形象」に石膏デッサンと絵画展批評の原稿を掲載
【講演】：「芸術とアンチエイジング」を女性教員連盟の依頼で講演。「感性トレーニングは創造の源」を国立台北教育大学で講演。
【その他】：石膏デッサンとテンペラのワークショップ。（徳島県上板町「音を描き空気を染める」、3泊4日。台湾省台北市6日間「感性トレーニングの講演と実習」
- 4 自己評価（成果、反省）：「イノチシリーズV」のインスタレーション個展は、2冊

めの冊子にまとめることができた。授業と研究に共通する課題「感性トレーニングによる子どもの心の変化と表現の効果」について著書か論文に記す必要がある

大学内運営

1 活動報告（委員会委員、担任等）

- 1 人権委員会
- 2 児童学科オープンキャンパス担当
- 3 児童学科広報担当
- 4 児童学科3年生担任81名、1年生チューター6名、2年生4名、3年生チューター7名、4年生チューター7名

社会貢献

1 学会への貢献：

日本形象派美術協会 審査委員長並びに研修委員長。第67回形象派展（愛知県立美術館）の審査を行った。年に2回の絵画のセミナーの代表として、企画・実習指導で成果を挙げた。

2 学校への貢献：

- 1 国立台北教育大学から招聘され講演と実技指導を行った。
- 2 高知県立宿毛高等学校、徳島県立北高等学校で出張講義を行った。
- 3 徳島県近代美術館の水彩画講座（中学生以上を対象に）の講師を務めた。
- 4 全国教育美術展 地方審査委員を務めた。
- 5 とくしま動物園の写生大会など様々な学校関係の展覧会審査員を務めた
- 6 発達しょうがいや不登校、女性教員連盟などに講演活動を行った。

3 地域への貢献：

- 1 全国公募展「AWA 現代アート展」の審査員を務めた。
- 2 三好市の病院で2歳から100歳までに「元気になる絵画ワークショップ」を毎月1回行った。
- 3 徳島市の公民館で絵画ワークショップを毎月2回開催した。
- 4 地域の夭逝の画家の作品を編集して画集にまとめた。

個人情報

1. 氏名：川端 恵子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 幼児教育
2. 学部授業担当科目
前期： 保育内容（環境）A、保育内容（人間関係）A、児童文化、事前・事後指導
保育内容（環境）A（保育科）
後期： 保育内容（環境）B、保育内容（人間関係）B、専門ゼミナール
保育・教職実践演習、保育内容（人間関係）A（保育科）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（1）名、その他（8）名
4. 自己評価
 - ・保育内容の指導において「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載内容がしっかり理解できるように留意するとともに、幼児期の特性や小学校以降の学びとの違いについての理解や認識が深まるように努力した。
 - ・学生の理解度を考慮したり応答的に授業を進めたりすることに配慮した。
 - ・ビデオ・スライドなどを活用し視覚を通して学ぶことや、グループで学習し発表する機会を設けることで、楽しい授業を目指した。
 - ・幼稚園の現場での経験を生かし、実際の幼児の姿や事例を多く取り入れ理論と関連付けた授業を展開することに努めた。学生が実習で経験したことを事例に仕上げ、考察を基にディスカッションした経験は有意義であったと考えている。
 - ・4年生の授業では実践的な内容を中心とし、保育現場で応用できるよう配慮するとともに、保育の現場で求められる保育者としての資質を高めることに意識において授業内容や演習内容に留意した。模擬保育の後、現場で行われているような模擬的な協議会の形式を取り入れて学んだこともリアルで好評だった。
 - ・理論面においては新たに学ぶことや研究すべき事項が今年度も多々あった。教材研究は私自身の向上につながっており、次年度にもより良い授業を目指して取り組んでいきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：保育内容
2. 研究課題及び概要
 - ①「幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて」

近年の生活環境の変化が、子どもの成長・発達においてどのように影響を及ぼしているかについての研究を引き続き深めていきたい。とりわけ、道徳性・規範意識等が培われることについては、担当科目の保育内容（人間関係）と重なる部分であり、今後も研究したい。
 - ② 昨年度から実施されている「新幼稚園教育要領」等について理解を深め、各幼児教育施設での教育・保育の在り方について引き続き研究していきたい。
3. 令和元年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況： なし
5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況： なし
6. 自己評価

幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて、著名な研究者の考えを参考にしながら私自身の実践を基にした理論を追究し、指導に生かしていきたい。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解することと共に、学会や研修会での情報が活かされたと感じている。

大学内運営

1 活動報告

- ① オープンキャンパス担当
- ② 児童学科2年Bクラス担任
- ③ 1年チューター5名、2年チューター2名、3年チューター7名、4年チューター9名
- ④ 幼・保採用試験対策へのサポート

社会貢献

1 学会等への貢献

日本保育学会会員

2 地域社会への貢献

- ① 徳島県幼児教育推進体制構築事業調査研究実行委員
- ② 徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
- ③ 徳島県幼稚園等新規採用教諭研修会委員
- ④ 文部科学省指定 北島町校種間連携協議会委員
- ⑤ 鳴門市教育振興計画審議会副委員長
- ⑥ 吉野川市幼児教育研修会講師（令和元年10月28日・11月18日）

個人情報

1. 氏名：五反地 由紀子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：乳児保育・幼児保育
2. 学部授業担当科目
前期：乳児保育①、保育実習指導 1 ①、保育実習指導Ⅱ、児童文化
後期：乳児保育②、保育実習指導 1 ②、専門ゼミナール、
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（1）名、その他（15名）
4. 自己評価

平成 30 年 4 月に新たに制定された保育士養成課程の教科目「乳児保育」講義が新設されたことをうけて、より良い授業をするための授業内容の工夫に努めた。具体的には、テキストを教授内容に準拠したものに変更し、授業毎に使用するレジュメ・プリント等を作成して使用した。授業終了後に提出させ、チェックし学生に返して学びを確認させた。

授業は、昨年同様一方的な講義中心の内容にならないようにグループワークや演習、実技を取り入れ、学生が楽しく興味を持って受講できるように心がけた。また、学生が安心して前向きな気持ちで学修でき、何でも質問できるように、常に学生を受容する姿勢と、授業時も柔らかな雰囲気醸成に努めた。

保育士資格を取得するために欠かすことのできない保育実習については、希望実習先調査に始まり、振り分け、実習先との調整等丁寧に行った。保育実習指導の授業では、保育所の現場の経験を生かした指導を心がけ、事例や子どもの姿を学ぶことで、スムーズに保育実習に繋げることを目指す指導を心がけた。

研究領域

1. 専門研究領域：保育内容
2. 研究課題及び概要
①平成 30 年 4 月に新たに制定された保育士養成課程の教科目「乳児保育」（講義 2 単位）が新設された。乳児保育の充実について学生が理解しやすく、自ら考えることのできる授業を行うために理解を深め研究していきたい。
②「伝承遊びについて」初年度からの研究を継続していきながら、学生の伝承遊びへの関心や意識・課題を模索している。乳児保育・児童文化・保育実習指導すべての教科に関連する題材として伝承遊びを保育実践の場に定着させたい。学生と共に考え取り組むことで保育実習に繋げることに努めた。
③「平成 29 年度告示保育所保育指針の理解と学生への指導について」昨年度より施行された保育所保育指針を継続して学び理解し、学生への適切な指導・理解に繋げていく。
3. 令和元年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和元年度分科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価
授業・講座・実習に係る準備調整等で時間的な制約もあり、研究面に関しては不十分であったと反省する。

大学内運営

1. 活動報告
 - ① 児童学科お遍路ウオーク・宿泊セミナー運営委員
 - ② 児童学科4年Bクラス担任25名（4年生82名）
 - ③ 1年チューター5名、2年チューター2名、3年チューター6名、4年生チューター9名
 - ④ 児童学科オープンキャンパス担当
 - ⑤ ハラスメント防止対策委員会相談員
 - ⑥ 全学共通教育センターの学習支援アドバイザー
 - ⑦ 幼・保採用試験対策へのサポート

社会貢献

1. 学会等への貢献
2. 地域社会への貢献
 - ①徳島県社会福祉協議会保育支援アドバイザー
 - ②石井町社会福祉協議会理事
 - ③石井町立保育所職員への保育助言

個人情報

1. 氏名：林向達
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育、教育学
2. 学部授業担当

前期：教育方法・技術論、情報処理、保育原理

後期：教育方法・技術論、情報科学、情報ネットワーク論、保育原理、専門ゼミナール

3. 直接に研究指導した学部学生：

学部：3年生（6）名、4年生（4）名

大学院：なし

4. 自己評価：

今年度は授業構成を見直し、前半に受講生による調べ課題（30分）、後半に調べ課題に沿った解説（60分）を行なう形式を取り入れた。それに伴い、調べ課題の提出は、課題シートの写真を各自のスマートフォンを利用して撮影したものを授業支援システム（Classroom）に投稿してもらった形とした。授業構成フォーマットを定型化することで、受講生達も取り組みやすさを感じてもらえたことは一定程度成果を得たと考える。

研究領域

1. 専門研究領域：教育情報化史、教育課程論、教育工学
2. 研究課題及び概要：教育と情報の歴史資料収集と分析整理
3. 令和元年度分、研究業績一覧

① [学会発表] 林向達 (2019) 「キャッシュレス時代に対応した消費者教育教材の開発」, 日本教育工学会 2019 年秋季全国大会講演論文集, 239-240, 2019 年 9 月 7 日.

② [研究会発表] 林向達 「日本の教育情報化の変遷と今後の課題」, 社会情報学会 定例研究会 (実証・政策部門) 「「ポスト Society 5.0 における地域教育と ICT の可能性—海士町モデル以後の模索」」 2019 年 12 月 21 日, 中央大学市ヶ谷田町キャンパス.

5. 自己評価

今年度はソフトウェア開発に取り組み、その応用成果を消費者教育教材の開発として発表した。技術的成果としての発表には至らなかったが、今後はプログラミングツールの提案として発表したいと考える。2020 年 11 月には日本教育メディア学会年次大会開催を徳島文理大学で引き受けたこともあり、研究

大学内運営

1. 活動報告
 - ① 児童学科 2 年生担任
 - ② 学部広報委員

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - ・ 日本教育メディア学会年次大会実行委員長 (2020 年 11 月 2, 3 日開催)
 - ・ 文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー (2019 年 6 月 - 2020 年 3 月)

2. 地域社会への貢献

①学習ソフトウェア情報研究センター「学習デジタル教材コンクール」審査

②大阪市教育センター学校教育 ICT 活用事業コーディネーター

② 大阪市立東小橋小学校公開授業助言

以上

個人情報

- 1 氏名：土岡 大介
- 2 職位：准教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：健康・スポーツ，スポーツ科学，幼・児童体育
- 2 学部授業担当科目
前期：体育②（児童 3BC，児童 3AC），健康スポーツ A（建築 1，看護 1A 総合政策 1A）
後期：スポーツ科学理論（児童 1AB），健康スポーツ B（看護 1B，理学療法 1，食物栄養 1B，総合政策 1A，薬学 1CD，心理 1B）
- 3 直接に研究指導した学部学生：その他（3名）
- 4 自己評価

東京オリンピックや新 8 号館の新設に伴い，学生たちは例年以上に運動スポーツやトレーニングに興味関心が強かったように感じる。学生の専門性や実際の体力・運動能力の現状を踏まえた上で，授業開講の 1 年次だけでなく，4 年間を通じて継続的に取り組める方法やその必要性について今後も強調し，また施設の利用方法，運動時間の確保等，具体的な実施方法，使用環境を整え，指導していきたいと考える。

研究領域

- 1 専門研究領域：健康・スポーツ科学，運動方法学(バレーボール)，指導者養成
- 2 研究課題及び概要：
 - ① 幼児を対象とした体力・運動能力の向上に関する研究（継続）
 - ② バレーボール競技における競技力向上・指導者育成（公認資格取得）・競技人口の拡大・普及発展に関する研究（継続）
- 3 平成 31 年度分 研究業績一覧
 - ・土岡大介「練習計画の立案」，平成 31 年度全国大学バレーボール部員対象（公財）日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ 1 資格取得講習会（専門科目）講師，2019 年 8 月 12 日，大阪府立大学工業高等専門学校
 - ・土岡大介「フォーメーション(基礎)」，平成 31 年度(公財)日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ 1 資格取得講習会(バレーボール専門科目)講師，2018 年 8 月 12 日，大阪府立大学工業高等専門学校
 - ・Elucidating the toss-batting movement in baseball when hitting tossed balls of different speeds. Tago T, Kaneko K, Tsuchioka D, Ishii N European College of Sport Science 24th Annual Congress of the European College of Sport Science, Abstract ID: EP-UD01-205, Czech Republic, Prague, 2019.7
 - ・平成 31 年度（公財）日本スポーツ協会公認バレーボールコーチ 1 資格取得講習会，専門科目/筆記試験・実技審査 4 種目（ボールコントロール，サーブ，トス，スパイク）担当，2019 年 8 月 13 日，大阪府立大学工業高等専門学校
 - ・テレビ放送解説「四国まんなかピカラカップバレーボール大会 2019 決勝戦・3 位決定戦」主催 STNet，三好市教育委員会，三好市池田総合体育館，2019 年 5 月 19 日収録，3 局同時放送 6 月 8 日
 - ・一世界へつながる情報を未来の全日本へ，（公財）日本 VB 協会国内事業本部指導普及委員会一同科学研究委員会情報戦略班共同プロジェクト，STINGO 配信事業担当（2019 継続事業）
- 4 知的財産権の出願・取得状況
- 5 自己評価

日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の登録者数は，2019 年 10 月現在で 160,876 人であるが，その内，公認指導者が多い中央競技団体は，1 位がサッカーで 38,683 人，次いでバレーボールの 17,773 人である。公的な資格をもった指導者の資質向上と養成者の増加は永続的に必要であるが，指導者を指導する養成者の数が少ない現状をどう改

善するかが現在の課題の一つである。他の中央競技団体とも連携を深め、専門的な知識・指導方法を身につけた指導者を養成する公認講師を育て、現場において適切な指導を行い、部活の長時間指導や体罰等の諸問題を無くし、延いては競技人口の拡大・競技力の向上に繋がりたいと考えている。

大学内運営

1 活動報告

教員採用試験対策講座担当(体育実技)、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、一般教養科目充実協議会準備委員会委員、防火・防災管理委員会委員 7号館責任者、5号館 AED 管理責任者、スポーツ推薦入試(バレーボール窓口)・高校訪問担当、入試面接担当、附属幼稚園特設保育体育あそび教室(毎週1回)担当、四国地区大学総合体育大会役員、男・女子バレーボール部部長、女子バレーボール部監督、大会への出場引率、体育館の使用申請責任者・管理業務、トレーニングマシン使用の指導・管理、体育科カリキュラム作成に関わる業務・用品申請管理担当、入・卒業式の総代指導・会場設営等、学内体育設備管理 等

社会貢献

1 地域社会への貢献

- ① (公財)日本バレーボール協会指導者養成委員会事業である日本スポーツ協会公認指導者資格取得講習会・更新講習会を開催、講師、審査委員を担当した。
- ② 日本スポーツ協会公認コーチとして指導者の資質向上・育成普及に関わる講習会等の企画・運営に関わり、日本ヤングクラブバレーボール連盟理事・運営事務局として、指導普及委員会事業である第22回全国ヤングクラブバレーボール男女優勝大会(参加者1831名)を統轄運営した。
- ③ 四国大学バレーボール連盟副会長、大学部強化・指導普及委員長、徳島県大学バレーボール連盟会長として四国地域における選手強化指導を担当した。また、大学バレーボール競技として、四国学連春・秋季リーグ戦大会を大会副会長として、徳島県大学選手権大会、秋季大会を大会会長として開催した。

個人情報

1. 氏名：金子 紗枝子
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学，認知心理学，学校心理学，保育心理学
2. 授業担当科目
前期 【学部】 幼児理解，教育心理学
【短期大学部】 保育内容（言葉）A，保育の心理学 I，教育心理学，教育相談（カウンセリングを含む）
後期 【学部】 幼児理解，教育心理学
【短期大学部】 保育の心理学 II，幼児理解
3. 直接に指導した学生：専門ゼミナール 4 名，卒業論文指導 4 名，子どもの学び支援センターでの指導 23 名，チューター担当 22 名（専門ゼミナールおよび卒論指導担当学生を含む）。
4. 自己評価
これまでの授業内容をふまえながら，本年度も学生に参加を促す課題やグループワークを実施した。説明内容や使用した資料についての授業評価アンケートの結果はおおむね好意的であったことから，内容は改善しながらも授業の方針はこのまま継続していきたいと考えている。

研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学，教育心理学，学校心理学。特に認知心理学の知見を踏まえた学習方法について研究している。また学習に困難を抱える子どもへの支援活動の実施や，その活動が支援実施者へ及ぼす影響についても検討している。
2. 研究課題及び概要
① 「テストに取り組むこと」が学習を促進するという現象について，学習者の能動的な情報処理（検索）の観点から，そのメカニズムの解明と教育活動への利用について研究している。
② 認知カウンセリング（認知心理学の知見をふまえた学習支援活動）について，支援者として参加する大学生の教職意識や力量の形成に及ぼす影響を検討している。
3. 令和元年度分研究業績一覧
【論文】
① 田中紗枝子 学位論文「誤情報の検索が正情報の学習を促進するメカニズム—検索する情報量とその処理の観点からの検討—」 広島大学
② Iwakiri, N., Tomisawa, M., Suzumori, R., Kikuchi, A., Takahashi, I., Tanaka, S., & Yamamoto, S. (2020). Is perceiving another's error detrimental to learning from corrective feedback? *Cogent Psychology*, 7: 1717052
【学会発表】
① 田中紗枝子・岩木信喜・櫻庭裕晃・石川高揮・柿沼岬・山本奨 テスト効果はワーキングメモリ容量とは関係なく現れる 日本認知心理学会第 17 回大会 2019 年 6 月 京都女子大学（ポスター発表）
② 岡直樹・田中紗枝子 大学の相談室における学習支援に関する研究（1） 日本教育心理学会第 61 回大会 2019 年 9 月 日本大学（ポスター発表）
③ 田中紗枝子・岡直樹 大学の相談室における学習支援に関する研究（2） 日本教育心理学会第 61 回大会 2019 年 9 月 日本大学（ポスター発表）

- ④ 金子紗枝子・岡直樹 認知カウンセリングへの参加が教職志望大学生に及ぼす影響 日本学校心理学会第21回千葉大会 2019年12月 聖徳大学(ポスター発表)
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和元年度分科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況
- ① 科研費(若手研究)「主体的な学習はなぜ効果的なのか―誤検索効果を用いた検討」研究代表者
6. 自己評価
- 研究課題①について、本年度はこれまでの成果をまとめて博士論文を執筆し、学位を取得した。この内容をさらに発展させた研究について科研費を取得し、現在実験を実施中である。これらの研究成果について、来年度は学会や論文で積極的に発表していきたいと考えている。研究課題②については、昨年度開始したきらきらルームの活動を継続して実施している。参加している大学生、小学生ともに人数も増え、徐々に軌道に乗り始めたと考えている。来年度は、本年度以上に活動の成果を発表していきたい。

大学内運営

活動報告

児童学科3年生担任，1-4年生チューター，学科内宿泊セミナー担当，学科内子ども学び支援センター「きらきらルーム」支援員

社会貢献

地域社会等への貢献

日本生理心理学会編集委員会 事務局担当，徳島県社会福祉審議会 委員

個人情報

1. 氏名：那住 公子
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：英語科・英語科指導法
2. 学部授業担当科目
前期：英語 A①（薬学 1 年、児童 1 年）、児童英語活動、
後期：英語 A②（薬学 1 年、児童 1 年）、児童英語活動指導法、小学校英語、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：5 名（専門ゼミナール）
4. 自己評価

授業の最後に「振り返りシート」の記入と提出をおこなわせ、書かれた質問には丁寧に答え、必要に応じてパワーポイントにまとめ、スクリーンで全体に説明した。「振り返りシート」は個々の学生の声を拾い以後の授業に活かすことができるし、また学生理解にもつながるので、今後も続けていきたい。

授業においては、ワークシートやプレゼンテーションを準備して、わかりやすい授業を目指した。また、一方的な講義中心の授業にならないように、ペア活動・グループ活動や実技など、授業に変化を持たせるとともに、インタラクションを通して学生の反応を見ながら、学生が積極的に授業に参加できるように心がけた。

「コミュニケーションのための英語」の重要性を学生にも理解してもらうため、すべての英語の教科において、実技テストを実施した。薬学部の英語 A では期末テストにリスニングを含め、また実技テストとして音読テストを行い、英語の発音、区切り、イントネーションについて評価した。児童学科の英語 A においては、前期は英語特有の発音の仕方を理解し、実際にできるかどうかをみるための発音テスト、後期は声の大きさを重視した音読テストを行った。小学校英語と児童活動指導法においては、小学校教員になった時に備え、Show and Tell を実技テストとして実施し、声の大きさ、アイコンタクト、わかりやすさなどを評価した。

それぞれの学部や学科で必要な英語は何かを考えて授業を計画するため、教材研究や授業準備に膨大な時間がかかるが、大切なことなので今後も続けていきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：英語教育、フォニックス、リフレクティブ・プラクティス
2. 研究課題及び概要

①「リフレクティブ・プラクティス」

中学校英語教員時代からずっと「振り返りシート」を使用してきたが、そのことについて研究するという事はなかった。授業の振り返りが研究分野としてあることを知り、現在、大学の授業で実践してる「振り返りシート」がよりよいものとなるように研究をしていきたいと考えている。

②「小学校教員のための英語」

これまでずっと中学校英語教育に関わってきたため、小学校英語に関しては多くの研修を必要としているのが実情である。小学校教員を養成する児童学科の英語科担当者として、どのようなことが必要か研究していきたい。そのために県内

外で開催されている研究大会に参加して、見識を深めている。

3. 平成31年度分 研究業績一覧
論文・著書：特になし
学会発表：特になし
4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし
5. 平成31年度分科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし

6. 自己評価

正課の授業研究やその授業準備に長時間必要であり、また、正課外の講座や、担任・チューターとして学生の指導等にも多くの時間と労力を費やすため、じっくりと研究に取り組むことが困難な状況にある。ただ学会や研究会などに積極的に参加し、小学校英語について、理解を深めることはできた。今後は研究の時間を確保し、継続して研修や研究に励み、形あるものを創りあげていきたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告

- ① 人間生活学部インターンシップ推進委員
- ② 児童学科4年Cクラス担任
- ③ 1年チューター10名、3年チューター5名、
- ④ 児童学科オープンキャンパス・宿泊セミナー担当
- ⑤ 全学共通教育センターの学習支援アドバイザー
- ⑥ 小学校採用試験対策へのサポート
- ⑦ 徳島文理大学主催英語暗誦コンテスト審査員

社会貢献

1. 学会等への貢献

- 鳴門教育大学英語教育学会会員
- 四国英語教育学会会員
- 全国英語教育学会会員

2. 地域社会への貢献

- 阿南市中学校英語弁論大会審査員

第4節 メディアデザイン学科

個人情報

1. 氏名：篠原 靖典
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 総合領域 情報学 知能情報処理
2. 学部授業担当科目
前期
メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、Webプログラミング入門
情報システム演習Ⅰ、プログラミング入門、卒業研究

後期
情報セキュリティ論、専門ゼミナールⅡ、Webプログラミング応用
情報システム演習Ⅱ、プログラミング応用、応用データベース、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒業論文 (2)名
4. 自己評価：
 - ・Web 教材やパワーポイント等の資料や教材を用意し、内容の理解度を伸ばすように工夫した点が評価される。
 - ・専門ゼミナールⅠ，Ⅱにおいて、徳島県の人権啓発動画募集事業に、3年生が専門ゼミで作成した次の2作品が最優秀賞と優秀賞をそれぞれ受賞した。
 - ・「デジタルコンテンツ人材育成セミナー」を開催し、最新の情報に触れる機会を設けた。

研究領域

1. 専門研究領域：
総合領域 情報学 知能情報処理
2. 研究課題及び概要
「ニューラルネットワークを用いた画像の領域分割に関する研究」
「電子書籍開発」 「インターネットを利用したインタラクティブ学習」
3. 令和元年度分 研究業績一覧
日本保育学会 研究発表論文投稿中
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
5. 自己評価
 - ・行政との連携による地域再生・活性化事業において、一定の役割を果たすことができた。

大学内運営

1. 活動報告：

- ・メディアデザイン学科長
- ・大学院生活環境情報学専攻 専攻主任
- ・教務委員会委員
- ・教員養成対策委員会委員
- ・情報センター副所長
- ・防火・防災管理委員
- ・地域連携センター運営協議会委員
- ・1年生～4年生チューター
- ・本学入試監督・面接
- ・大学入試センター試験監督

社会貢献

1. 地域社会への貢献

- ・e-とくしま推進財団 評議員
- ・徳島県西部地域政策総合会議 副会長
- ・徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会委員
- ・とくしまOSS普及協議会 幹事
- ・大学と高等学校との連携事業・教育情報作業部会委員
- ・南部津波減災対策推進会議委員
- ・徳島県警察との連携事業「ネットウォッチャー」事業実施
- ・徳島県警察との連携事業「情報発信ウォッチャー」事業実施
- ・とくしま産業振興機構との連携による
「デジタルコンテンツ人材育成セミナー」開催

個人情報

1. 氏名：古本 奈奈代
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会調査・統計解析 プレゼンテーション論
2. 学部授業担当科目：
前期：メディアデザイン通論，プレゼンテーション技法，社会調査論，社会調査研究Ⅰ，
専門ゼミナールⅠ，卒業研究
後期：生活と情報B，社会調査研究Ⅱ，プレゼンテーション演習，プレゼンテーション論，
専門ゼミナールⅡ，卒業研究，看護研究Ⅱ（看護学研究科）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（1）名
4. 自己評価：
 - ① 講義全般においてスライド教材作成、補助教材プリントの作成により学生の理解を助けるように努め、授業評価アンケートにおいて成果が確認された。
 - ② 社会調査士資格認定校として社会調査関係の認定科目を指導し、特に「社会調査研究Ⅱ」においては少人数グループによるフィールドワークを実施し、報告書をまとめることにより資格取得希望者全員が資格を取得することができた。
 - ③ 学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加した。課題発見型授業を実践することができたと同時に、その実績は高い評価を得た。

研究領域

1. 専門研究領域：数学 数学一般（確率論・統計数学）
2. 研究課題及び概要：
 - ① ランダムデータの統計的処理とその応用に関する研究
 - ② 教育従事者における自己評価とその再教育に関する研究
3. 令和元年度分 研究業績一覧：
学会発表
 - ① 保育書に基づく乳幼児の音楽表現の姿について-3歳未満児の場合-，日本保育学会第72回大会，2019年5月
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
 - ① 徳島県南部県民局(事業費)対象事業「地域がキャンパス」推進事業：300,000円
5. 自己評価：
 - ① 調査分析の専門家を認定する社会調査士資格取得者を6名輩出することができた。
 - ② 調査分析に関する専門的知識を用いて他学部他学科の研究をサポートした。
 - ③ 徳島県が推進する地域再生事業に対する大学の役割を遂行することができた。

大学内運営

1. 活動報告：
 - ① 人間生活学部教員養成対策委員会委員
 - ② 本学入学試験・大学入試センター試験
 - ③ オープンキャンパス
 - ④ 担任・チューター

社会貢献

1. 地域社会への貢献:

- ① e-とくしま推進会議委員
- ② 徳島県職業能力開発審議会委員
- ③ 徳島県総合計画審議会委員
- ④ 徳島県環境審議会委員
- ⑤ とくしま障がい者雇用促進県民会議委員
- ⑥ 徳島県科学技術県民会議委員
- ⑦ 徳島県新事業分野開拓者認定審査委員
- ⑧ 徳島県有料産業廃棄物処理業者認定委員会委員

個人情報

1. 氏名：清澄 良策
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 総合領域 情報学 知能情報処理
2. 学部授業担当科目
前期：メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、情報データベース、情報処理、情報通信ネットワーク論、プログラミング論B、オペレーションズリサーチ、情報システム論A、卒業研究
後期：情報システム論、専門ゼミナールⅡ、コンピュータネットワーク論、プログラミング論A、コンピュータネットワーク演習、情報数学、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒業論文 (2) 名
4. 自己評価：
 - ・専門ゼミナールⅠ，Ⅱにおいて、徳島県南部総合県民局他と「県南地域づくりキャンパス」推進事業を実施した。備長炭の炭焼き体験や交流を行い、この体験をもとに、地域の活性化案を考えた。
 - ・卒業研究や専門ゼミナール等で使用する機器・ソフトのメンテナンスを行った。（経年劣化や機材の移動などによるコンピュータの故障が多発し、修理に多くの時間を要した。

研究領域

1. 専門研究領域：
総合領域 情報学 生活情報技術
2. 研究課題及び概要
「教育情報コンテンツ構築とその活用システムの研究」 「電子書籍開発」
「情報コンテンツ構築とその構築技術の研究」 「インターネットを利用したインタラクティブ学習」
3. 令和元年度分 研究業績一覧
論文
学会発表
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
5. 自己評価
 - ・インターネットを利用したピアノレッスンのインタラクティブ学習方法を開発し試験運用を行うことで、その実行可能性を検証した。

大学内運営

1. 活動報告：
教育研究委員会、1年生担任&チューター、本学入試監督・面接

社会貢献

個人情報

1. 氏名：山城 新吾
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域

総合領域 科学教育・教育工学 教育工学
総合領域 情報学 情報学基礎 メディア情報学

2. 学部授業担当科目

前期： インストラクショナルデザイン インストラクショナルデザイン演習 コンピュータグラフィックス論Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メディア基礎論 メディア制作論 専門ゼミナールⅠ メディアデザイン通論 卒業研究
後期：メディア基礎演習 メディア教育演習 メディア教育論 専門ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールB 情報科学 卒業研究

3. 直接に研究指導した学部学生

卒業論文（3）名、大学院修士（0）名

4. 自己評価：

全授業で視聴覚教材の提供や学生による課題遂行・レポート提出・プレゼンテーションを推進した。その他、「メディア基礎演習」でチームティーチング実施、「インストラクショナルデザイン演習」で学生によるeラーニング教材制作と実践を行った。

研究領域

1. 専門研究領域

総合領域 科学教育・教育工学 教育工学
複合領域・社会・安全システム科学・社会システム工学・安全システム

2. 研究課題及び概要

「課題」防災教育・啓発プログラム・教材の開発

学校等における災害対応・教育再開における課題

「概要」東日本大震災の発生前より、近い将来発生が予想される南海トラフ巨大地震に備え、防災や津波に対する対策の必要性を訴える教材開発や各種教育活動を実施してきた。令和元年度は保育所における災害対応と保育再開について、平成30年西日本豪雨や令和元年台風19号の被災地で調査を実施した。

3 令和元年度分 研究業績一覧

論文・著書

・河川技術論文集第26巻 投稿中

学会発表

(なし)

知的財産権の出願・取得状況

(なし)

平成30年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

(なし)

自己評価：

平成 29 度から継続中の防災教育系の分野で、今年度は令和元年台風 19 号や平成 30 年西日本豪雨災害に関する調査を実施した。現在学会発表の準備を進めている。

大学内運営

活動報告

- ・人間生活学部 防災対策検討委員会 委員長
- ・人間生活学部 自己点検・自己評価委員会 委員
- ・人間生活学部メディアデザイン学科 3 年生担任・チューター

社会貢献

- ・教員免許状更新講習「マルチメディアに関する講習」講習担当
- ・株式会社ツクイ徳島田宮営業所職員研修 「非常災害時対応」令和元年 6 月 17 日
- ・徳島県立城ノ内中学校出張講義「防災について考えてみよう」令和元年 10 月 29 日
- ・徳島市方上保育所出張講義「防災について考えてみよう」令和 2 年 2 月 4 日
- ・徳島文理大学 徳島災害避難サポート研究会 設立メンバー 令和元年 12 月 25 日

個人情報

1. 氏名：長濱太造
2. 職位：助教

教育領域

1. 教育の担当専門領域：統計科学，マルチメディア
2. 学部授業担当科目
前期：メディアデザイン通論，コンピュータ概論，情報処理論，生活と情報A，
情報処理，専門ゼミナールⅠ
後期：応用統計学，社会調査法，コンピュータ基礎演習，コンピュータグラフィ
ックス演習Ⅰ，CGアニメーション，専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（3）名、大学院修士（0）名
4. 自己評価：
 - ・全ての授業で、PowerPoint やE x c e l、テキストファイルで指導案を配布し、受講者の理解がより深まるように工夫している。
 - ・学習内容が定着するよう、授業のひとまとまり毎にレポート提出や小テストを実施している。
 - ・コンピュータグラフィックス系の授業では、コンテストを開催し、受講者のモチベーションが向上するよう工夫している。
 - ・社会調査法で反転授業を導入し、手応えを感じた。

研究領域

1. 専門研究領域：統計科学，マルチメディア
2. 研究課題及び概要：
 1. 徳島市における特別支援教育推進調査のテキストマイニングによる分析
 2. 鳴門市 福祉に関するアンケート調査のテキストマイニングによる分析
 3. コンテンツ工学を活用した地域コンテンツに関する研究
3. 令和元年度分 研究業績一覧：
学会発表
「反転学習を活用した授業実践とその効果 ―大学生への「養護概説」の授業を通して―」2019. 12. 01，日本学校保健学会第 66 回学術集会，国立オリンピック記念青少年総合センター，（貴志知恵子，竹内理恵，長濱太造）
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価：
 - ・徳島市における特別支援教育推進調査及び、鳴門市における福祉に関するアンケート調査について、テキストマイニングを用いた分析を進めている。次年度には研究業績として出せるよう進めていく。
 - ・コンテンツ工学を活用し、徳島県からの依頼でコンテンツ系の選定委員、また徳

島県高校放送コンテストの審査員という実践を展開した。

大学内運営

1. アカンサス会本部役員
2. アカンサス会徳島県支部役員
3. アカンサス会高知県支部立ち上げ委員
4. 宿泊セミナー運営委員
5. 人間生活学部就職支援委員
6. 人間生活学部広報担当委員
7. 人間生活学部学生指導委員
8. 人間生活学部遍路ウォーク委員
9. オープンキャンパス 模擬授業講師 2 回担当
10. 平成 28 年度入学生担任, 平成 29~令和元年度入学生チューター
11. 入学試験 監督・面接

社会貢献

1. 「楽しく!」「お得に!」健康ポイント事業業務委託事業者選定委員 (徳島県保健福祉部)
2. 第 54 回徳島県高校放送コンテスト審査員 (徳島県高等学校文化連盟)
3. 教員免許状更新講習「マルチメディアに関する講習」 講習担当
4. 阿波の狸 奉賛会世話人
5. 第 4 2 回阿波の狸まつり (ふるさとカーニバル実行委主催) において、紙芝居「阿波の狸合戦」の上演および、徳島文理大学名誉教授の飯原一夫先生の作品「追憶の昭和徳島」の映像作品を上映。
6. 第 4 2 回阿波の狸まつり (ふるさとカーニバル実行委主催) において、飯原先生原作の豆狸の豆本「阿波豆狸図会」(あわまめだずえ) を 600 部制作し、紙芝居鑑賞者に配布
7. 徳島県立図書館からの要望で豆本「阿波豆狸図会」を寄贈

第5節 建築デザイン学科

個人情報

1. 氏名：森田 孝夫
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築計画学、都市計画学
2. 学部授業担当科目
前期：建築計画論、都市計画論、住宅政策論、生活施設計画、住宅設計製図Ⅱ
後期：住居学、景観論、人間工学、インテリアデザイン基礎、専門ゼミナール
3. 大学院授業担当科目 後期 住居環境学特論
4. 直接に研究指導した学部学生、大学院生：
卒業設計（2）名 修士論文（0）名
5. 自己評価：
＜専門科目・基礎分野＞
担当授業科目は、住居学（1年）、都市計画論（3年）、生活施設計画・住宅政策論・景観論（4年）である。これらの授業科目は専門書を読む必要があるが、興味深いテーマの新聞記事を読ませ、読書機会を増やすように努めている。
＜専門科目・設計分野＞
担当授業科目は、建築計画論・住宅設計製図Ⅱ・インテリアデザイン基礎（2年）、人間工学（3年）である。講義で習ったことを設計製図のテーマの中にとりこみ、講義と設計をリンクさせて、学修効率をあげるように工夫している。しかし学生の中には製図力が不足することがあり、製図力を向上させることが課題である。
人間工学は、人間—機械—環境系の理論的枠組みでデザインをとらえる授業で、前半は椅子やベッドなどのエルゴノミクス、後半は人間—機械—環境系のヒューマン・エンジニアリングの視点から進めている。人間工学の進歩は速く、ロボットやAIを加えて語らなければならない。
インテリアデザイン基礎では、課題のひとつとして地域公共図書館のインテリア設計を課した。内部空間だけでなく建物全体もモデル化するようにして、総合的な建築設計になるように考えている。本学にある優れた図書館を生きた教材として活用して、インテリアのスケッチなどをさせている。

研究領域

1. 専門研究領域： 建築計画、都市計画
2. 研究課題及び概要
研究課題：フランスの文化の家とル・コルビュジエ
研究概要：1965年に死去した建築家ル・コルビュジエは、1960年代インド・チャンディガールの州都の建設に没頭したが、フランス中西部のフィルミニ市における都市計画と建築設計も忘れてはならない。ル・コルビュジエの建物を世界遺産に登録する運動が始まると、ル・コルビュジエの再研究が次々に出版され、その中にフィルミニ市に関する出版もある。2019年度は、それらの翻訳作業を続けた

が、学術論文をまとめるに至らなかった。

一方、1995年阪神淡路大震災から始めている避難所計画の研究も続けており、今年度は台風や豪雨における避難行動、とくに自動車が唯一の避難手段になっている問題に関する新聞記事の収集を進めた。近年の地震災害では、車中泊が健康被害を与えるものと問題になっているが、台風や豪雨では、車中泊は話題にならず、水没した車中に閉じ込められて死亡することが問題になっている。またライフラインの電気の途絶も大きな問題となっている。これらの災害がもたらす諸問題の関係をさぐり、構造化することが必要であると考えている。

3. 令和元年度分 研究業績一覧

なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

なし

6. 自己評価

建築学会活動は、日本建築学会地域施設計画シンポジウムに出席して研究情報を収集するに終わった。

大学内運営

- 1) 人間生活学部長
- 2) 大学院人間生活学研究科長
- 3) 大学院人間生活学研究科人間生活学専攻主任
- 4) 全学入試委員会委員長など

社会貢献

1. 学会等への貢献：

- 1) 日本建築学会会員（学会論文の査読に協力した。）
- 2) 国画会絵画部会員（国立新美術館において作品審査と作品陳列に参加した。）

2. 文化活動

- 1) 弘誓寺抽象画展（滋賀県東近江市五個荘町、9月22日～9月29日）

近江商人発祥の五個荘町の町おこしのイベントに参加して展覧会を行い、企画から出品までを行った。

個人情報

- 1 氏名：森岡 英之
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：住宅施工、住宅構造Ⅰ、住宅構造Ⅱ、図学、住宅材料学Ⅰ、住宅材料学Ⅱ、住居安全論、住宅管理、専門ゼミナール
- 2 学部教授担当科目
前期：文理学・・・1年生
図学・・・1年生
住宅構造学Ⅱ・・・2年生
住宅施工・・・3年生
住宅材料学Ⅱ・・・4年生
後期：住宅構造学Ⅰ・・・1年生
住居安全論・・・3年生
住宅材料学Ⅰ・・・3年生
専門ゼミナール・・・3年生
住宅管理・・・4年生
- 3 直接に研究指導した学生
・徳島県建築士事務所協会主催による「建築作品発表会」出展の4年生1名を指導、及びコンペーション出品の2年生2名の指導を行った。
- 4 自己評価
・「施工」は、特に建築専門用語を理解させることと、工（構）法やモノの組合せ、また仕組みを学ぶために、映像や見本（サンプル）による指導に時間を投じた。そのほか例年通り、要点に絞った内容のミニテストに力を注ぎより具体的な学習により理解度を高めた。
また、3年生全員を対象に「藍住文化ホール」の建設工事現場に見学に出向き、まもなく卒業して社会に出ることで、建設産業への魅力や関心をより深める授業の一環として実施した。
また、施工学に伴う建築士及び建築施工管理技士の演習問題（答練）を実施した。
・「図学」は、三次元のモノを二次元に表現する作図法に要点をしばり、実践的な課題を実施することにより理解度を高めた。
・「材料学Ⅰ」は、建物を建てるための仮設、土工、躯体から仕上げに至るまでのすべてに用いる主要な材料の映像や見本（サンプル）など個々の使い方、また重要な点を要点的に指導した。
実験はコンクリートの材料実験として、骨材のふるい試験から圧縮強度試験までを実践に合わせた形で、専門技術者を招聘しより詳しく実施した。
・「材料学Ⅱ」は、材料の持つ力学的性質を理解させるための簡単なコンクリートのひずみ実験を実施した。座学においては様々な建築材料の物理的性質を知るために、内力（内部に働く応力）と、外力（建築構造物の外から働く各種の力など）などの違いを、図解を用い理解し判断できるようにした。
また、材料学の建築士及び建築施工管理技士に伴う演習問題（答練）を実施した。
・「構造学Ⅰ・Ⅱ」は、構造部材（骨組）の構成や関連付け（納まり）の理解、各種構造の性能が理解できるような映像、そのほかサンプルなどを用いて理解度を高めた。また、要点を絞った内容のミニテストや現場作業の動画による勉強などで、より理解度を高めた。
更には、構造学の建築士及び建築施工管理技士に伴う演習問題（答練）を実施した。
・「安全論」は、特に「建物の火災について」を要点に絞り指導をした。
・「住宅管理」は、長寿化が進み、且つ高度な文明が発達した現代、住環境も急激に変化し、それに伴う住宅管理も専門的になってきており、一個人では解決できない状況になってきた昨今である。従って授業は一個人で処理・調整などに手の届

くメンテナンスや、集合住宅の管理、居住地の管理に重点をおいた内容として理解を求めるようにした。

研究領域

- 1 専門研究領域：特になし
- 2 研究課題及び概要：特になし

大学内運営

- 1 活動報告
 - ・学部 教務委員会
 - ・学務 就職支援委員会
 - ・教員養成対策委員会
 - ・全学入試委員会
 - ・各種入試による合格者協議会
 - ・学科長
 - ・チューター

社会貢献

- 1 地域社会への貢献
 - ・令和元年 10 月 9 日は建築デザイン学科「建築士ガイダンス、キャリアデザイン」の実施。
2. 徳島県建築士会主催の「建築おもしろ」発表会
 - ・令和元年 11 月 9 日、4 年生 2 組 3 名の作品制作発表会と、建材の展示に触れた。
3. 令和元年 11 月 13 日徳島県吉野川市の「吉野川市アリーナ・交流センター（仮称）建設工事」と「鴨島病院改築工事」の学習に 3 年生を引率した。

個人情報

1. 氏名：山田 實
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 建築環境学、建築設備
2. 学部授業担当科目
前期：家庭電気・機械 1年生、食物栄養1年生、人間生活2～4年生
福祉住環境論 2年生
住生活環境学Ⅱ 3年生
住宅設備Ⅰ 1年生
環境保全論 4年生
文理学 1年生
後期：住居環境学 3年生
住生活環境学Ⅰ 2年生
住宅設備Ⅱ 3年生
専門ゼミナール 3年生
住居衛生学 食物栄養2年生、メディア4年生
文理学 1年生
3. 直接に研究指導した学部学生：
卒業論文（0）名
4. 自己評価：
 - ・建築計画をする上で、建物の性能を大きく左右する環境・設備について実務に基づいた知識・技術を指導教育した。
 - ・「福祉住環境論」では、今後増加すると考えられる老健施設等の計画を行う時の基本的な事項について実施例を示して教育し、福祉住環境コーディネーター2級検定試験の受験を勧めた。
 - ・「住生活環境学Ⅰ」と「住生活環境学Ⅱ」では、住居環境の基本的な項目である温熱・空気・光・音・水等について2年生の「住生活環境学Ⅰ」では全般概論を講義し、3年生の「住生活環境学Ⅱ」演習問題を主体に学生が自から考えて学べるような授業とした。
 - ・「住居環境学」では実施例等を紹介し、人間の生理と関連付けた講義を行うことにより学生の理解度をより深めるようにした。
 - ・「住居衛生学」では受講生が少人数であったので対話形式で学生が建築環境の基本的な事項を理解するように講義した。また、建物冷暖房負荷計算、騒音計算等を随時演習として組み入れて学生の理解度を高めるようにした。
 - ・「住宅設備Ⅰ、Ⅱ」では、実務経験での不具合事例を交えて講義することにより、より興味を深めるようにした。特に建築計画をするうえで建築と設備とのかかわりを重点的に講義した。「住宅設備Ⅱ」では冒頭に学生に空調に関しての不満を公表させ後の授業で具体的な解決策を考えさせ講義した。
 - ・「環境保全論」ではアクティブラーニングを導入し、学生が環境に関して問題と考えていることを発表させ、各々の課題の具体的な解決策を考えさせた。

研究領域

1. 専門研究領域： 建築環境学、建築設備
2. 研究課題及び概要
研究課題： 建物における最適エネルギーシステムの研究
研究概要：
地球温暖化、省エネルギー、環境問題等、建物のエネルギーシステムをどう組み立てるかは大きな課題である。そこに原子力発電所の問題が起こり、再生可能エネルギーの活用をはじめ、日本のエネルギーを如何にするかは国家的な課題である。実務で経験した、蓄熱システム、コージェネレーションシステム等を有効に組み合わせて最適エネルギーシステムを構築する。
3. 令和元年度分研究業績としての論文等は無。
4. 知的財産権の出願は無。
5. 令和元年度分科学研究費補助金等は無。
6. 自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

大学内運営

1. 活動報告
 - ①オープンキャンパスでの学科説明、模擬授業
 - ②人間生活学部入学試験委員会委員
 - ③人間生活学部教育研究委員会委員長
 - ④入試監督
 - ⑤保護者会保護者面談（徳島、那覇、和歌山）
 - ⑥建築デザイン学科2年生担任（44名）

社会貢献

1. 学会等への貢献：
 - 1) 空気調和衛生工学会会員
 - 2) 建築設備技術者協会会員

個人情報

- 1 氏名：川村 恭平
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：
工学： 建築学 建築環境・設備 情報工学
家政学： 住居学
- 2 学部授業担当科目
前期：CAD演習Ⅰ、コンピュータ演習Ⅰ、住居意匠学
後期：住生活論（製図を含む）、日本建築史、CAD演習Ⅲ、専門ゼミナール
- 3 直接に研究指導した学部学生6名
- 4 自己評価
授業については紙媒体も含めIT機器の活用などに努めた、しかしながら授業者としてITの活用（特にPowerPoint）の使用した授業の工夫・改善の必要があると痛感した。
授業者は多くのデータ（通常の授業の3倍程度の情報量）に対して授業を受ける学生側の準備ができていないことがある、結果として流れた授業になった。

研究領域

- 1 専門研究領域：
工学 建築学 建築環境・設備
家政学 住居学
- 2 研究課題及び概要：
日本の住居形式と熱環境（伝統的な住まい方）についての研究
3Dプリンタの活用による建築模型の製作方法の研究
ドローン（無人航空機）による建築分野での活用方法の研究
- 3 平成31年度分 研究業績一覧
- 4 平成31年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
- 5 自己評価
研究については、本学25号館の東側全面ガラス窓の熱環境、特に日射について実測調査を行い熱環境の分析と対応策の検討をおこなった。
また、本学で実施している避難訓練を学生の側からみた自主避難マニュアルを作成し、卒業論文の資料とした。
25年度徳島県立光慶図書館の3D復元（徳島県立文書館）および村崎女子職業校の3D復元と卒業論文の指導
26年度は千秋閣3D復元と卒業論文の指導
27年度はフランクロイドライトの落水荘の再現に関する卒業論文の指導
28年度は3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する卒業論文の指導
29年度徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
30年度は3Dプリンタによる建築模型の製作及び間取り作成用のパーツを試作し、住宅会社における試用を開始している。また、高等学校家庭科の住居分野における間取り作成ツールを製作し、実際の高等学校の授業で使用している。
また、卒業研究で展示用の大学全景模型（1/300）の2号館を作成した。
31年度は特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで、建築会社、住宅会社、

設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。

大学内運営

- 1 活動報告
人間生活学部教員養成推進委員
人間生活学部学生指導委員

社会貢献

- 1 学会等への貢献：
日本環境学会（大阪市立大学）
- 2 地域社会への貢献：
 - 1 9年度徳島県のLOHASな徳島入門講座でecoな生活、ecoな住まいのテーマで講演
 - 2 0年度徳島県緑化マイスター講習会で講演
 - 2 1年度徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
 - 2 2年度徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
 - 2 3年度 Yes 2 1においてボランティアによる住宅間取り相談
 - 2 4年度とくしまエコみらいハウスの評価助言指導
 - 2 4年度徳島県立光慶図書館の3D復元 作業(徳島県立文書館)
 - 2 5年度徳島県立光慶図書館の3D復元 徳島県立文書館および村崎女子職業校の3D復元の完了
 - 2 6年度 千秋閣の3D復元の完了および徳島県との地域連携として高開の石積みの擁壁の測量を行った。
 - 2 7年度 徳島県との地域連携の2年目として高開の石積みの擁壁の測量を行った。この際ドローンの積極的な活用を行った。
 - 2 8年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する指導、さらにドローンの建築現場における活用を行った。
 - 2 9年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
 - 3 0年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において廃校となった種野小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
 - 3 1年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。

個人情報

1. 氏名：池田 文夫
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築関連法律、設計（意匠、構造）全般、コンピュータ（CAD）
2. 学部授業担当科目：
前期：住宅設計製図Ⅲ、建築法規、西洋建築史、CADⅡ
後期：住宅設計製図Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、専門ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生：
卒業論文（1）名、その他（ ）名
専攻科（ ）名、大学院修士（ ）名
4. 自己評価
6年目を迎えて授業で使用する資料は、かなり学生のレベルを考えながら自分なりに、充実できたと考える。学生によってかなり学習能力にバラつきがあり、全体的な学習バランスをとるのが難しいと感じている。実務的な、法的、設計的な知識を身に付けさせる授業を行うのが理想であると考えているが、全体的バランスの中で授業方法のあり方を模索している。

研究領域

1. 専門研究領域：建築関連法律全般
2. 研究課題及び概要
保有耐力法等による最新耐震設計技術の動向の研究

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文
特に無し
2. 学会発表
特に無し
3. 知的財産権の出願・取得状況
特に無し
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
特に無し

自己評価

建築学会などの関連する講習会に2回出席した。最新の情報を身につけるためにも今後はもって積極的に参加してあたらしい知識、技術を身につけるよう努力したい。

大学内運営

1) 活動報告

① 国家試験取得に向けての取り組み

1 学年希望者を対象として、宅地建物取引士セミナーを昨年 11 月から週 2 回のペースで行い、在学中に試験合格を目指す取り組みを行っている。

令和 2 年 1 月末現在 参加者数約 5 名

試験日 平成 2020 年 10 月中旬

② 広報担当として、広報活動、学科ホームページの更新等の広報活動を行った。

社会貢献

特に無し

個人情報

1. 氏名：笠井 敬正
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育担当専門領域：建築構造力学、建築計画
2. 学部授業担当科目
前期：構造力学Ⅱ、測量学、インテリア計画、文理学
後期：構造力学Ⅰ、住宅設計論、インテリアデザイン論、インテリアデザイン応用、住宅設計製図Ⅳ、専門ゼミナール、文理学
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文(1)名
4. 自己評価
「構造力学Ⅰ」については毎時間前回の復習をしながら進めていった。理系を不得意とする学生も多いが、本年度はレポートや試験の結果を見る限り大半の学生が基本は理解してくれたように思う。
「測量学」は、座学・外業・内業という一連の流れを通して知識としてだけでなく自分の経験として身につく授業である。理論と実習を交えた授業を行うことで、より学習の定着化が図れたと考える。
「インテリアデザイン応用」は本年度も前期に自分が設計した木造とRC造2種類の建物のパースそしてインテリアを含めた模型製作を課題としたが、学生は興味を持っていろいろ考えながら楽しく取り組んでくれた。
「住宅設計製図Ⅳ」では最後の設計製図として将来受験するであろう建築士試験を見越しての課題を設定し、図面そしてパースまたはイメージ図の提出を課した。学生たちにはその建築物についてしっかり調べさせることから始めた。例年と同じく、構造、法規、設備上の問題等わからないところもたくさんあり当初なかなか考えがまとまらなかったようだが、最後にはきちんと完成させることができたようである。
その他の実習等を伴わない授業特にインテリア系に関しては、映像で理解度を深め、レポート提出で復習の機会を設けた。
学生にとって授業第一と考え、いろいろな方法を模索しながら進めている。本年度の反省の上に立ち来年度の授業を考えたいと思う。

研究領域

1. 専門研究領域：建築計画
2. 研究課題及び概要
研究課題：地域の状況から見る古民家の特徴についての調査に関する研究
研究概要：家の様相は過去から現在そして未来へと大きく変化していく。その変化の様子はかつてその地域に根ざした人々の生活の上にならって起こりうるものと考えられる。私達のまわりの地域の歴史や特徴、そしてそこに住む人々の生活の状況並びにそこに現存するまたは過去に存在した古民家の特徴を調査・研究していく。
3. 平成31年度分 研究業績一覧（なし）
4. 知的財産権の出願・取得状況：（なし）
5. 平成30年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：（なし）
6. 自己評価
研究についてはあまり成果を上げられなかった。

大学内運営

- 1 活動報告
 - ・ 建築デザイン学科 1 年担任
 - ・ 学部宿泊セミナー運営委員会委員
 - ・ 学部 FD 研究会委員

社会貢献

- 1 学会等への貢献（なし）
- 2 地域社会への貢献
 - (1) 「徳島県建築士事務所協会主催学生研究発表会」で発表する学生の指導を行った。
 - 日時：令和元年 11 月 9 日（土）14：00～16：00
 - 場所：徳島市シビックセンター

第6節 心理学科

個人情報

1. 氏名：青木 宏
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、犯罪心理学、学習心理学等）
2. 学部授業担当科目
前期：心理学概論、臨床心理学概論、心理学実験、学習・言語心理学、異常心理学
後期：生理心理学、教育相談、心理学研究法、ジェンダー論、ライフサイクル論、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文2名、修士論文1名
4. 自己評価：学生の興味を引き、知的好奇心を刺激するために、映像や動画をふんだんに盛り込んだ自作のプレゼンテーションを使用した。また、テーマによっては、グループディスカッションや模擬面接、PGR 測定器を用いた実習なども実施し、主体的な取り組みを促した。加えて、本年度は犯罪被害者の遺族や、ストーカー対策に取り組む警察官などをゲストスピーカーとして招き、より印象に残る、具体的、実践的な講義の実現に努めた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要
「若者のストーカー被害実態調査」
徳島県警察本部との共同研究である。3年計画の2年目にあたり、ストーカー加害者及び被害者の面接調査、3年目に実施予定の大規模調査（第2回）の予備調査を実施した。ストーカーの被害実態を明らかにするとともに、加害者への治療教育の可能性を探る研究を目指しているところである。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文
若者のストーカー被害実態調査. 徳島文理大学研究紀要, 第99号. (印刷中)
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

自己評価

おおむね予定したスケジュールで研究を進めることができた。

大学内運営

- 1) 心理学科長
- 2) 教務委員会に所属し、科目ナンバリングの見直し、GPA の低い学生に対する個別指導の在り方の検討などを行った。
- 3) 心理学科各学年のチューターとして学生の個別指導に当たった他、チューターでない学生からの相談事にも応じた。
- 4) オープンキャンパスにおいて心理学科の学科説明を実施した。

5) 高校生の大学見学の際にミニ講座を実施した。

社会貢献

- 1) 板野郡中学校生徒指導研究会定例会に原則月 1 回アドバイザーとして参加し、事例について助言を行った。
- 2) 教員免許状更新講習で発達障害の少年に対する処遇についての講義を受け持った。(2019. 8)
- 3) 日本犯罪心理学会全国区理事(2018. 12～)

個人情報

1. 氏名： 岡林 春雄
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 認知心理学 学校心理学 認知—感情インタラクション
2. 学部授業担当科目

前期： 福祉心理学、心理統計学演習

後期： 専門ゼミナール、知覚・認知心理学、学校心理学、特別研究

大学院

前期： 特別研究、特別研究、臨床心理学研究法特論、
学校臨床心理学特論、心理実践実習Ⅱ

後期： 心の健康教育に関わる理論と実践、心理学特別演習、心理実践実習Ⅱ、
特別研究、特別研究

3. 直接に研究指導した学生： 卒業論文 2名、修士論文 1名

4. 自己評価：大学院の授業では、プレゼンテーションからディスカッションという院生主体の考える授業を目指しており、その成果は見えてきている。学部の授業でも、プレゼンテーション & ディスカッションを取り入れ、さらに、学校心理学の授業ではアクティブ・ラーニングを導入し、主体的に学ぶとはどういうことなのかを徹底させた。学生にとっては「他人ごとであった」人の心理を「自我関与する」関わる心理に変容させた。国家資格・公認心理師のカリキュラムの関係で新規登場した「福祉心理学」は、ふれあい健康館の協力、大学院に在籍するケアマネージャーの協力もあって、アウトリーチと呼ばれる地域での心理職が今後関わるであろう仕事に触れることができた。これまで、受け身的で、座っているだけという授業に慣れてきた学生にとっては脅威であったようであるが、やる気のある学生にとっては、アクティブな関りを要求する授業は好評であった。大学に入ったばかりの1年生に対する知覚・認知心理学の授業では、“アサイメント—プレゼンテーション—ディスカッション”のシークエンスから、論理展開に気を配った文章作成、ならびに、ポイントを他者に伝えることができるアサーションスキルを身につけることができた。今後とも、学生自ら思考する学生主体 (Student Centered) の教育への意識改革を行っていきたい。

研究領域

1. 専門研究領域： 認知心理学 認知科学 ダイナミカルシステム

2. 研究課題及び概要

- ・ 会話における意思疎通性を生体信号のリズムから解析
- ・ リアルタイムでの認知—感情インタラクションからマクロタイムのパーソナリティ形成への自己組織化作用
- ・ 「わかる」という心理作用は、般化によるものなのかカオス現象なのか

令和元年度分 研究業績一覧

1. 著作

単著 『知覚・認知心理学：その現在と将来展望』 金子書房 2019, 5. 30.

2. 学会発表

岡林春雄・丹羽時彦・鈴木平 『会話での生体信号リズム同期から「こころ」を考える：身体化とダイナミカルシステム アプローチ』 日本心理学会第83回大会 シンポジウム SS-041. (於 立命館大学いばらきキャンパス) 2019, 9. 12.

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし

自己評価

大学ならびに学会を通して、若手の研究者を育成している。
個々の学生の特徴である良さを伸ばそうとしている。

大学内運営

- 1) 大学院修士論文主査 3 件
- 2) 学部 3 年次主任
- 3) 広報担当委員会委員長
- 4) 心理相談室相談員
- 5) 公認心理師実習指導員

社会貢献

- 1) 日本心理学会ダイナミカルシステム研究部会代表
- 2) 帝京福祉専門学校 こころのしくみ 非常勤講師

個人情報

1. 氏名： 貴志 知恵子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教科教育学・保健
2. 学部授業担当科目
前期：事前・事後指導、養護概説、救急処置及び看護法Ⅰ、養護学特講、卒業研究
後期：救急処置及び看護法Ⅱ、教職実践演習、専門ゼミナール、健康相談活動、学校保健、卒業研究
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文7名、その他9名
4. 自己評価：卒業論文については将来、教職志望学生であり教育現場での研究活動に繋がる課題を選んだ学生が多かった。また、教育実習やボランティア活動等での子ども達との関わりや社会体験から幅広い学修を含めた内容となったが、ゼミ生の10名の内、7名が書き上げた。卒業論文が選択科目であるため途中で執筆を放棄する学生がいることが今後の学科やゼミの課題である。

研究領域

1. 専門研究領域：保健学習、健康相談
2. 研究課題及び概要
 - 効果的な保健学習について、将来、養護教諭を目指す学生への指導において、学校教育の中で、養護教諭の職務を遂行して行く中で子ども達に主体性や探求心をどのように培う方策について模索している。
 - 養護教諭のおこなう健康相談活動において、これまでのカウンセリング的対応に加えて、思考パターン、言語パターン、反応パターン等に気づき、やり方や行動を変えるコーチングのアプローチを取り入れることで生きる力の具現化をはかる方策を志向している。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし
2. 学会発表
「養護教諭志望学生の経験過程と自己肯定意識の変化 第3報—保健室ボランティア経験と自己評価の関連—」 第27回日本養護教諭教育学会
「反転授業を活用した事業実践とその効果—大学生への『養護概説』の授業を通して」
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

自己評価

研究では、反転授業を活用した事業実践とその効果について取り組んでいる。また、共同研究として倫理審査を経て、養護教諭志望学生の経験過程と自己肯定意識の変化—保健室ボランティアへの参加を通して—について継続研究を行っている。今後は、科学研究費補助獲得に向けて、研究をすすめたい。

大学内運営

- 1) 教職課程委員会委員
- 2) 教員養成推進委員会委員

- 3) 教員養成対策委員会委員
- 4) 人権教育推進委員会委員
- 5) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 6) 教員免許更新講習 講師
- 7) 学部：1・2・3・4年生チューター（ 37名）

社会貢献

1 学会等への貢献

- 1) 日本養護教諭養成大学協議会代表評議員
- 2) 日本学校保健学会代議員

2 地域社会への貢献

- 1) 救急救命指導員として救急救命講習活動に参加
- 2) 徳島県養護教諭初任者研修として学校での救急救命講習を実施
- 3) 徳島県養護教諭2年次研修として学校での授業力向上研修を実施
- 4) 地域連携センターとの共催で第5回「養護教諭のすすめる保健学習について」を実施

個人情報

- 1 氏名：小板 清文
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：犯罪心理学
- 2 学部授業担当科目
前期：犯罪心理学，心理検査法Ⅱ，心理学実験，文理学
後期：心理学特講，社会・集団・家族心理学Ⅰ，専門ゼミナール，心理学統計法，心理学A，卒論指導，コミュニティ心理学，文理学

大学院

- 前期：心理統計法特論
- 後期：修論指導
- 3 直接に研究指導した学生：卒業論文2名，修士論文1名
- 4 自己評価：
 - ・ 犯罪心理学では，矯正施設での勤務経験や法務総合研究所での研究経験を活かして，犯罪者や非行少年の実像を理解しやすいようにした。
 - ・ 心理学特講では，公務員試験，教員採用試験，企業の一般常識試験に向けて実践的な授業となるように工夫した。
 - ・ 心理学統計法では，エクセルの統計解析への理解・習熟が進むように，数多くの例題を実際に解きながら，丁寧な説明を繰り返した。
 - ・ 心理学Aでは，心理学を専攻科目としない学生が心理学の基本的な知識を習得できるよう，平易で印象に残りやすい授業になるように工夫した。

研究領域

- 1 専門研究領域：犯罪心理学
- 2 研究課題及び概要
卒業論文を指導：「青年期における愛着スタイル及び対人関係に関する研究について～金政祐司の愛着研究を中心にして～」 「遊びの回復と可能性～今の子どもたちに遊びをよみがえらせて回復させることは可能か～」
修士論文を指導：「質問紙法による大学生のメンタルヘルス調査～BDI-Ⅱ，UPI，SCSS，人生振り返りシートを用いての検討～」

令和元年度分研究業績一覧

① 論文

年齢犯罪曲線から見た非行と犯罪．徳島文理大学研究紀要，2019，第98号

② 学会発表

該当なし

③ 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

④ 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価

卒論の指導では、担当した学生の取り掛かりが非常に遅く、時間的な制約が大きかったが、何とか期限内までに提出することができた。

年齢犯罪曲線に関する研究に精力的に取り組み、徳島文理大学研究紀要に論文（総説）を投稿した。また、現在、査読論文2本の審査を受けている。

大学内運営

- 1) 学生指導委員会
- 2) 退学者防止対策検討委員会
- 3) 宿泊セミナー運営委員会

社会貢献

1 地域社会への貢献

- 1) 徳島学院安全管理委員会委員
- 2) 令和元年度徳島県児童自立支援専門員選考試験の試験委員
- 3) 徳島大学総合科学部非常勤講師（犯罪心理学の特別講義）

2 学会等への貢献

- 1) 日本犯罪心理学会編集委員
- 2) 講演「MJCA から見た少年鑑別所入所少年の再非行状況について」、2020年2月、法務省高松少年鑑別所

個人情報

1. 氏名：高橋 宏之
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床、教育、発達、産業分野）
2. 学部授業担当科目
前期：教育・学校心理学Ⅰ、教育心理学、児童心理学、心理学A、心理療法演習Ⅱ
後期：産業・組織心理学、人間発達学、臨床心理学、人間発達学、心理療法演習Ⅰ、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール
大学院授業担当科目
前期：犯罪心理学特論、臨床心理査定演習Ⅰ、臨床心理実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ
後期：臨床心理関連行政論、心理実践実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文 2名、その他 4名
4. 自己評価：毎講時、自己制作のプレゼンテーション用スライドを活用したほか、授業の重要事項に関する詳細な解説を盛り込んだ補助教材（プリント）を配付し、受講生の理解を深めさせた。また、授業終了前に当該講義内容に係る小レポートを受講生に作成させることにより、受講生の理解の程度を的確に把握するとともに、理解不足が認められた事項については次回授業で改めて説明し、その理解の定着を促した。その他、実習・演習においては、学習進度に遅れが生じた学生に対し、TAによる個別指導を並行して受けさせることにより、全体としての授業レベルを向上させることができた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要
「非行少年・犯罪者の資質的負因に関する事例研究」
非行や犯罪行動の発現には、その人の資質的負因、環境的負因及びそれらの相互作用が密接に関係すると考えられるところ、前職での経験（矯正施設被収容者の資質の鑑別調査）を踏まえ、目に見えにくい資質の問題を「適応能力」と「性格傾向」の両面から考究している。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

自己評価

法務省退官後、矯正施設被収容者のデータを収集することには制約が生じているものの、自らが所管する「徳島県非行臨床研究会」での活動を通じて、非行少年・犯罪者の資質的負因の検討作業を継続した。

大学内運営

- 1) 人間生活学部入学試験委員会委員を務め、心理学科の入試関連業務を分担した。
- 2) 心理学科 4年生 77名の担任業務（卒業研究に係る事務、日本心理学会認定心理士

に係る事務等を含む。)を処理したほか、心理学科各学年のチューターとして39名の学生の個別指導に当たった。

- 3) AO・推薦入試説明会及びオープンキャンパスにおいて心理学科の学科説明や模擬授業を実施した。(2019.4、2019.7)
- 4) 心理学科カリキュラム検討ワーキンググループの一員として、公認心理師資格に対応したカリキュラムの点検等に関与した。
- 5) 大学院生8名を引率し、少年鑑別所で施設実習を行った。(2019.11)
また、精神科病院における施設実習に関し、計6回の訪問指導を実施した。

社会貢献

- 1) 徳島県留置施設視察委員会委員に就任し、徳島板野警察署、鳴門警察署、那賀警察署、阿南警察署、牟岐警察署及び小松島警察署の各留置施設を視察し、その運営に関する意見を提出した。
- 2) 徳島県非行臨床研究会を所管し、毎月の定例会で関係機関の職員に専門的な知見や情報を提供した。
- 3) 徳島文理大学臨床心理相談室相談員として、一般市民に対する相談業務に従事したほか、臨床心理相談室紀要に寄稿した。
- 4) 教員免許状更新講習で非行犯罪理論についての講義を受け持った。(2019.8)
- 5) 徳島県警察学校において同校専科生を対象に「非行動向と犯罪理論」の題目で特別授業を行った。(2019.11)

個人情報

- 1 氏名：中津 達雄
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：臨床心理学 人格心理学
2. 学部授業担当科目
前期：家族心理学、青年心理学、人格・感情心理学、専門ゼミナール
大学院
前期：人格心理学特論、臨床心理実習Ⅰ
後期：投影法特論Ⅱ、臨床心理査定演習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、特別研究
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文4名、修士論文3名
4. 自己評価：各教科の準備時間には1コマにつき平均3時間程度をかけ、すべての科目においてレジメを作成し、理解度を高めることに配慮した。また授業については終了時に小レポートを実施し、学生の理解度を確認した。
心理学専攻主任（臨床心理相談室長）としての運営業務、特に公認心理師養成実習調整に追われ、学生指導に十分な時間をとれなかった。そのため、学生からの評価はやや低く、反省するところである。本年度は公認心理師受験資格取得新カリキュラムによる最初の修了生が生まれ、さらに新年度以降にはそれらの修了生に対し国家資格試験が開始されることから、教科、実習演習科目指導の充実に努めたい。

研究領域

1. 専門研究領域：社会科学・心理学・臨床心理学
2. 研究課題及び概要
 - ・心の問題理解、特に社会構成主義的な立場に立つてのナラティブ・アプローチ及びセラピー
 - ・描画法、特に樹木画テストのアセスメントとしての量的研究と、描画の持つ治療的側面検討のための質的研究

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文
「ナラティブ・セラピーにおける共同研究(as if)の試み」 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第19号 2019年
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

自己評価

学科、研究科運営業務に追われ、殆ど研究活動は行っていない。

大学内運営

- 1) 活動報告（委員会委員，担任等）
- 2) 研究科心理学専攻主任（臨床心理相談室長）
- 3) 入試委員会（全学）
- 4) 教務委員（学部）
- 5) 教員養成対策委員（学部）
- 6) 臨床心理相談室相談員（委嘱）

7) 全学共通教育センター支援アドバイザー（委嘱）

社会貢献

1. 学会等への貢献

1) 県臨床心理士会選挙管理委員（2014. 4. 1～）

2. 地域社会への貢献

1) 徳島県保健福祉部 社会福祉審議会委員（2011. 4. 1～）

2) 徳島県警察本部 少年サポート・アドバイザー（2011. 4. 1～）

3) 平成 27 年度教員免許状更新研修講師（2019. 8. 6、8. 26）

4) 日本 B B S 連盟徳島支部 徳島文理大学支部顧問（2009. 7. 1～）

個人情報

1. 氏名：藤崎 ちえ子
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床、発達、心理査定）
2. 学部授業担当科目
前期：心理療法演習Ⅱ、特別研究、心理療法、発達障害論、心理アセスメント法Ⅰ、卒論指導
後期：心理療法演習Ⅰ、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、パーソナリティ障害論、専門ゼミナール、卒論指導

大学院

- 前期：臨床心理面接特論Ⅰ、臨床心理実習Ⅰ、臨床心理実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
 - 後期：臨床心理学特論Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文3名、修士論文2名、その他1名
 4. 自己評価：年間28コマと担当科目が多く多忙であったが、楽しみながら読解・記述能力を高めるアクティブ・ラーニングなど工夫した授業ができた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、教育心理学、生理心理学
2. 研究課題及び概要
「内観マインドフルネス—愛恩法」
愛恩法臨床応用とその効果についての臨床心理学的・生理学的研究。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

- 1) Fujisaki, C. A pilot study of the effect of compassionate meditation by using GSR: Comparison between AEON-HO and mindfulness. Journal of Depression and Anxiety Forecast, 2(1), 1012 (2020.1) (査読付)
- 2) 藤崎ちえ子・藤沢直美 産後うつ病と愛着スタイルをはじめとする要因との関連について. 徳島文理大学研究紀要, 第98号 p.49-61. (2019.8)
- 3) 藤崎ちえ子 「いま・ここ」に生きること. 徳島文理大学臨床相談室紀要, 第19巻 (2019.12)

2. 学会発表

- 1) Fujisaki, C. A study evaluating mindfulness and Naikan based therapy: AEON-HO for attachment style, self-actualization, depression, and self-compassion & gratitude. International Conference on Clinical and Counseling Psychology 2019 (2019.8)
- 2) 藤崎ちえ子 内観的マインドフルネス - 愛恩法のセルフコンパッションへの効果. 日本心理臨床学会大会 (2019.6)

3. 学会等主催研修会出席

- 1) コンパッション・フォーカスト・セラピー講座参加 (2019.3)
- 2) ホロフラフィートーク・セラピー講座参加 (2019.10)
- 3) NCTSN Psychological First Aid (PFA) 研修会参加 (2019.10)

3. 知的財産権の出願・資格取得状況

- 1) 新国家資格 公認心理師取得 (2019.2)
- 2) ストレスチェック実施者資格取得 (2019.9)

4. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

2本申請中

自己評価：

論文執筆や学会発表、研修会参加などバランスよく研究活動を行った。過去4年で国内外雑誌の主著書の査読付論文を5本出すことができた。

大学内運営

- 1) FD委員会委員として会議出席、研究授業コーディネート、年報編集等
- 2) 自己点検・評価委員会委員
- 3) 大学院の入学試験の面接官・試験作り
- 4) 学部2年と修士1年の担任
- 5) 心理学科1～4年生の40名のチューター
- 6) 徳島文理大学臨床心理相談室相談員
- 7) 臨床心理相談室紀要への寄稿
- 8) オープンキャンパスでの学科説明
- 9) 福岡県・愛媛県保護者面接

社会貢献

- 1) 徳島県特別支援教育センターの専門家チーム員
- 2) 徳島文理大学臨床心理相談室相談員
- 3) 県教職員研修会の講師
- 4) 高知県の高校の出張講義
- 5) 徳島県職業能力開発審議会委員
- 6) Psychological Reports (U.S.A.)査

個人情報

1. 氏名：山崎 暁子
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：精神医学
2. 学部授業担当科目
前期：精神医学、精神病理学
後期：精神保健学
大学院
前期：精神医学特論 I（保健医療分野に関する理論と支援の展開 I）
後期：心身医学特論、心理実践実習
3. 直接に研究指導した学生：該当なし
4. 自己評価：心理実習で指導とコメントをおこないました。

研究領域

1. 精神医学
2. 研究課題及び概要

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

自己評価

資格取得しました。

大学内運営

- 1) 教育研究委員

社会貢献

- 1) 京都大学一講師
- 2) 米国 Psychological Reports-Associate Editor

個人情報

1. 氏名：渡邊 悟
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、心理査定
2. 学部授業担当科目
前期：心理学実験、老年心理学
後期：心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール、卒論指導

大学院

- 前期：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ
 - 後期：臨床心理査定実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、産業・労働分野の理論と支援の展開
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文 1名
 4. 自己評価：毎講義時、教科書の内容やそれに関連した図表・写真を掲載したスライドを作成するとともに、同スライドを印刷して補助教材（プリント）として活用し、学生の授業内容の理解に役立てた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学、心理査定
2. 研究課題及び概要
非行・犯罪臨床における心理査定のあり方～変化への動機づけが乏しい非行・犯罪臨床の対象者に対して、面接や心理検査を通じて、自己理解を促すための方策を検討する。

令和元年度分 研究業績一覧

1. 論文

- 1) 渡邊 悟 暮らしの中の心理臨床 少年非行 第1部 事例偏／第4章 司法少年鑑別所（法務少年支援センター）. 福村出版） p.102-106（2019.6）
- 2) 渡邊 悟 暴力的犯罪者の治療的アセスメント：悪に対する文化的なナラティブをうまく取り扱う. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌 第23巻第1号 p.52-55（2019.10）

2. 学会発表

該当なし

3. 学会等主催研修会出席

- 1) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第25回大会（2019.7）
- 2) 日本犯罪心理学会第2回全国研修会（2019.7）
- 3) 一般社団法人 日本臨床心理士会定例研修会（2019.10）

4. 知的財産権の出願・資格取得状況

- 1) 公認心理師資格取得・登録（2019.2）
- 2) ストレスチェック実施者資格取得（2019.6）

5. 令和元年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価：査読論文はないものの、授業の準備に追われる中、書籍の分担執筆や学会出席等により、自己の専門性の向上を図った。

大学内運営

- 1) 就職支援委員
- 2) 徳島文理大学心理相談室相談員
- 2) 心理学科入学試験面接官

- 3) 専攻科入学試験問題作成
- 4) 心理学科 1～4年生のチューター
- 6) オープンキャンパスでの学科説明・模擬授業
- 7) 沖縄保護者会での保護者との面談

社会貢献

- 1) 一般社団法人 日本公認心理師協会 司法犯罪分野委員会委員長
- 2) 一般社団法人 日本臨床心理士会 司法矯正領域委員会副委員長
- 3) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会副会長
- 4) 日本犯罪心理学会編集委員
- 5) 徳島少年鑑別所地域援助業務アドバイザー
- 6) 一般財団法人 日本心理研修センター現任者講習会での講義 (2019. 11)
- 7) 一般社団法人 日本臨床心理士会新規資格取得者研修会での講義 (2019. 5)
- 8) 徳島県臨床心理士会研修会での講義 (2019. 11)
- 9) 長崎県臨床心理士会研修会での講義 (2019. 12)
- 10) 矯正研修所法務技官 (心理) 基礎科研修での講義 (2019. 7)
- 11) 矯正研修所法務技官 (心理) 応用科研修での講義 (2019. 12)
- 12) 松江少年鑑別所拡大研究会での講義 (2019. 10)

編集後記

令和元年度の教育・研究年報作成にあたりましては、年度末の大変お忙しい中ご協力を頂きまして発刊できますこと、心より御礼を申し上げます。

人間生活学部はそれぞれ分野の異なる 6 学科から構成されており、教員間の交流はあまり多いとは言えません。この年報を通じまして、それぞれの先生方のご講義・ご研究や社会貢献等の活動を知っていただくとともに、教員相互の理解が深まることを願っております。また、人間生活学部における自己点検・自己評価および各種 FD 活動の推進に貢献することが出来ましたら幸いです。

全学 FD 研究部会での検討に基づき、平成 31 年度からはこれまでのマークシート式の授業評価アンケートに替えて、PC・スマートフォン等から学生が入力を行う新しい形式の全学授業アンケート導入され、本学における授業評価には大きな変化が見込まれております。令和 2 年度も引き続き、各先生方ならびに関係の事務職員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

徳島文理大学人間生活学部 令和元年度 自己点検・自己評価委員会	
人間生活学科	竹原 明美
食物栄養学科	小川 直子
児童学科	岡 直樹
メディアデザイン学科	山城 新吾
建築デザイン学科	池田 文夫 (委員長)
心理学科	藤崎 ちえ子

令和 2 年 4 月吉日

編集責任者：池田文夫